

潮来市
障がい福祉に関するアンケート
結果報告書

◇◆ 集計分析結果 ◆◇

令和2年9月
潮来市

目次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の概要	1
1-1 調査の目的	1
1-2 調査対象者と回収結果	1
1-3 回答者の基本属性	3
第2節 調査結果の特徴	4
第2章 アンケート結果	11
第1節 障がいの状況について	11
1-1 手帳・受給者証の種類	11
1-2 障害者手帳所持者の状況	13
1-3 医療機関の受診状況	15
第2節 障害福祉サービスについて	16
2-1 障害福祉サービスの利用状況	16
2-2 障害福祉サービスの満足度	21
第3節 教育や就労、日中の過ごし方について	22
3-1 平日の昼間の過ごし方	22
第4節 外出や社会参加について	26
4-1 ひとりでの外出	26
4-2 外出の頻度と今後の希望	27
4-3 楽しみや生きがい	29
4-4 文化芸術・スポーツ活動への参加	30
4-5 地域や社会に参加しやすい環境づくり	31
第5節 相談・情報提供について	33
5-1 困りごとの相談先	33
5-2 相談や情報収集するときに困ること	34
第6節 災害対策について	36
6-1 一人での避難	36
6-2 災害時の心配ごと	37
6-3 災害に対する日ごろの備え	38
第7節 障がいのある方が安心して暮らせる地域づくりについて	40
7-1 障がいがあることでの差別	40
7-2 障害者差別解消法の認知度	42
7-3 障がいのある方への市民の理解	43
7-4 障害のある方に対する地域づくり	44
7-5 現在の暮らしと将来の希望	45
7-6 将来の生活の不安	47
7-7 成年後見制度の理解と今後の利用意向	48

第8節 潮来市の障がい福祉の取り組みについて.....	50
8-1 障がい福祉の取り組みの満足度.....	50
8-2 障がい福祉の重点.....	55
資料編.....	57
1 アンケート集計表.....	57
2 自由記述.....	70

第1章 調査の概要

第1節 調査の概要

1-1 調査の目的

この調査は、「第3次潮来市障害者計画」の中間年の見直しと「第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画」の策定にあたり、障がいのある方の日常生活の状況および障害福祉サービス等の利用状況・利用意向等を把握することにより、今後の施策展開を図るための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査対象者と回収結果

以下の対象者に共通のアンケート票を作成し、郵送配布・回収した。本調査の調査対象及び配付、回収状況は、下表のとおりである。

■調査の実施概要

区 分	内 容
調査対象者	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者、指定難病特定医療費受給者証等所持者、障害福祉サービス（児童）受給者証所持者 合計1,406人
調査方法	郵送による配付・回収
有効回答数	有効回収数 801人 (57.0%)
実施時期	令和2年7月14日（火）～7月31日（金）まで

障害種別の傾向を見る際、「問6：障がいの種類（手帳等）」の回答をもとに、以下のように整理して分析を行った。

■本調査における分析上の障がいの種類

区 分	回収数	総数に占める割合 (それぞれ重複者含む)
全体（総数）	801人	100%
身体障害者手帳所持者	511人 (うち重複者47人)	63.8%
療育手帳所持者	117人 (うち重複者39人)	14.6%
精神障害者保健福祉 手帳所持者	68人 (うち重複者16人)	8.5%
指定難病特定医療費 受給者証等所持者	93人 (うち重複者25人)	11.6%
障害福祉サービス (児童)受給者証所持者	41人	5.1%
無回答	45人	5.6%

注) 障害福祉サービス（児童）受給者証所持者は、上記のいずれかの障がいに含まれる場合がある。

◆結果報告書を見る際の注意

- ① 各設問の集計は、すべて単純集計、属性別（フェースシート）クロス集計を行った。
- ② 比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。したがって、合計が100％を上下する場合もある。
- ③ 回答者総数（n）は、100％が何人の回答に相当するかを示す。
- ④ 《複数回答》と記入してあるのは、1回答者が2つ以上の回答をすることができる質問である。このときの回答の計は回答者数（100％）を超える。
- ⑤ 図表および文章中で、選択肢を一部省略、並び替えをしている。

※「障がい」と「障害」の表記について

このアンケートは、障がいの「害」という漢字の表記について、法律等で規定されている名称や引用、施設名等の固有名詞を除き、可能な限りひらがなで表記している。そのため、「がい」と「害」の字が混在する表現になっています。

1-3 回答者の基本属性

(1) 調査票の記入者

- アンケートの回答者は「本人」が 64.9%、「家族（本人の意向で記入）」が 25.5%である。

○調査票の記入者	人	%
回答者総数	801	(100.0)
本人	520	(64.9)
家族（本人の意向で記入）	204	(25.5)
施設・病院（本人の意向で記入）	38	(4.7)
その他（本人の意向で記入）	4	(0.5)
無回答	35	(4.4)

(2) 性別

- 「男性」が 49.2%、「女性」が 49.3%である。

○性別	人	%
回答者総数	801	(100.0)
男性	394	(49.2)
女性	395	(49.3)
無回答	12	(1.5)

(3) 年齢別

- 「75歳以上」が 31.3%、「65～74歳」が 24.6%で、高齢者が 55.9%を占める。

○年齢別	人	%
回答者総数	801	(100.0)
0～6歳	8	(1.0)
7～18歳	22	(2.7)
19～29歳	53	(6.6)
30～39歳	46	(5.7)
40～49歳	76	(9.5)
50～64歳	138	(17.2)
65～74歳	197	(24.6)
75歳以上	251	(31.3)
無回答	10	(1.2)

(4) 障がいの種類

- 「身体障害者手帳」所持者が 63.8%で高い。

○障がいの種類 ※それぞれ重複者を含む	人	%
回答者総数	801	(100.0)
身体障害者手帳	511	(63.8)
療育手帳	117	(14.6)
精神障害者保健福祉手帳	68	(8.5)
指定難病特定医療費受給者証等	93	(11.6)
障害福祉サービス（児童）受給者	41	(5.1)
無回答	45	(5.6)

第2節 調査結果の特徴

第1節 障がいの状況について

◇障がい種別によって、年齢構成は大きく異なっている。

- 回答者の障がい種別は、「身体障害者手帳」所持者が全体の63.8%を占めており、「療育手帳」及び「精神障害者保健福祉手帳」「指定難病特定医療費受給者証等」所持者がそれぞれ約1割ずつの回答であった。注)重複障がいを含む。
- 手帳・受給者証所持者の年齢構成をみると、身体障がいは「75歳以上」が42.3%、次に「65～74歳」が29.9%で合わせると65歳以上が7割を超える。また、知的障がいは「19～29歳」が23.1%で最も高い。精神障がいは「40～49歳」が26.5%で最も高い。難病患者は「65～74歳」が32.3%で高く、障がい種別によって年齢構成が大きく異なる。
- 障害者手帳所持者の状況をみると、身体障害者手帳所持者は「1級」が高く、「上肢、下肢障がい・体幹、運動機能障がい」と「内部障がい」で約8割を占める。療育手帳所持者は、「マルA」から「C」まで各等級とも2～3割ずつを占める。精神障害者保健福祉手帳所持者は、「2級」が63.2%で最も高い。
- 主な障がいや難病の治療に関して、最近6か月の医療機関の受診状況は、「主に通院」が7割で高く、「入院・通院ともしていない」が2割である。また、知的障がいは「入院・通院ともしていない」が41.9%で高い。

第2節 障害福祉サービスについて

◇障害福祉サービスの利用は、前々回が19.0%、前回は24.6%、今回調査は27.3%で、利用の割合が増加。サービスに「満足」が7割で、前回調査と同様である。

- 『障害福祉サービス』の利用状況をみると、全体で「利用している」が27.3%で、前回調査の24.6%と比べて2.7ポイント増加した。また、知的障がいの方だけでみると、障害福祉サービスを「利用している」人の割合が61.5%で特に高い。また、身体障害者手帳所持者は利用者自体は多いが、身体障害者手帳所持者に占める利用割合は21.7%に止まる。
- 最も利用されている『障害福祉サービス』は、身体障がいは「療養介護、生活介護、施設入所支援」が31.5%である。知的障がいも「療養介護、生活介護、施設入所支援」が43.1%で高い。精神障がいは「就労移行、就労継続、就労定着支援」が45.5%で高い。
- 今後利用したい『障害福祉サービス』をみると、精神障がいは「就労移行、就労継続、就労定着支援」に加え、「自立生活援助」が比較的高い。
- 現在利用している『障害福祉サービス』の満足度は、全体では「満足」と「ほぼ満足」を合わせると7割で、前回調査とほぼ同様である。

第3節 教育や就労、日中の過ごし方について

◇身体障がいと難病患者は自宅で過ごす人が多くを占める。働いている人は、このまま続けたいが多く、働きやすい環境づくりとして「企業の障がい者雇用に対する理解」が高い。

- 平日の過ごし方をみると、身体障がいと難病患者は「自宅で過ごしている」が最も高い。その一方で、知的障がいは「施設に入所」と「就労訓練を受けながら働いている」、「幼稚園や保育園、通園施設、学校など」が高い。
- 児童・生徒に保育や教育について望むことは、「卒業後の情報や進路指導の充実」が57.4%で前回調査と同様に高い。次に「周りの子どもの障がいに対する理解」が続く。
- 働いている人は「このまま仕事をしたい、続けたい」が9割以上を占める。また、働きやすい環境づくりは「企業の障がい者雇用に対する理解」が最も高い。

第4節 外出や社会参加について

◇地域や社会に参加しやすくするためには「利用しやすい施設の改善」が最も高く、次に「交通機関の利便性の向上」や「移動のためのサポートの確保」が求められる。

- 一人で外出できる人が全体の54.7%で前回調査と同様であるが、知的障がいの方は「付き添いがあれば外出できる」が64.1%で特に高い。
- 外出の頻度は、全体で「ほとんど毎日」が31.7%で高いが、「月に数日くらい」と「ほとんど外出しない（外出できない）」がそれぞれ2割程度である。また、知的障がいは「ほとんど毎日」が57.3%で特に高い。一方で、外出の機会を「もっと増やしたい」と考えている人が22.1%である。
- 楽しみや生きがいを持って生活している人が全体の63.7%で、前々回や前回調査と比べて増加した。障がい種別でみると、精神障がいの方は楽しみや生きがいを持って生活しているとの回答が6割を下回っており他の障がいよりも低い。
- 文化芸術・スポーツ活動に「参加している」人は全体で14.2%に止まり、前回調査と比べて0.9ポイント減少した。また、難病患者は「参加したいができない」が17.2%で他の障がいと比べてやや高い。
- 地域や社会に参加しやすくするためには、「利用しやすい施設の改善」が最も高く、次に「交通機関の利便性の向上」や「移動のためのサポートの確保」が続く。

第5節 相談・情報提供について

◇「どこに相談すればよいかわからない」が、前回調査と比べて減少した。

- 困りごとの相談先は、精神障がいと難病患者は「病院・医院」が特に高い。知的障がいは「障害福祉サービスを提供する事業所」が36.8%で高い。また、「市役所の窓口」も比較的高い。
- 相談や情報収集で、知的障がいは「どこに相談すればよいかわからない」が高い。精神障がいは「しっかり相談にのってもらえるか不安」が最も高い。また、「どこに相談すればよいかわからない」が今回調査は26.6%で、前回調査と比べて5.6ポイント減少した。

第6節 災害対策について

◇災害時の心配ごとは「避難場所の設備や生活環境が不安」が高い。災害に対する日ごろの備えは「家族や友人との緊急連絡手段」が高い。

- 火事や地震などの災害時に「一人で避難できず、助けてくれる人もいない」が、全体の7.1%である。
- 災害時の心配ごとは、それぞれの障がいとも「避難場所の設備や生活環境が不安」が高い。特に、精神障がいと難病患者は「投薬や治療が受けられない」が高い。
- 災害に対する日ごろの備えは、「家族や友人との緊急連絡手段」が高く、「とくにない」が前回より5.6ポイント減少した。また、難病患者は「避難場所や避難経路の確認」や「非常用持出袋の用意」が他の障がいよりも高い。

第7節 障がいのある方が安心して暮らせる地域づくりについて

◇障がいがあることで差別や嫌な思いをした経験を3割がしている。特に、知的障がいと精神障がいの方が高い。

- 障がいがあることでの差別や嫌な思いをした経験が「ある(あった)」が30.3%である。特に、知的障がいは55.6%、精神障がいは51.5%で、他の障がいよりも高い。
- 嫌な思いを感じた場所は、知的障がいは「買い物やレジャーの外出先」が最も高く、次に「学校などの教育の場」が続く。精神障がいは「会社などの就労の場」や「近所づきあい」が高い。
- 障害者差別解消法について「知らなかった」が全体の58.7%で、前回調査と比べて3.3ポイント増加している。
- 障がいのある方への市民の理解は、「高い」が21.2%に対し「低い」が64.0%を占める。特に、精神障がいの方は特に市民の理解が低いと感じている。また、障がいのある方に対する地域づくりについても、「進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせて20.3%に止まる。
- 全体の7割以上が、現在「家族と一緒に」の暮らしである。知的障がいは、現在の暮らしと比べて将来は「仲間と一緒に(グループホーム)」が高い。また、精神障がいは、現在の暮らしよりも将来は「ひとり暮らし」が高く、また「福祉施設」も比較的高い。
- 将来の生活の不安は、身体障がいは「健康のこと」が49.9%で最も高く、難病患者も55.9%で高いほか、「医療のこと」も36.6%で高い。また、知的障がいは「親に先立たれること」が最も高い。精神障がいは「生活費のこと」が最も高い。
- 成年後見制度の理解について「名前も内容も知っている」が全体の24.0%で、前回調査と比べて違いは見られない。また、成年後見制度の利用意向は、知的障がいは「今は必要ないが将来は利用したい」が35.0%で特に高い。今回、制度を「すでに利用している」が2.2%、「今は必要ないが将来は利用したい」が20.0%で、前回調査と比べると若干増加した。

第8節 潮来市の障がい福祉の取り組みについて

◇『ケ. 健康相談、健康診査』や『ス. 相談窓口の使いやすさ』の満足が比較的高い。

➤潮来市の障がい福祉の取り組みについて、加重平均値でみると『ケ. 健康相談、健康診査』や『ス. 相談窓口の使いやすさ』が前回調査と同様に比較的満足が高い。

➤4段階評価の平均点で満足度をみると、特に『障がい児への保育・療育』や『健康相談、健康診査』の評価が前々回、前回比べて特に上がった。また、『学校等の福祉教育』や『障がい児の学校教育』も上がっている。さらに、障がい福祉全体の満足度の平均点も上がっている。（「満足度」の4段階評価については、52ページを参照ください。）

➤障がい福祉の重点は、全体で「年金や手当の充実」が55.6%で最も高く、次に「障がいに配慮した住宅や建物、交通機関」や「障がいの理解を深める啓発・広報」が続いている。また、知的障がいや精神障がいは「障がいの理解を深める啓発・広報」や「障がいのあるかたの働く場の充実」が比較的高い。

図 障がい福祉の満足度①【加重平均値】

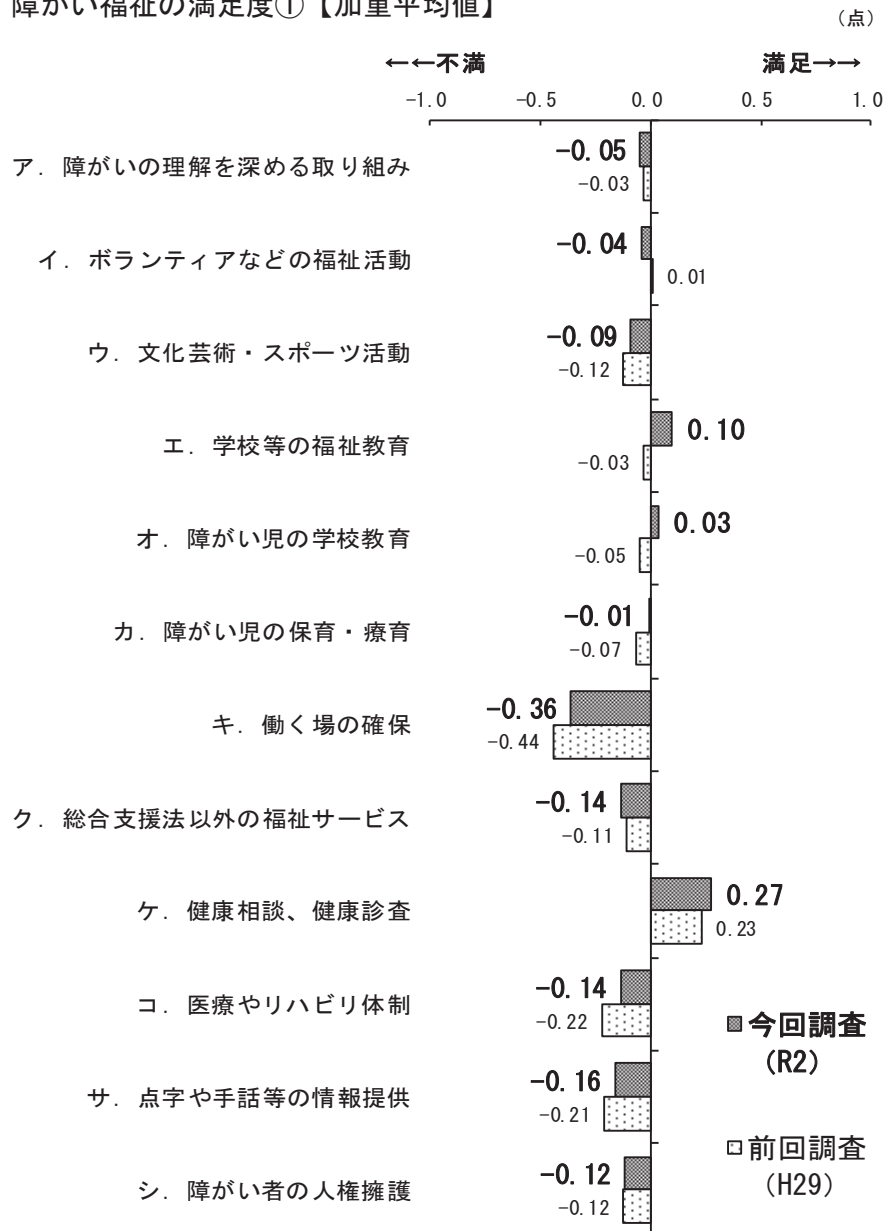
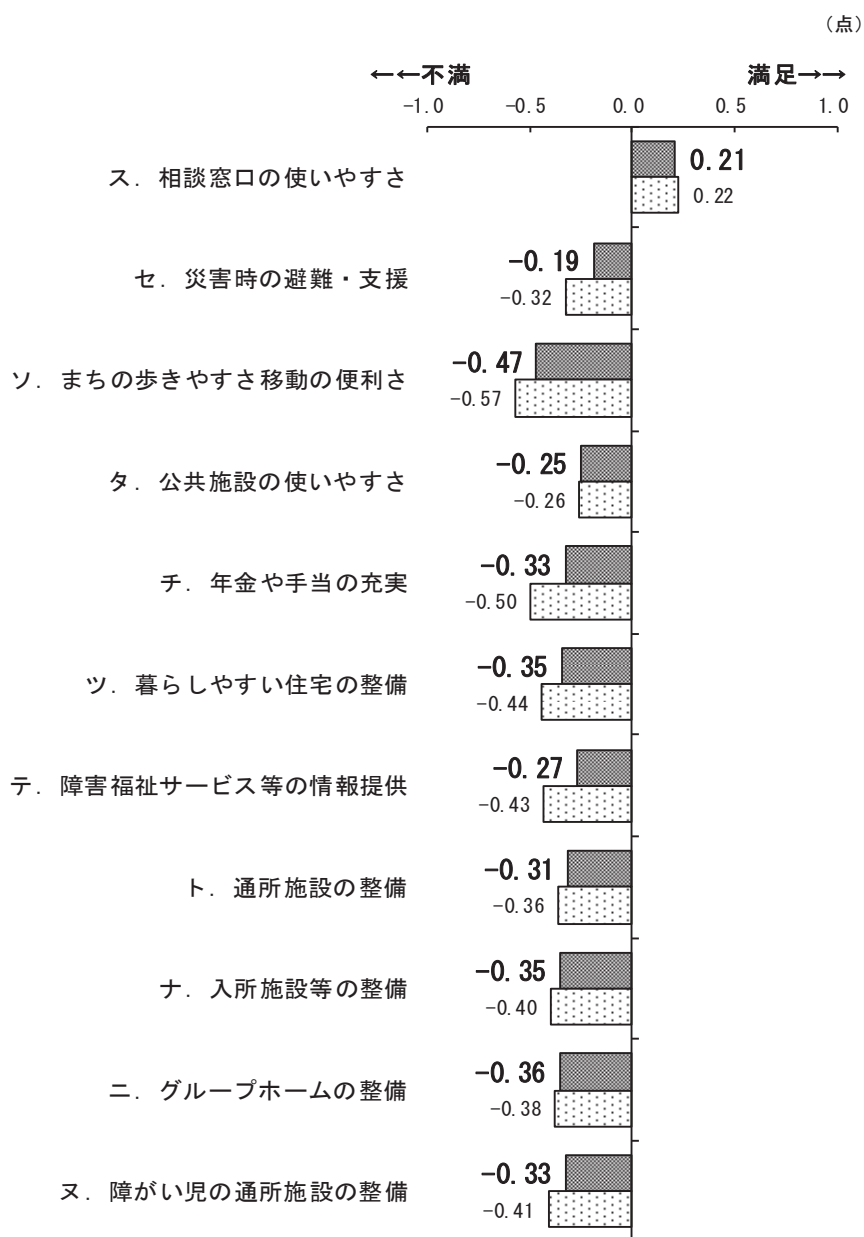


図 障がい福祉の満足度②【加重平均値】



注) 「満足度」の加重平均値の算出方法については、51 ページを参照ください。

第2章 アンケート結果

第1節 障がいの状況について

1-1 手帳・受給者証の種類

「身体障害者手帳」が63.8%。

回答者の手帳や受給者証の種類をみると、「身体障害者手帳」が63.8%で高い。

また、「療育手帳」が14.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が8.5%、「指定難病特定医療費受給者証等」が11.6%、「障害福祉サービス（児童）受給者証」が5.1%である。

注）それぞれ重複者を含む。

【年齢別（全体）】

障がいのある方の年齢をみると、「75歳以上」が31.3%で最も高く、次に「65～74歳」が24.6%で続く。

図 手帳・受給者証の種類（問6）
《複数回答》

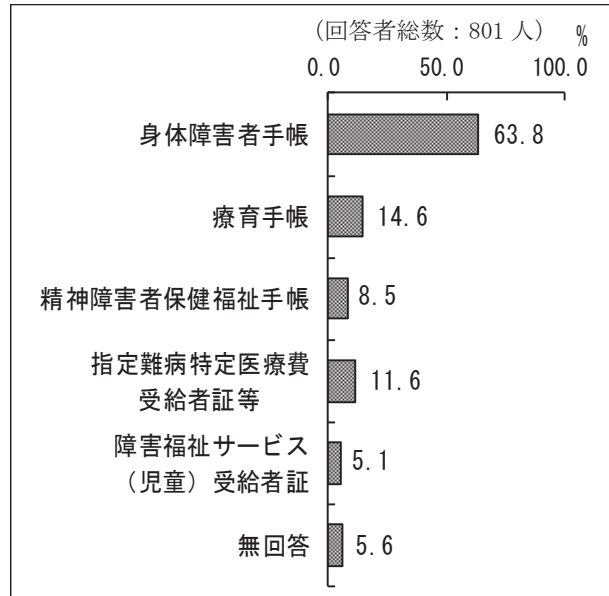
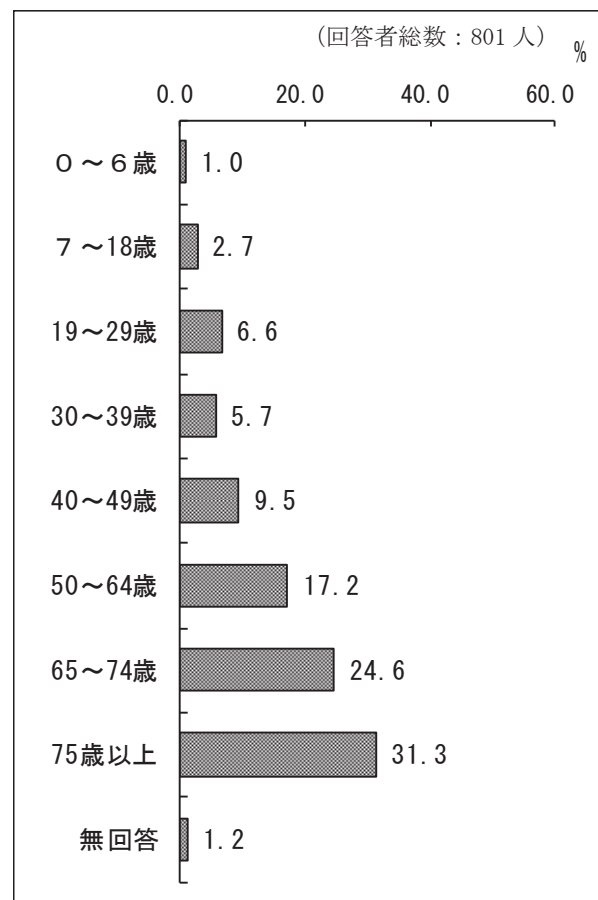


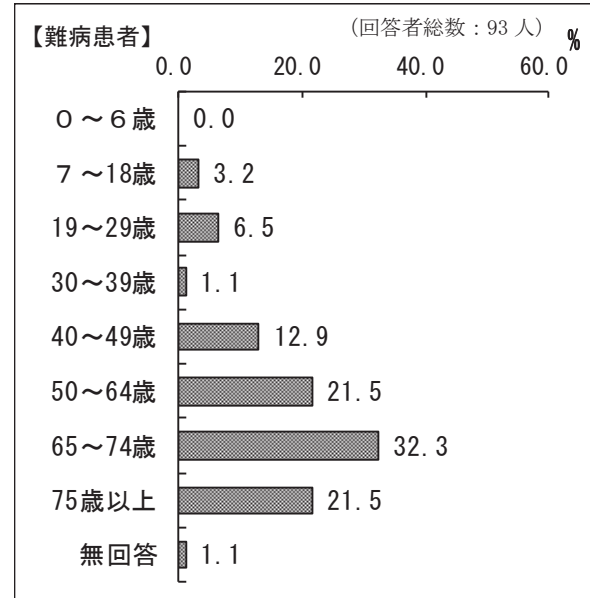
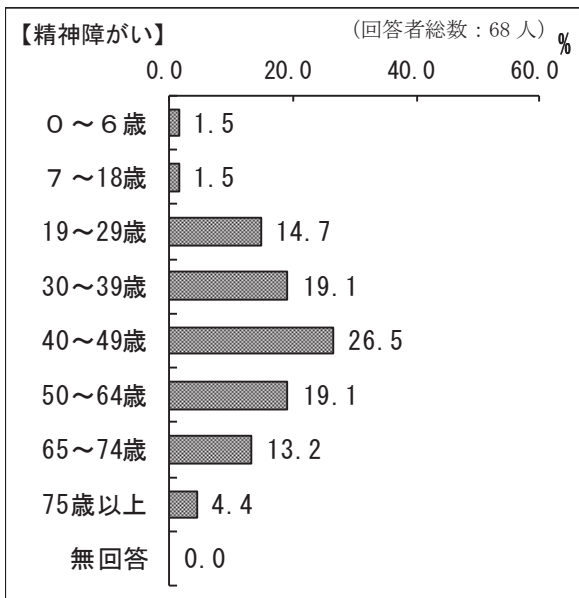
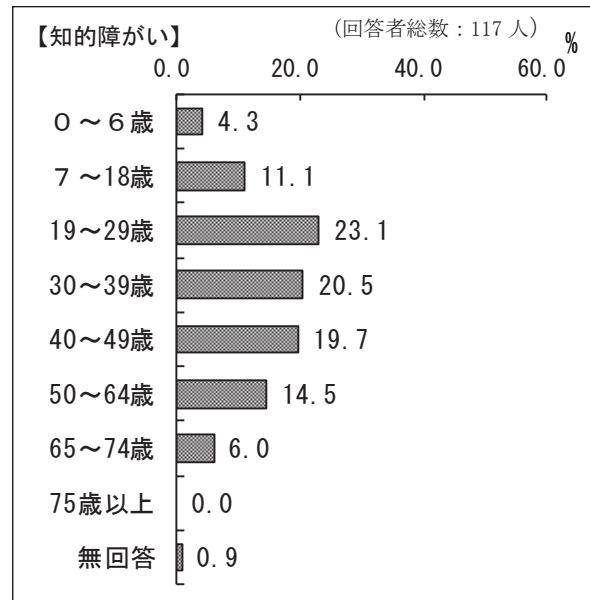
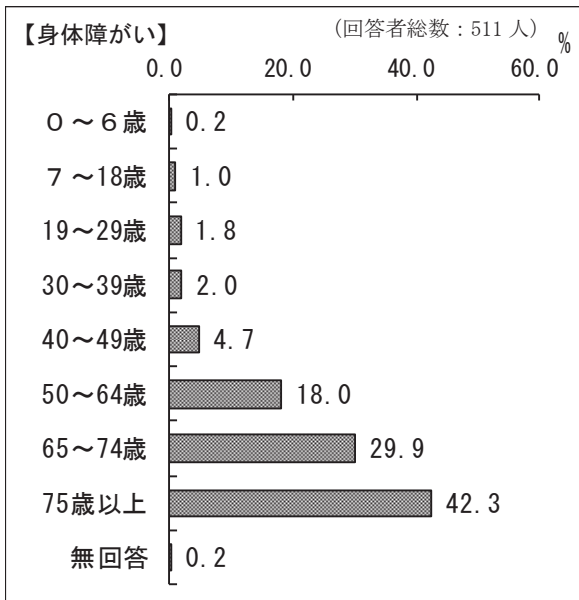
図 手帳・受給者証所持者の年齢（問3）



【年齢別（手帳・受給者証別）】

障がいのある方の年齢をみると、“身体障がい”は「75歳以上」が42.3%で最も高い。“知的障がい”は「19～29歳」が23.1%、“精神障がい”は「40～49歳」が26.5%、“難病患者”は「65～74歳」が32.3%で最も高い。

図 年齢別（問6）



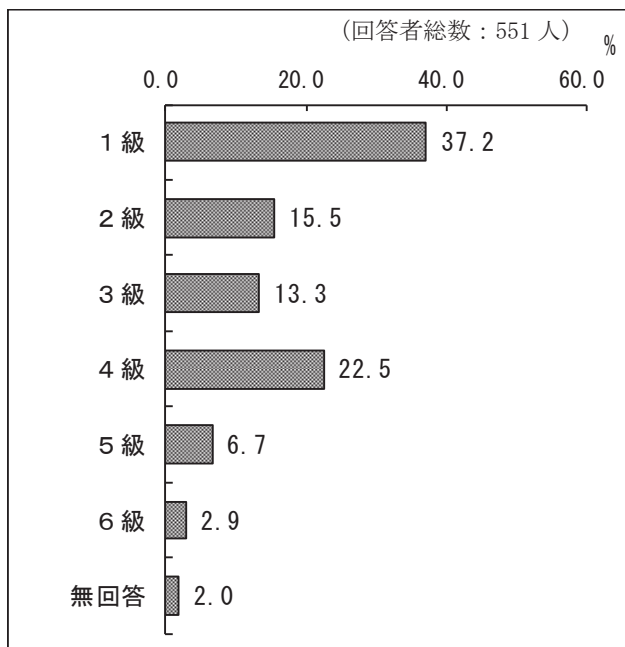
1-2 障害者手帳所持者の状況

(身体障害者手帳所持者)

「1級」、「上肢、下肢障がい・体幹、運動機能障がい」が最も高い。

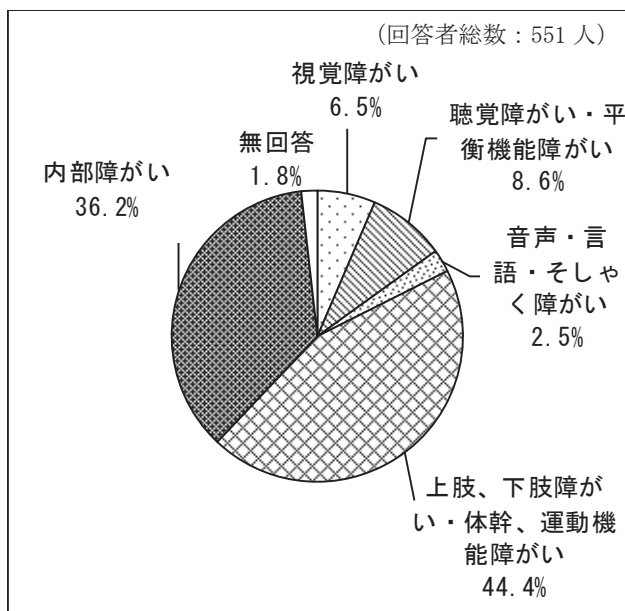
身体障害者手帳所持者の等級をみると、「1級」が37.2%で最も高い。

図 身体障害者手帳の等級（付問6）



主な障がいの種類をみると、「上肢、下肢障がい・体幹、運動機能障がい」が44.4%で高く、次に「内部障がい」が36.2%である。

図 主な障がい（付問6）

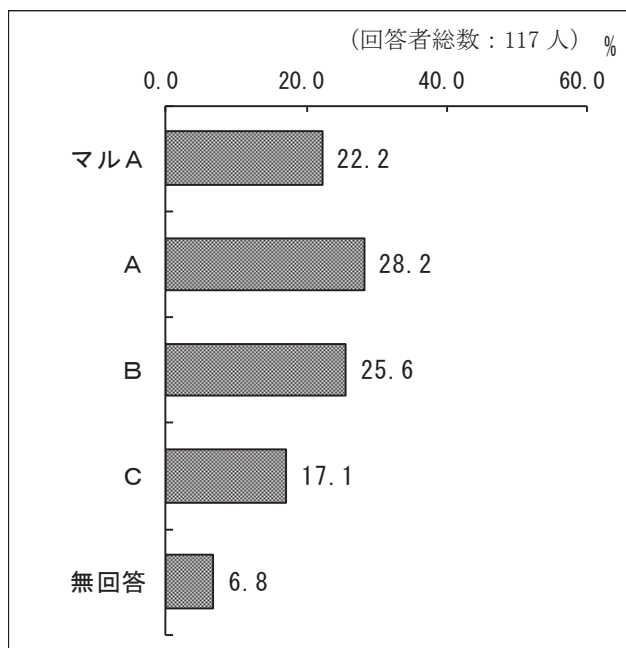


(療育手帳所持者)

「A」が28.2%で高い。

療育手帳所持者の等級をみると、「A」が28.2%で最も高い。

図 療育手帳の等級 (付問6)

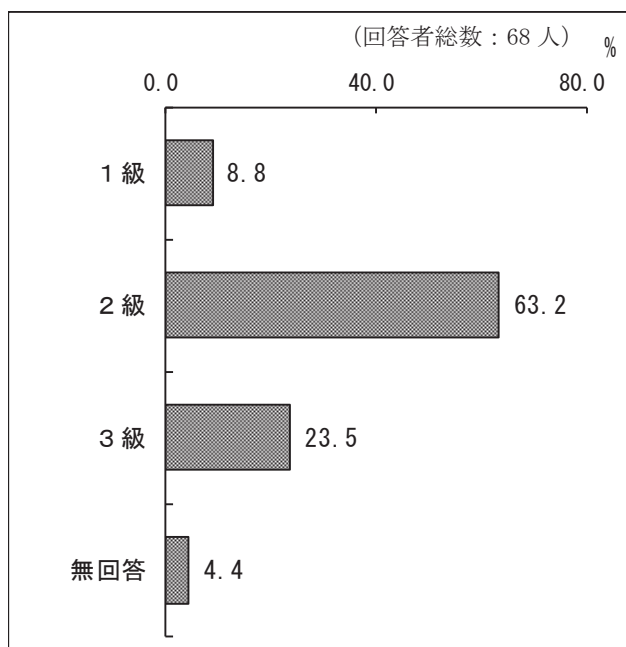


(精神障害者保健福祉手帳所持者)

「2級」が63.2%で高い。

精神障害者保健福祉手帳の等級をみると、「2級」が63.2%で最も高い。

図 精神障害者保健福祉手帳の等級 (付問6)



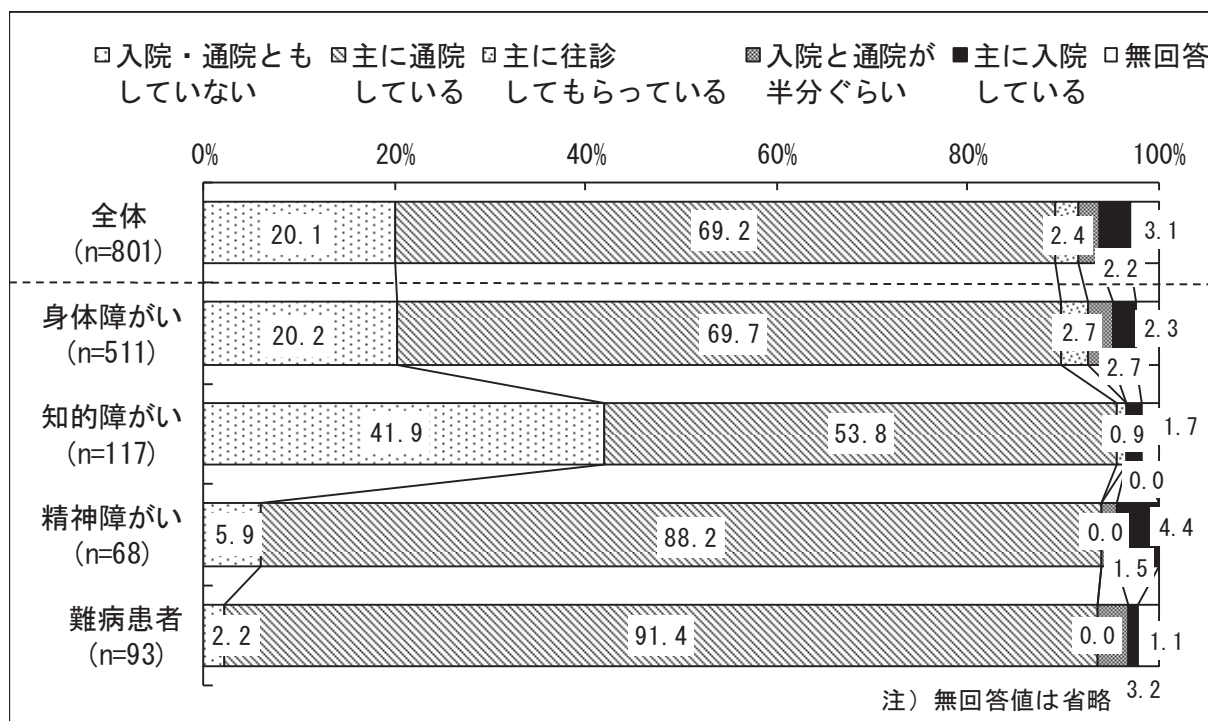
1-3 医療機関の受診状況

「主に通院している」が69.2%で最も高く、次に「入院・通院ともしていない」が20.1%。

主な障がいや難病（特定疾患）の治療に関して、最近6か月の医療機関の受診状況は、全体で「主に通院している」が69.2%で最も高く、次に「入院・通院ともしていない」が20.1%である。

障がい種別に見ると、“身体障がい”は全体と同様の傾向だが、“知的障がい”は「入院・通院ともしていない」が41.9%で高い。「主に通院している」をみると“精神障がい”は88.2%、“難病患者”は91.4%で特に高い。

図 医療機関の受診状況（問5）



第2節 障害福祉サービスについて

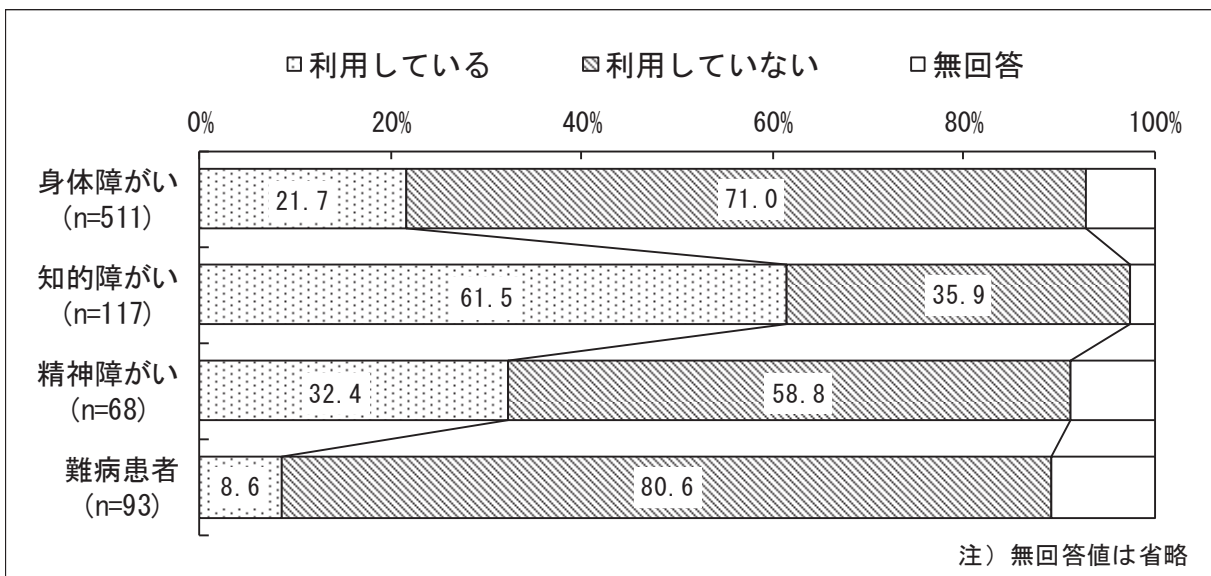
2-1 障害福祉サービスの利用状況

障害福祉サービスを「利用している」が全体の27.3%で、前回、前々回よりも増加。

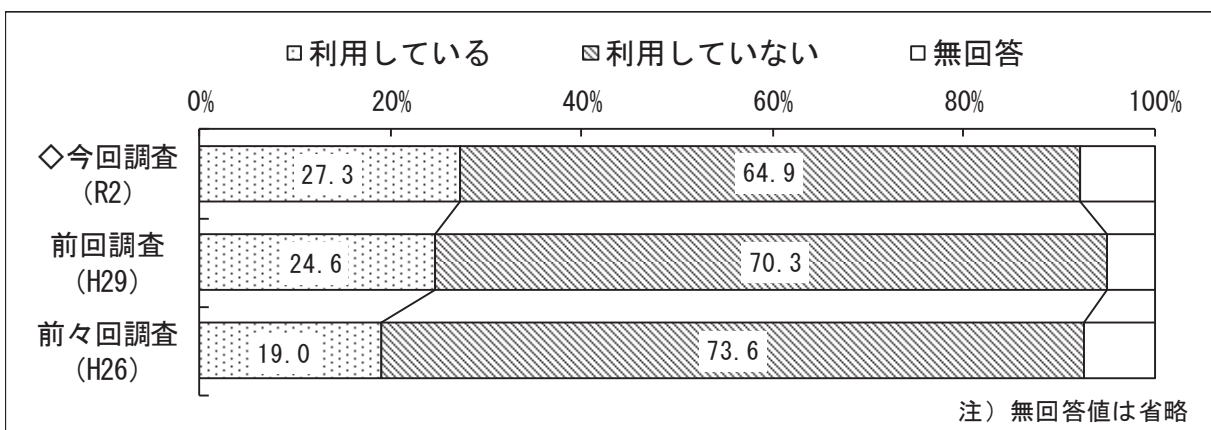
『障害福祉サービス』の利用状況を見ると、「利用している」人は、“知的障がい”が61.5%で特に高い。“身体障がい”で「利用している」人は21.7%に止まる。

経年比較をみると、今回「利用している」人が全体の27.3%で、前回調査ならびに前々回調査と比べて増加している。

図 障害福祉サービスの利用状況（問7）



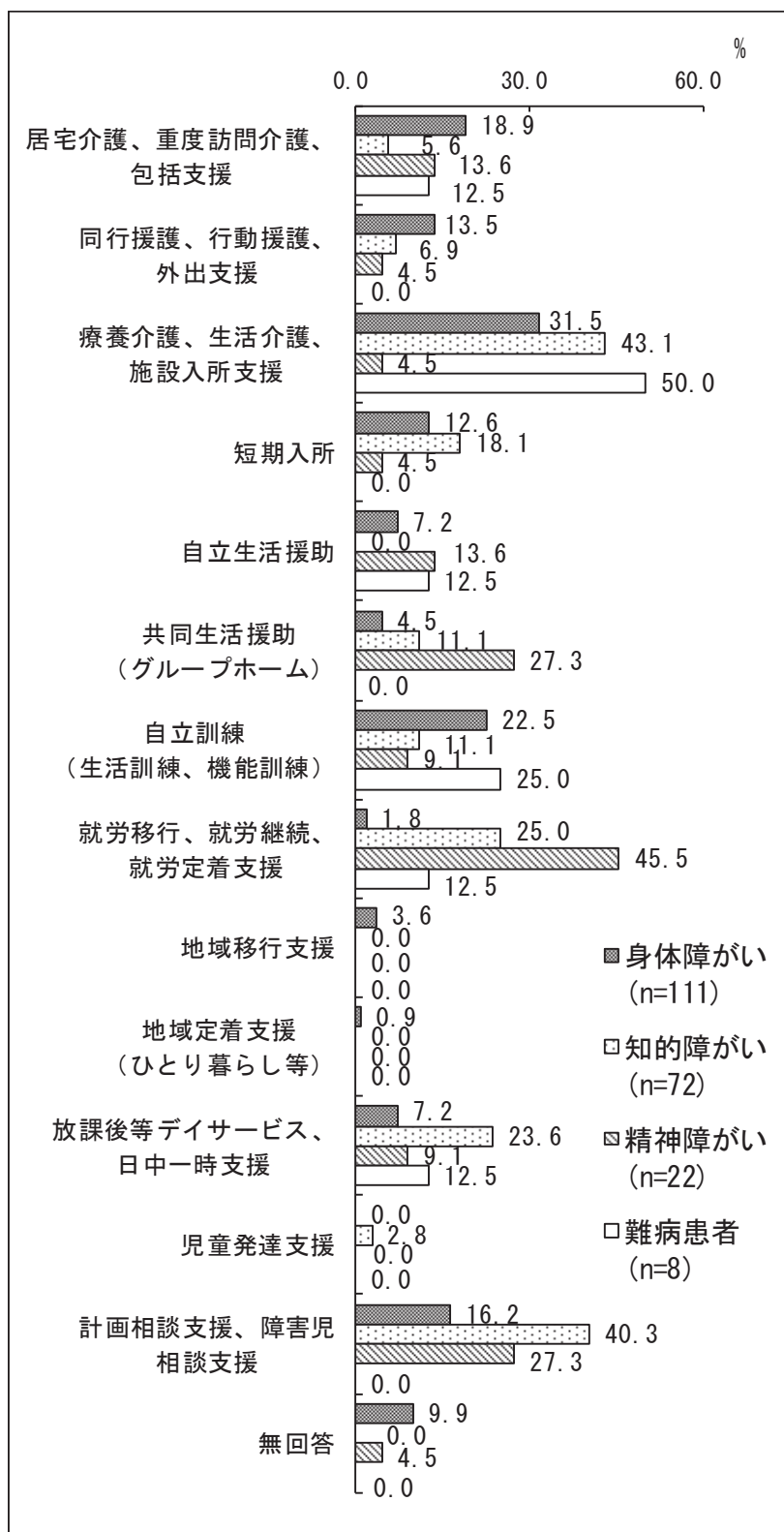
【経年比較】



(現在利用している障害福祉サービス)

利用している障害福祉サービスは、“身体障がい”は「療養介護、生活介護、施設入所支援」が31.5%で最も高く、“知的障がい”も「療養介護、生活介護、施設入所支援」が43.1%で高い。“精神障がい”は「就労移行、就労継続、就労定着支援」が45.5%で最も高い。

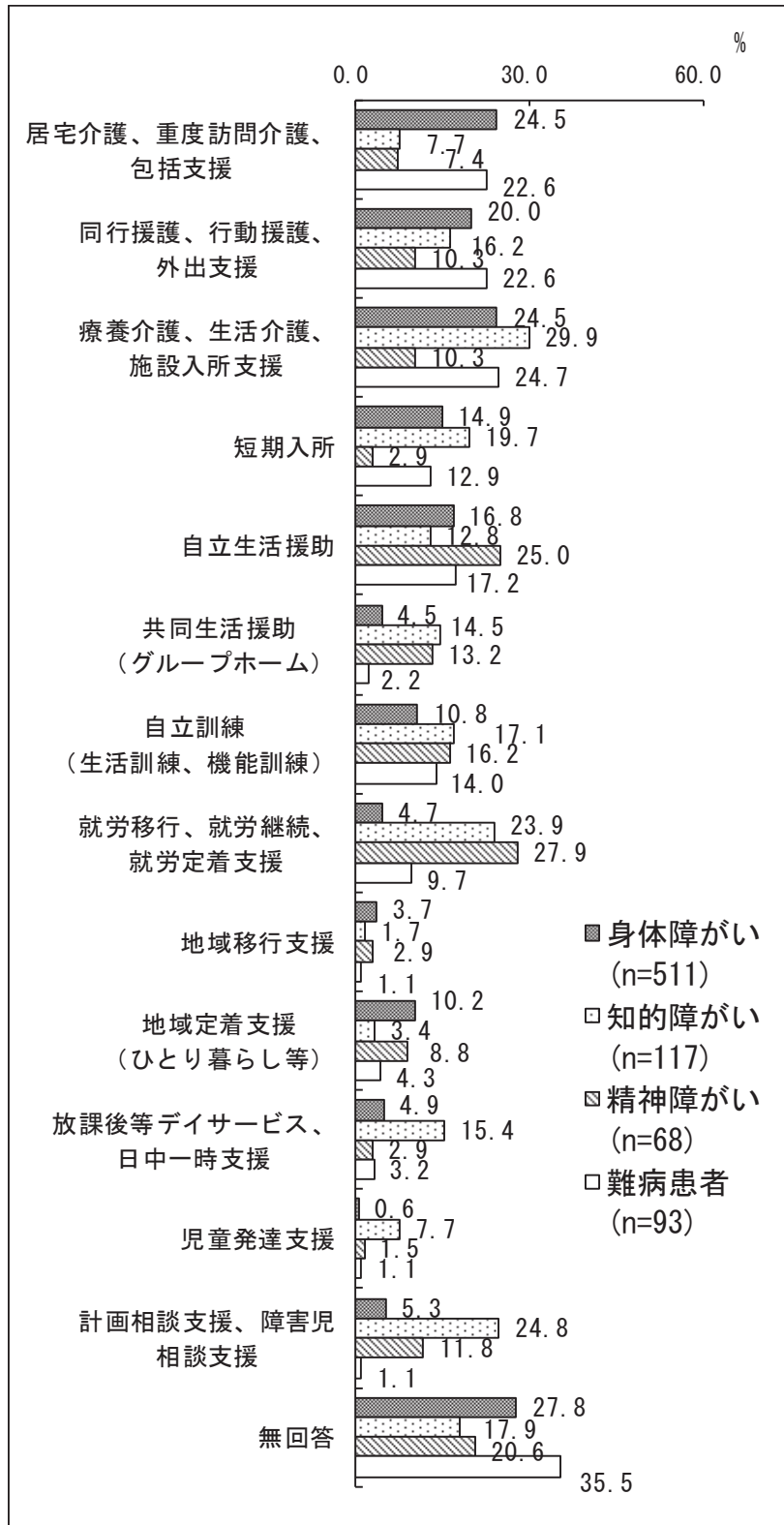
図 現在利用している障害福祉サービス (問7-1) 《複数回答》



（今後利用したい障害福祉サービス）

全員に、今後（今後も）利用したいと思う障害福祉サービスをたずねたところ、“身体障がい”は「居宅介護、重度訪問介護、包括支援」と「療養介護、生活介護、施設入所支援」がともに24.5%で高い。“知的障がい”も「療養介護、生活介護、施設入所支援」が29.9%で高い。“精神障がい”は「就労移行、就労継続、就労定着支援」が27.9%で最も高い。

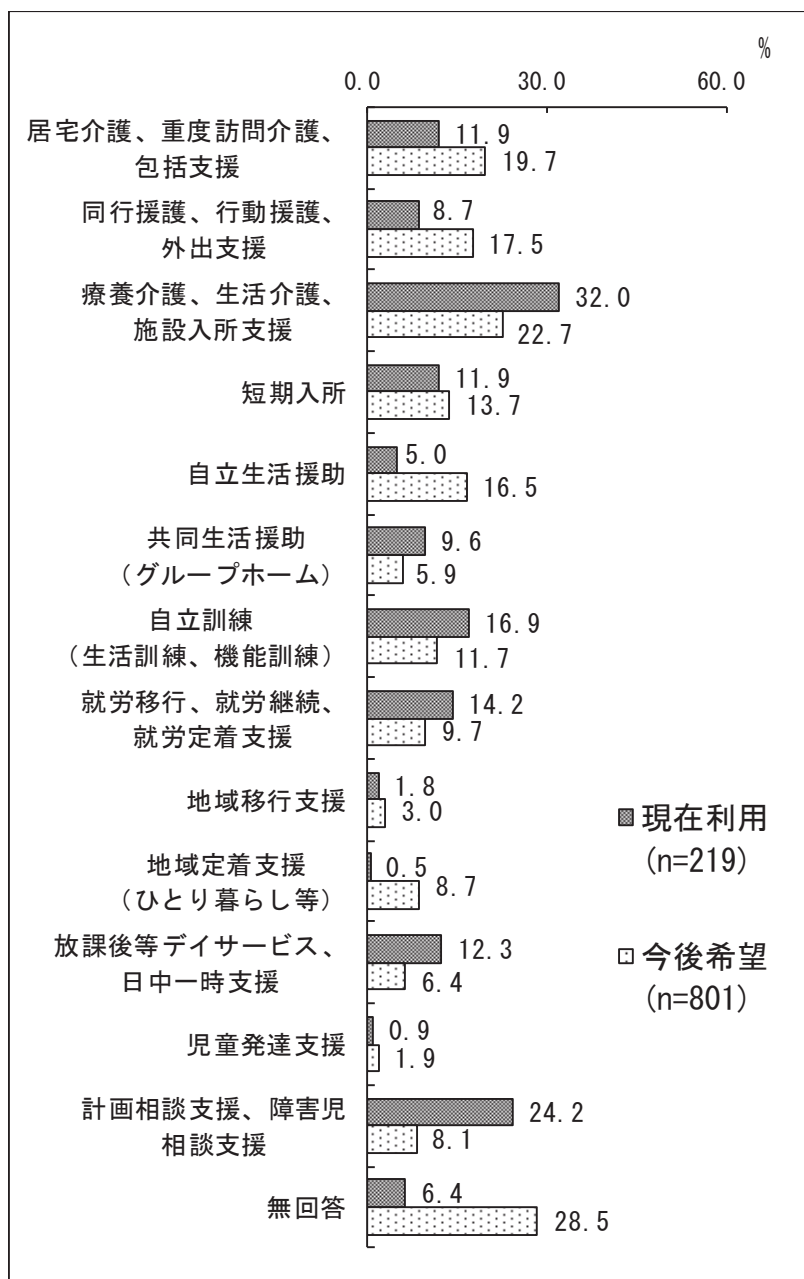
図 今後利用したい障害福祉サービス（問8） 《複数回答》



【現在の利用と今後の利用の比較（全体）】

現在、利用している障害福祉サービスと、今後利用したいサービスを比べると、特に「自立生活援助」の希望が11.5ポイント高く、「同行援護、行動援護、外出支援」の希望が8.8ポイント、「居宅介護、重度訪問介護、包括支援」が7.8ポイント高くなっている。

図 現在の利用と今後の希望（問7-1、問8） 《複数回答》



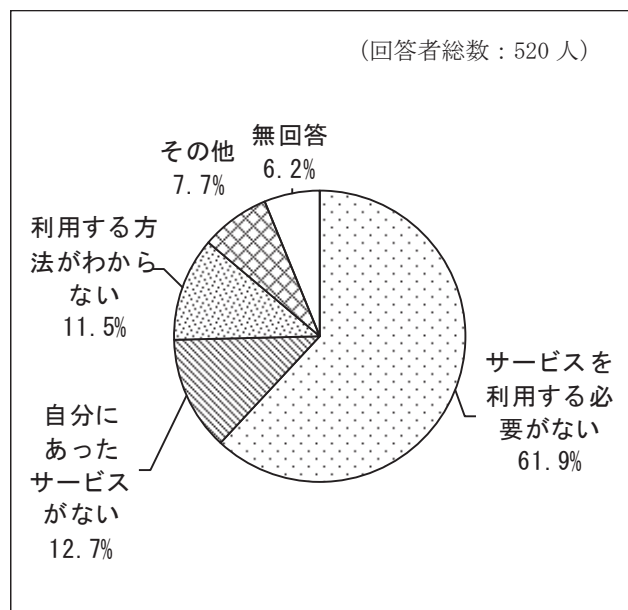
(利用していない人の理由)

障害福祉サービスを利用していない人にその理由をたずねたところ、「サービスを利用する必要がない」が61.9%で高い。

【その他の回答】

- ・入院中。
- ・家族に世話になっている。
- ・施設入所のため。
- ・デイサービスを利用している。
- ・一人で歩ける。等

図 利用していない理由 (問7-3)



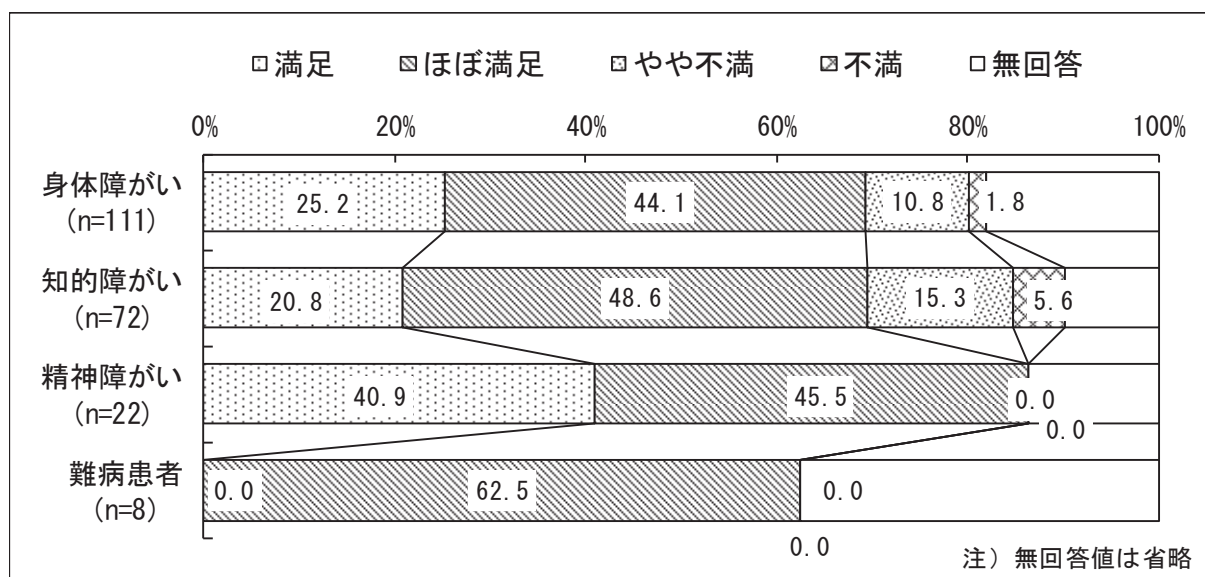
2-2 障害福祉サービスの満足度

「満足」と「ほぼ満足」を合わせると7割を占める。特に“精神障がい”は満足が高い。

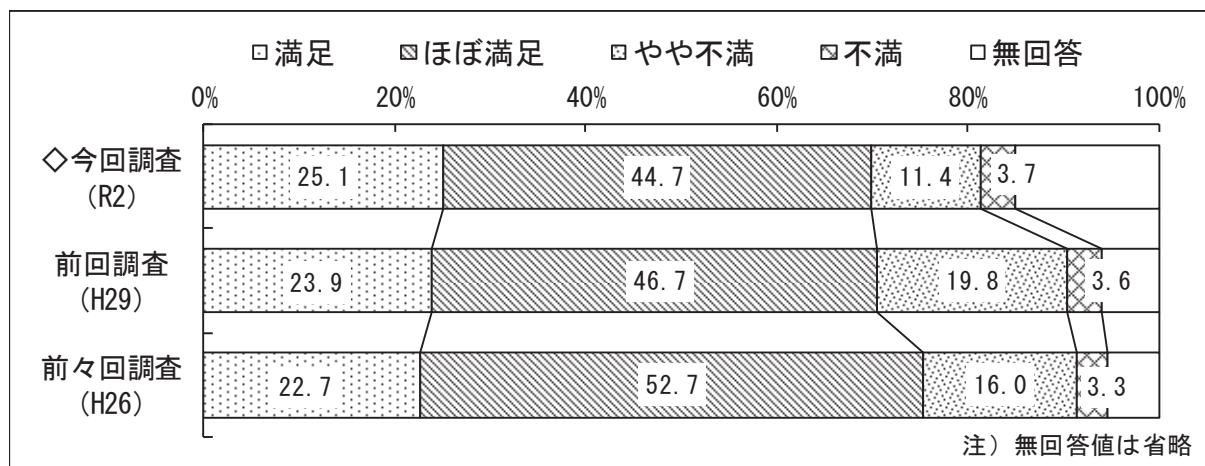
現在利用している『障害福祉サービス』の満足度をみると、“精神障がい”は「満足」と「ほぼ満足」を合わせると86.4%で特に高い。その一方で、“知的障がい”は「やや不満」と「不満」を合わせると20.9%で、他の障がいと比べて高い。

経年比較をみると、「満足」が25.1%で前回、前々回調査よりも高く、「やや不満」が減少している。

図 障害福祉サービスの満足度（問7-2）



【経年比較】



第3節 教育や就労、日中の過ごし方について

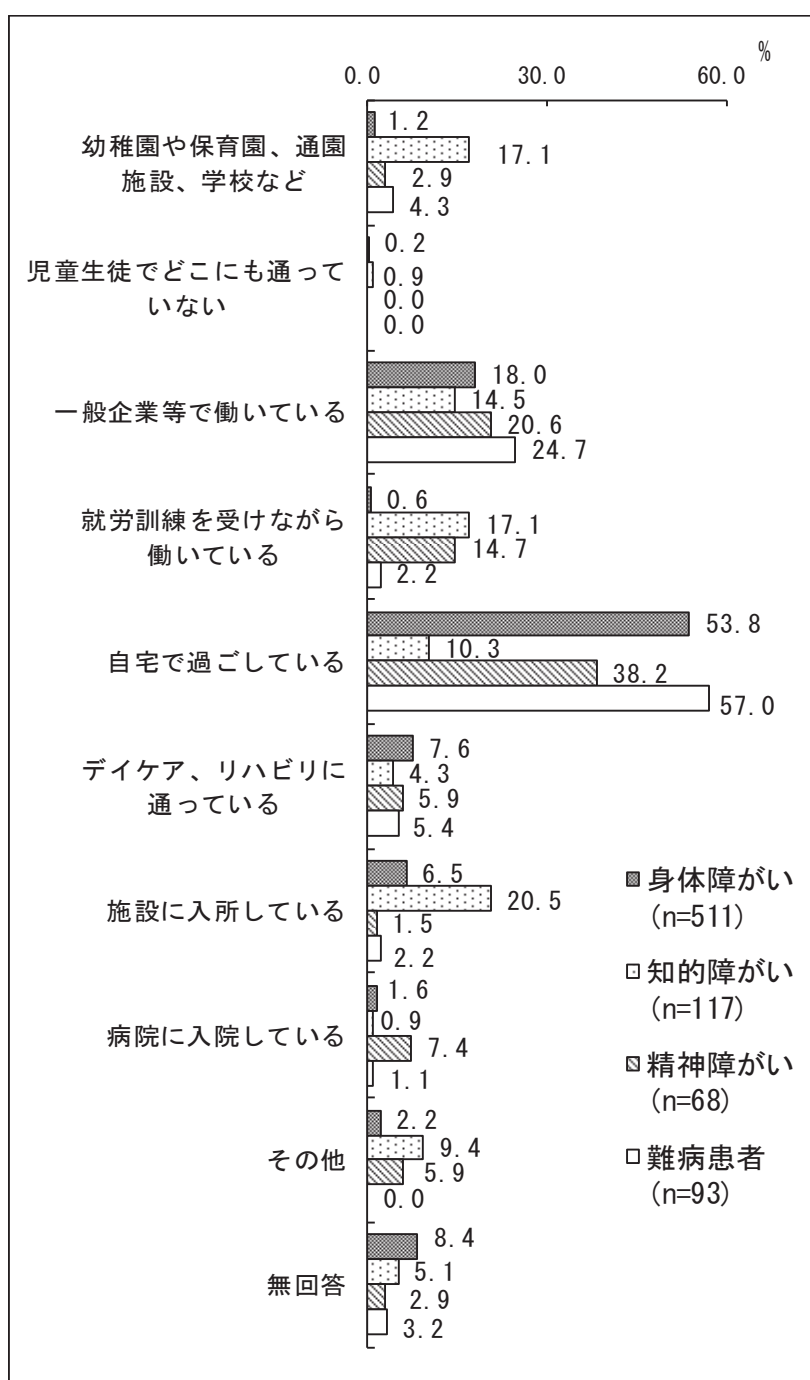
3-1 平日の昼間の過ごし方

“身体障がい” “精神障がい” “難病患者”とも「自宅で過ごしている」が最も高い。

平日の昼間の過ごし方を障がい種別でみると、「自宅で過ごしている」は“身体障がい”が53.8%、“精神障がい”が38.2% “難病患者”が57.0%で最も高い。

また、“知的障がい”は「施設に入所している」が20.5%、「幼稚園や保育園、通園施設、学校など」と「就労訓練を受けながら働いている」が17.1%ずつで比較的高い。

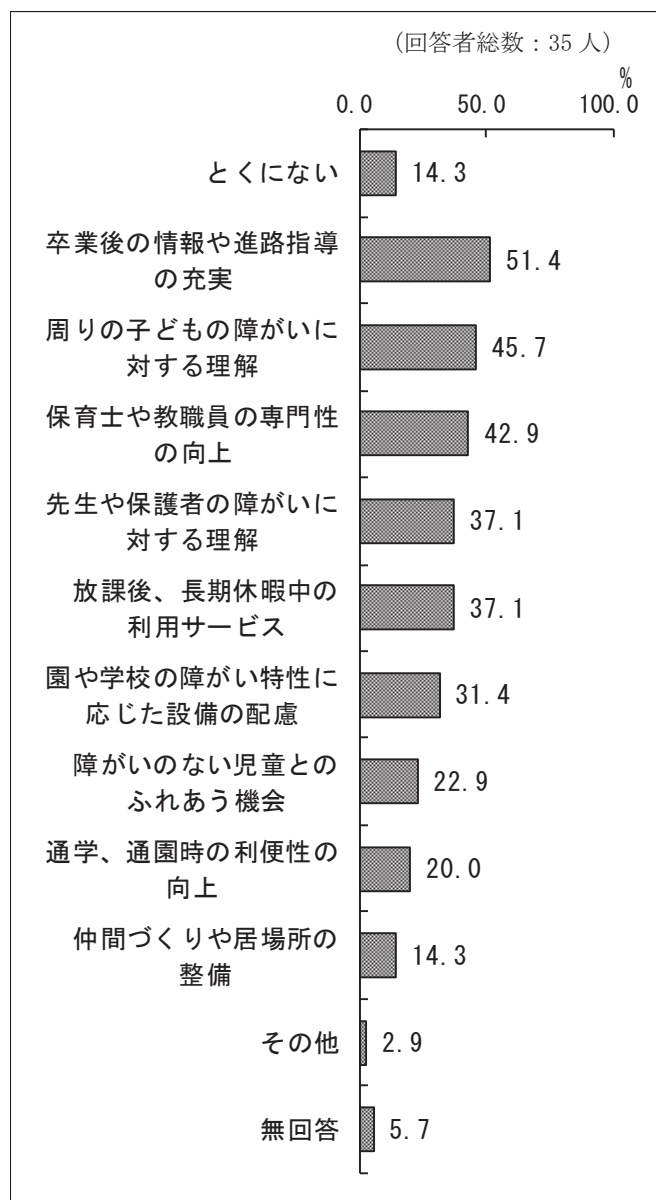
図 平日の昼間の過ごし方（問9）



(児童・生徒)

児童・生徒に対して、保育や教育について望むことをたずねたところ、「卒業後の情報や進路指導の充実」が51.4%で最も高く、次に「周りの子どもの障がいに対する理解」が45.7%で続く。「特にない」は14.3%である。

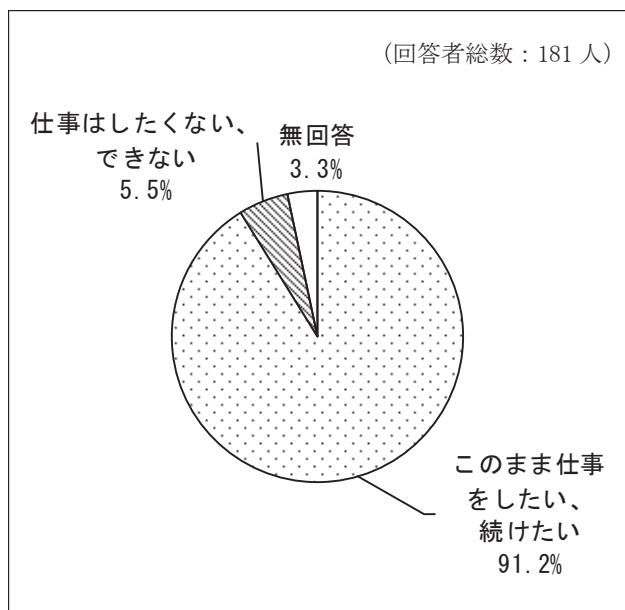
図 保育や教育について望むこと（問11）《複数回答》



(働いている人)

今後、収入を得る仕事については、「このまま仕事をしたい、続けたい」が91.2%を占める。

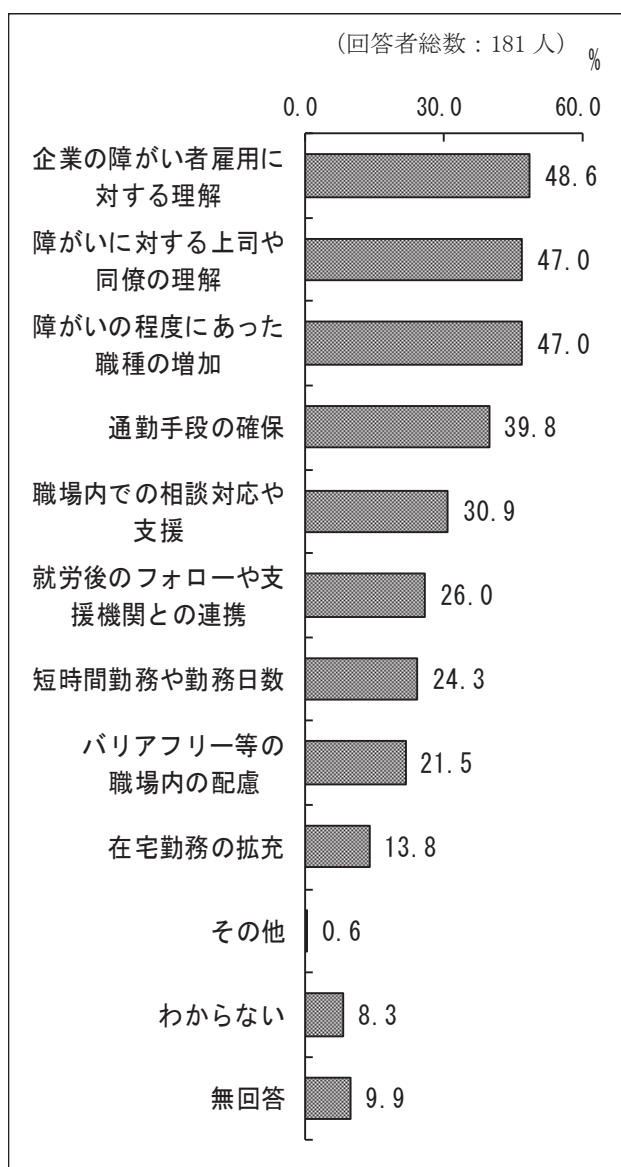
図 働くことについて (問 12-1)



障がいのある人が働きやすい環境をつくるには、「企業の障がい者雇用に対する理解」が48.6%で最も高い。

次に「障がいに対する上司や同僚の理解」と「障がいの程度にあった職種の増加」が47.0%ずつで続く。

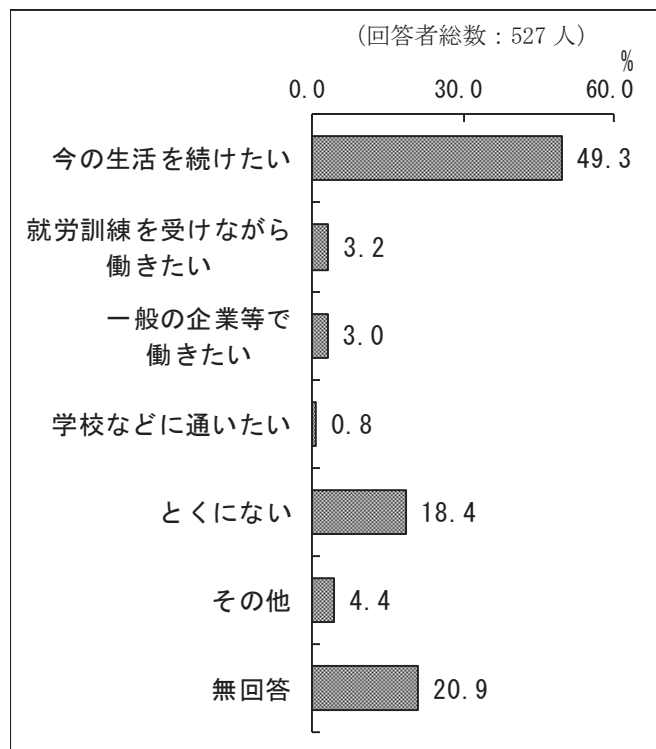
図 働きやすい環境づくり (問 12-2) 《複数回答》



(上記に該当しない人)

上記に該当しない人に、平日の昼間の過ごし方の希望をたずねたところ、「今の生活を続けたい」が49.3%で最も高い。

図 平日の過ごし方の希望 (問 10)



【その他の回答】

- ・ 自宅で自由にのんびりと。
- ・ デイケア。
- ・ 元気になって外出したい。
- ・ 今のままでいいような、でも行動したいが働くのは不安。等

第4節 外出や社会参加について

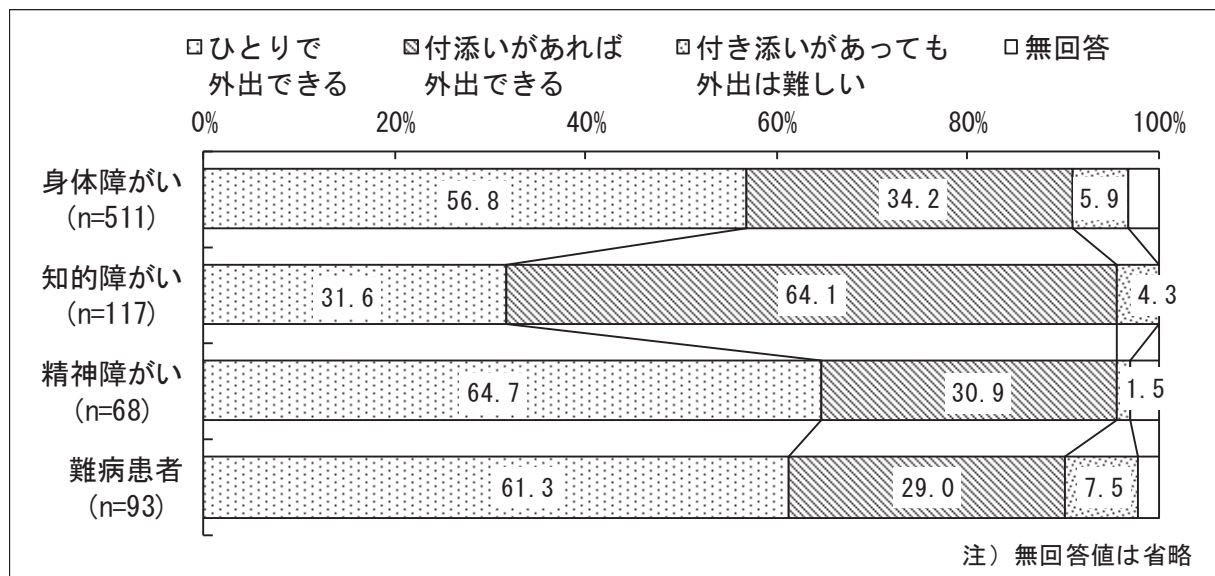
4-1 ひとりでの外出

“知的障がい”は「付き添いがあれば外出できる」が64.1%で高い。

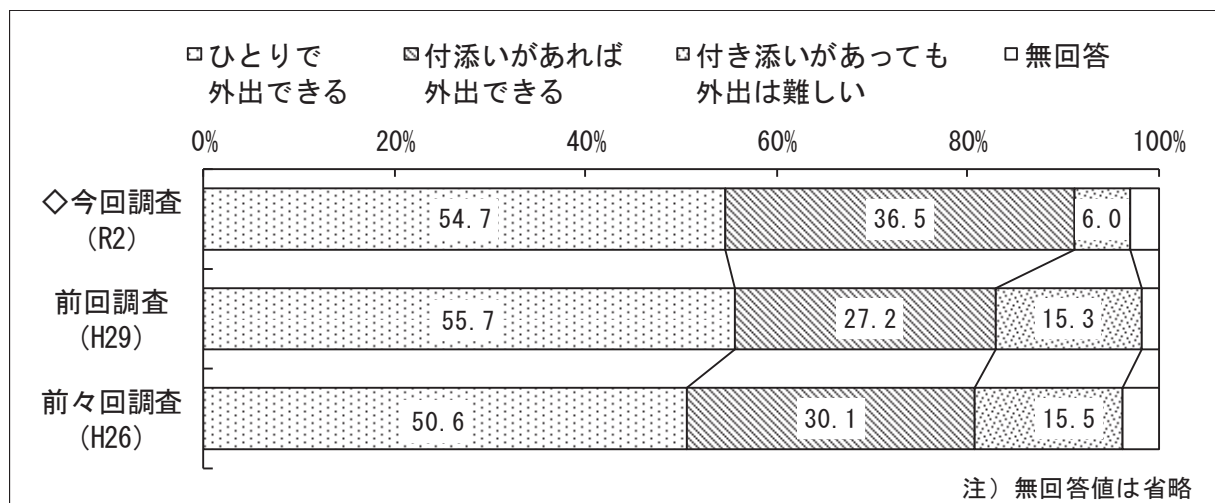
日常生活において、ひとりで外出できるかをみると、“知的障がい”は「付き添いがあれば外出できる」が64.1%で他の障がいと比べて特に高い。

経年比較をみると、今回調査は「ひとりで外出できる」が、全体の54.7%で前回調査と同様である。しかし、前回調査と比べると「付き添いがあれば外出できる」が9.3ポイント増加した。

図 ひとりでの外出（問13）



【経年比較】



4-2 外出の頻度と今後の希望

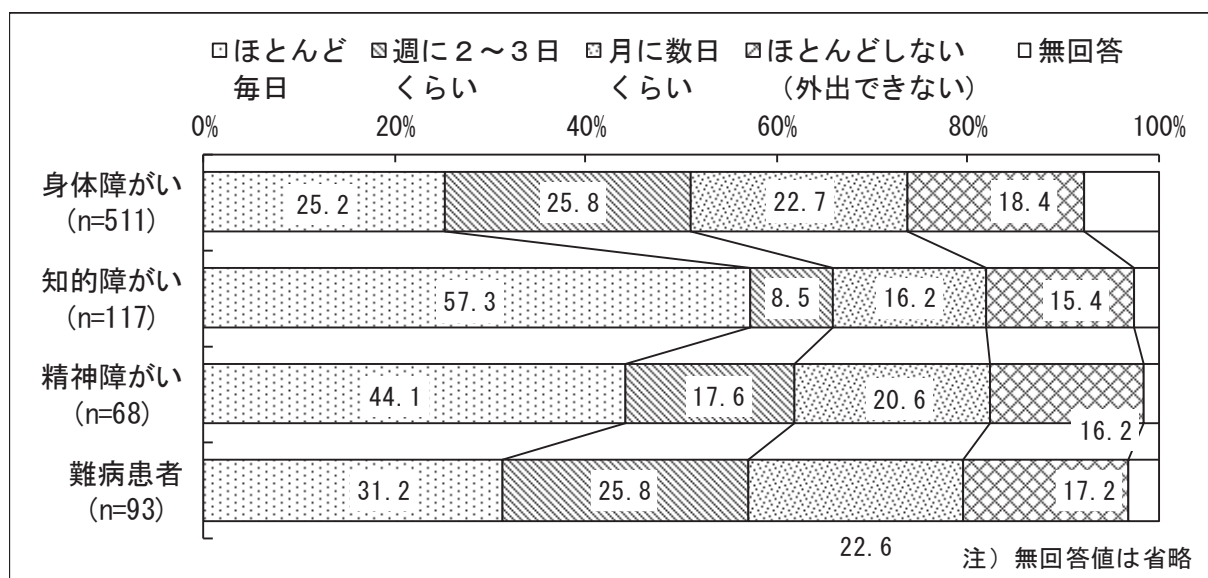
「ほとんど毎日」外出している人が31.7%。また「もっと増やしたい」が22.1%。

通勤・通学・通所、レジャーなど外出の頻度をみると、“知的障がい”は「ほとんど毎日」が57.3%で特に高い。

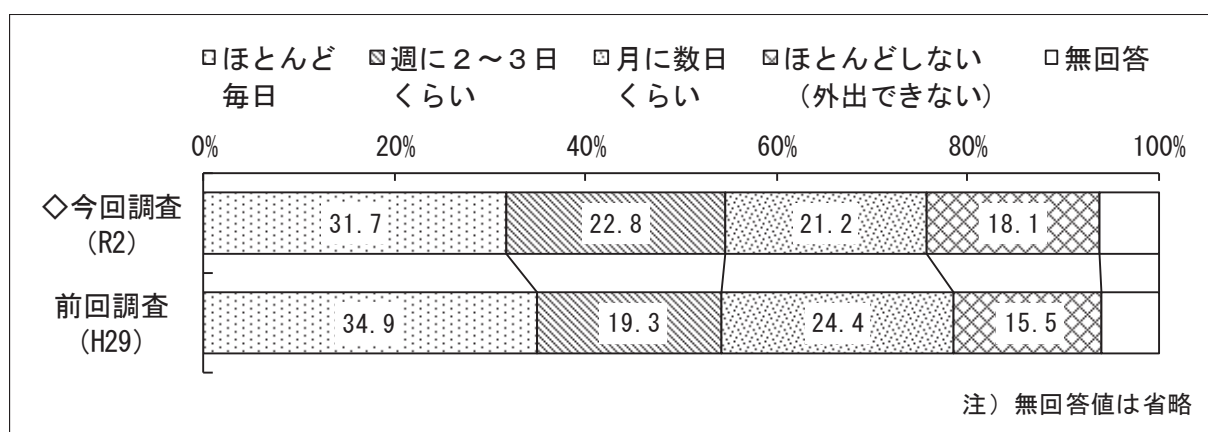
経年比較をみると、全体で「ほとんど毎日」外出している人が3.2ポイント減少し、「週に2～3日くらい」と「ほとんどしない（外出できない）」がやや増加した。

（外出の頻度）

図 外出の頻度（問14）



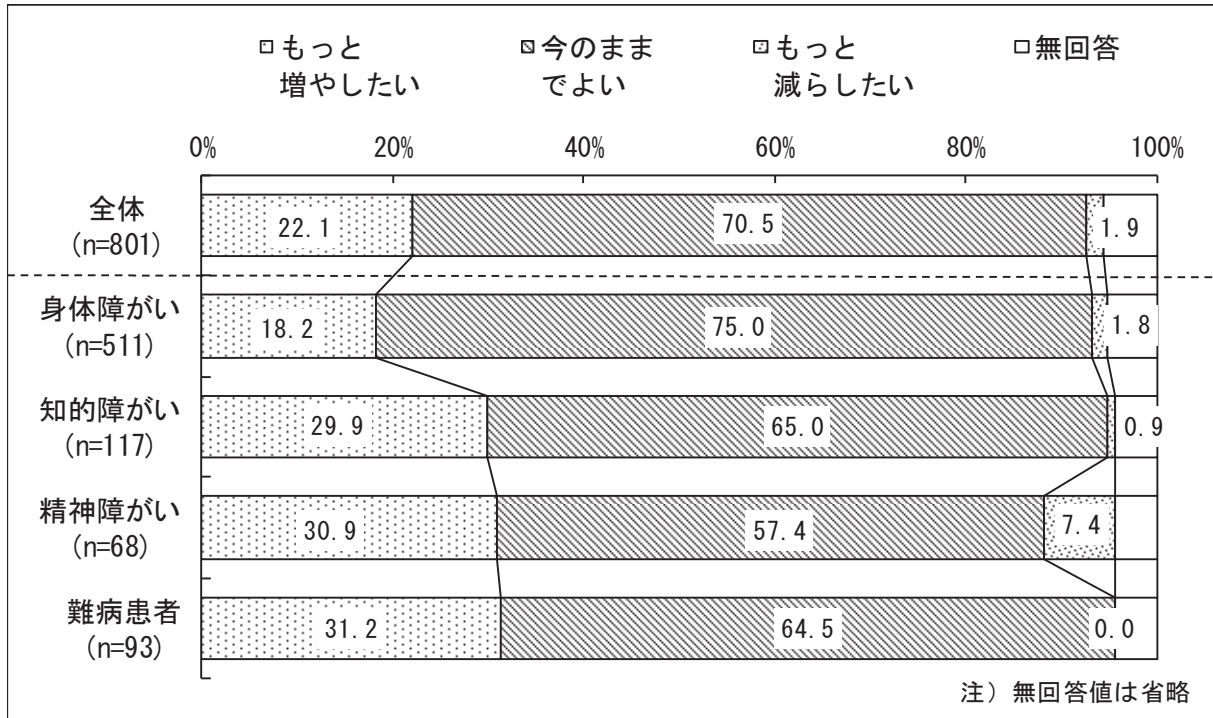
【経年比較】



一方、外出の意向は、「もっと増やしたい」が、全体で22.1%だが、「精神障がい」は30.9%、「難病患者」は31.2%である。

(外出の希望)

図 外出の希望 (問15)



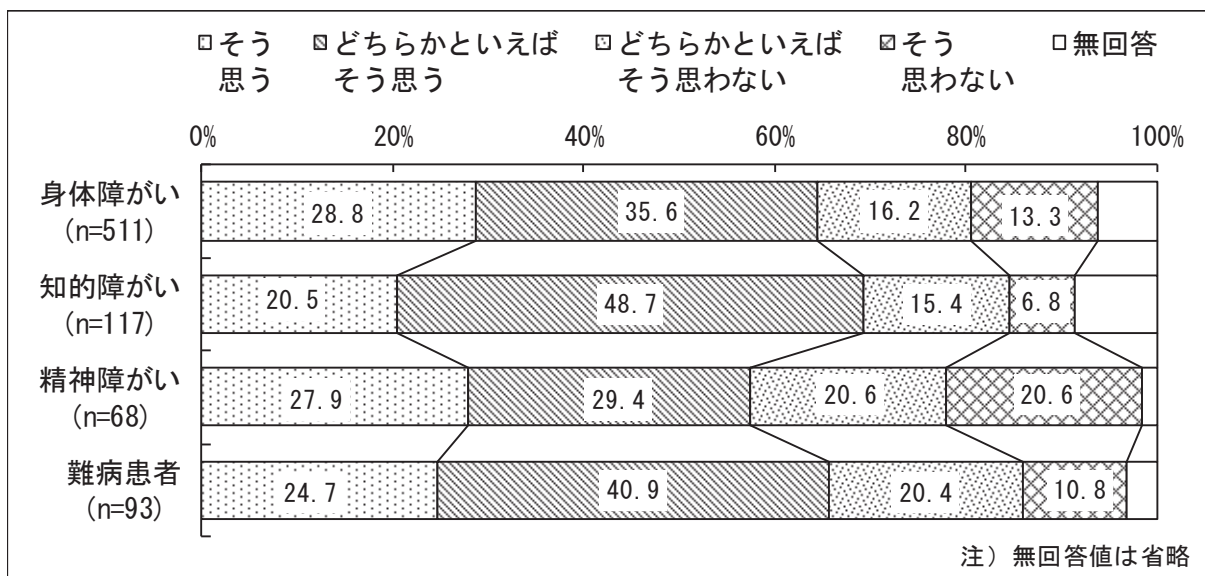
4-3 楽しみや生きがい

楽しみや生きがいを持っている人が 63.7%。“知的障がい”がやや高い。

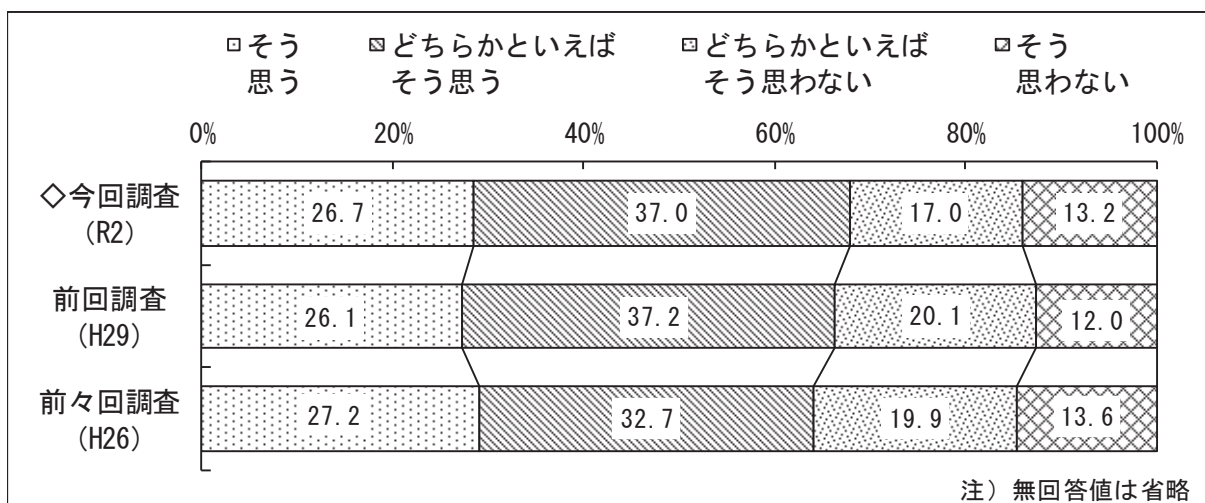
楽しみや生きがいを持って生活しているかをみると、“知的障がい”は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると 69.2%で、他の障がいと比べてやや高い。

経年比較をみると、全体で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると 63.7%で、前回調査や前々回調査と比べて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると増加した。

図 楽しみや生きがい（問 16）



【経年比較】



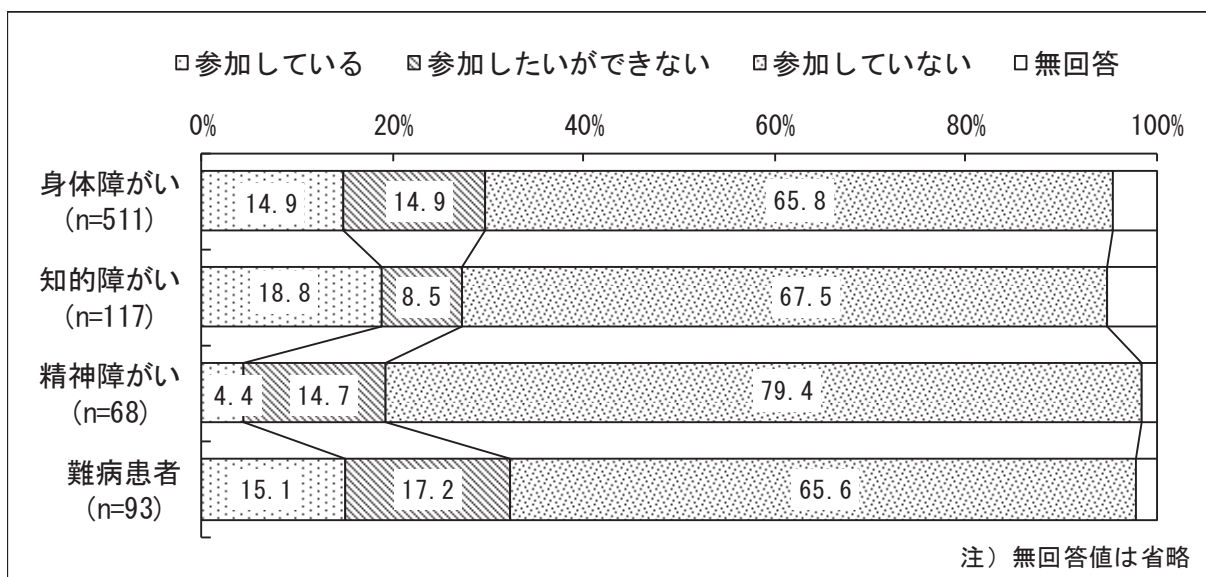
4-4 文化芸術・スポーツ活動への参加

「参加している」が全体の14.2%。“精神障がい”は4.4%で低い。

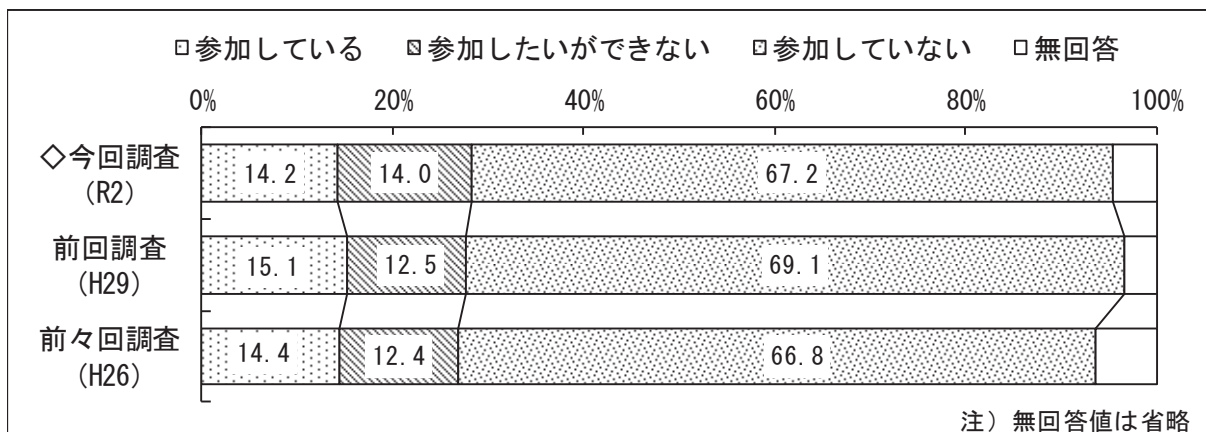
文化芸術活動やスポーツ活動の参加については、“知的障がい”は「参加している」が18.8%でやや高い。その一方で“精神障がい”は「参加している」が4.4%で低い。

経年比較をみると、全体で「参加している」が14.2%で、前回よりもやや減少したが傾向に大きな違いはみられない。

図 文化芸術・スポーツ活動への参加（問17）



【経年比較】

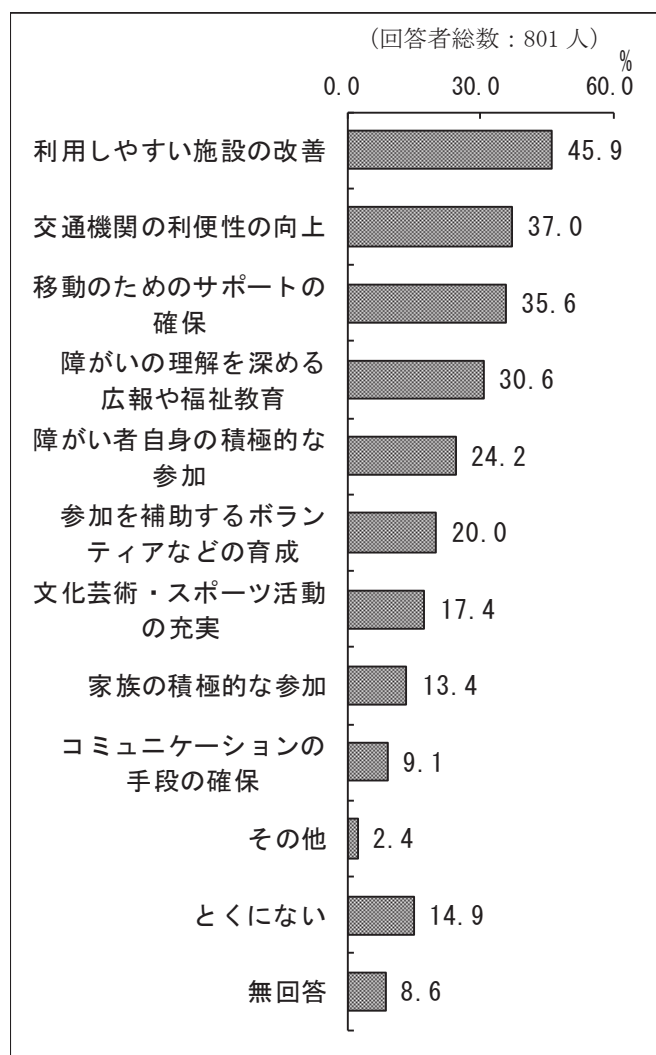


4-5 地域や社会に参加しやすい環境づくり

「利用しやすい施設の改善」が45.9%で最も高い。

障がいのある方が地域や社会に積極的に参加していくために必要なことは、「利用しやすい施設の改善」が45.9%で最も高く、次に「交通機関の利便性の向上」が37.0%、「移動のためのサポートの確保」が35.6%で続く。

図 地域や社会に参加しやすい環境づくり（問18）
《複数回答》



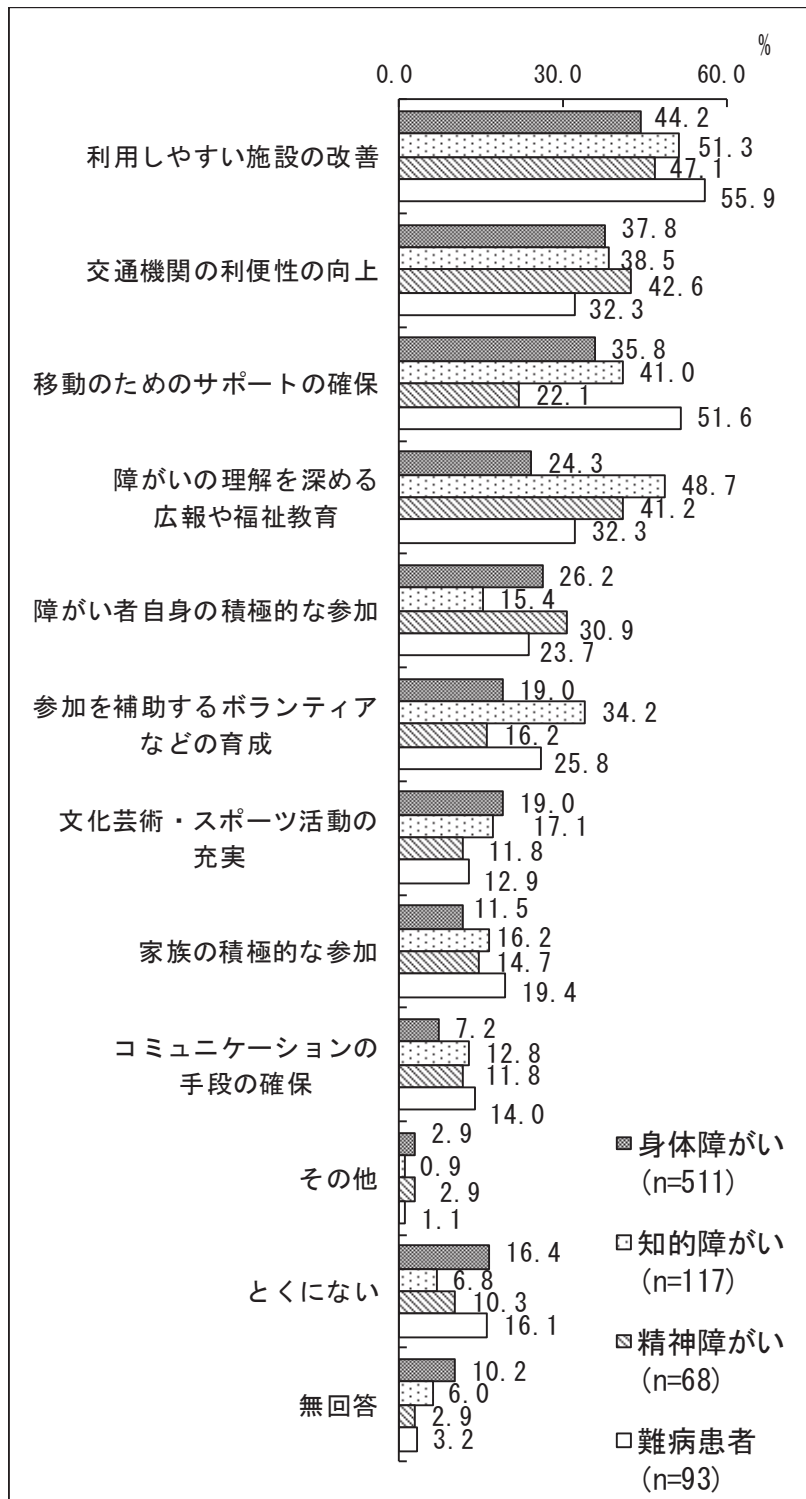
障がい種別でみると、“身体障がい”は「利用しやすい施設の改善」が44.2%で高い。

“知的障がい”も「利用しやすい施設の改善」が51.3%で高いが、次に「障がいの理解を深める広報や福祉教育」が48.7%で続く。

“難病患者”は「利用しやすい施設の改善」が55.9%、「移動のためのサポートの確保」が51.6%で他の障がいよりも高い。

図 地域や社会に参加しやすい環境づくり（問18）

《複数回答》



第5節 相談・情報提供について

5-1 困りごとの相談先

“精神障がい”と“難病患者”は「病院・医院」が特に高い。“知的障がい”は「障害福祉サービスを提供する事業所」が36.8%で高い。

相談ごとがあったときの相談先は、「病院・医院」が“精神障がい”は61.8%、“難病患者”は54.8%で特に高い。“知的障がい”は「障害福祉サービスを提供する事業所」が36.8%で高い。また「市役所の窓口」も比較的高い。

図 困りごとの相談先（問19） 《複数回答》

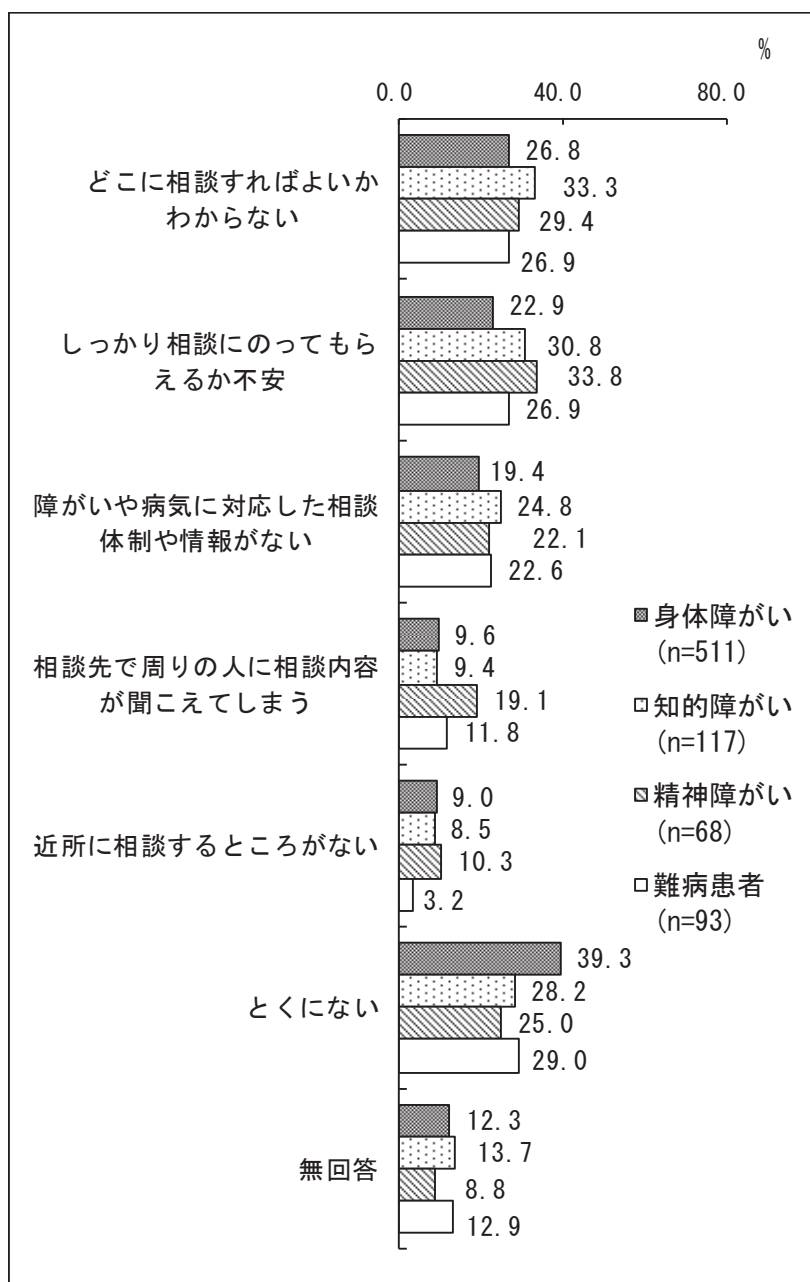


5-2 相談や情報収集するときに困ること

“知的障がい”は「どこに相談すればよいかわからない」が高い。“精神障がい”は「しっかり相談にのってもらえるか不安」が最も高い。

相談や情報収集するときに困ることは、“知的障がい”は「どこに相談すればよいかわからない」が33.3%で高い。“精神障がい”は「しっかり相談にのってもらえるか不安」が33.8%で高い。

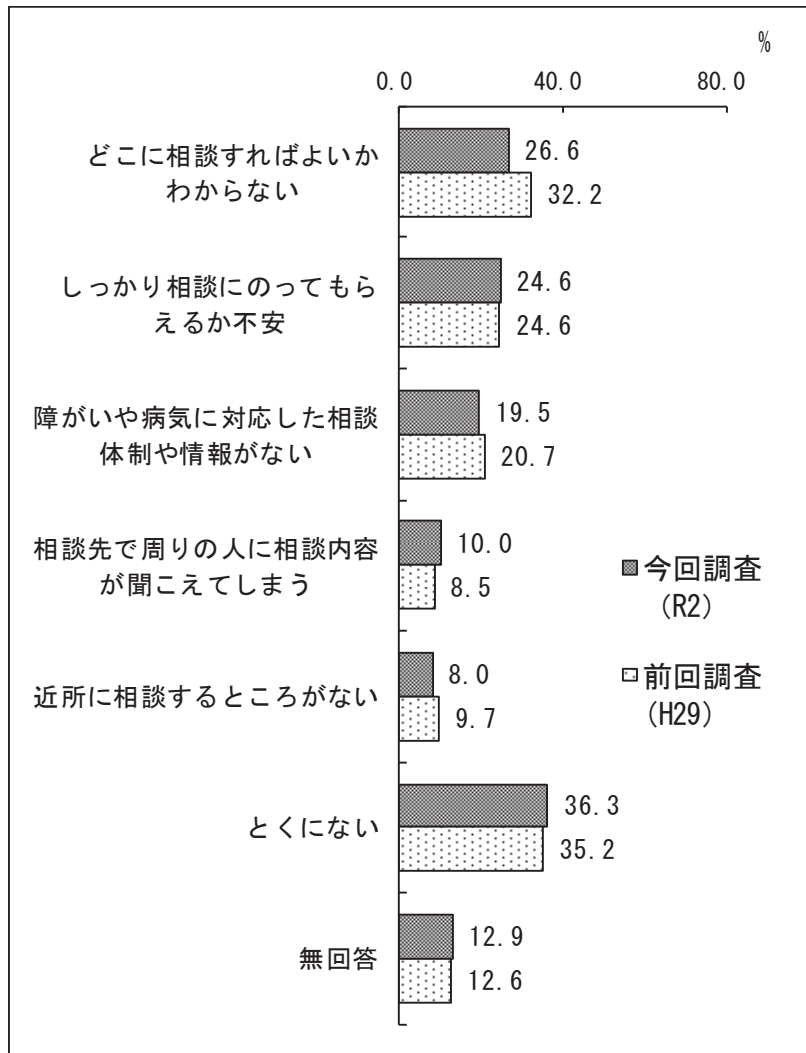
図 相談や情報収集するときに困ること（問20） 《複数回答》



【経年比較】

相談や情報収集するときに困ることを経年比較でみると、「どこに相談すればよいかわからない」が今回調査は26.6%で、前回調査と比べて5.6ポイント減少した。

図 相談や情報収集するときに困ること（問20） 《複数回答》



第6節 災害対策について

6-1 一人での避難

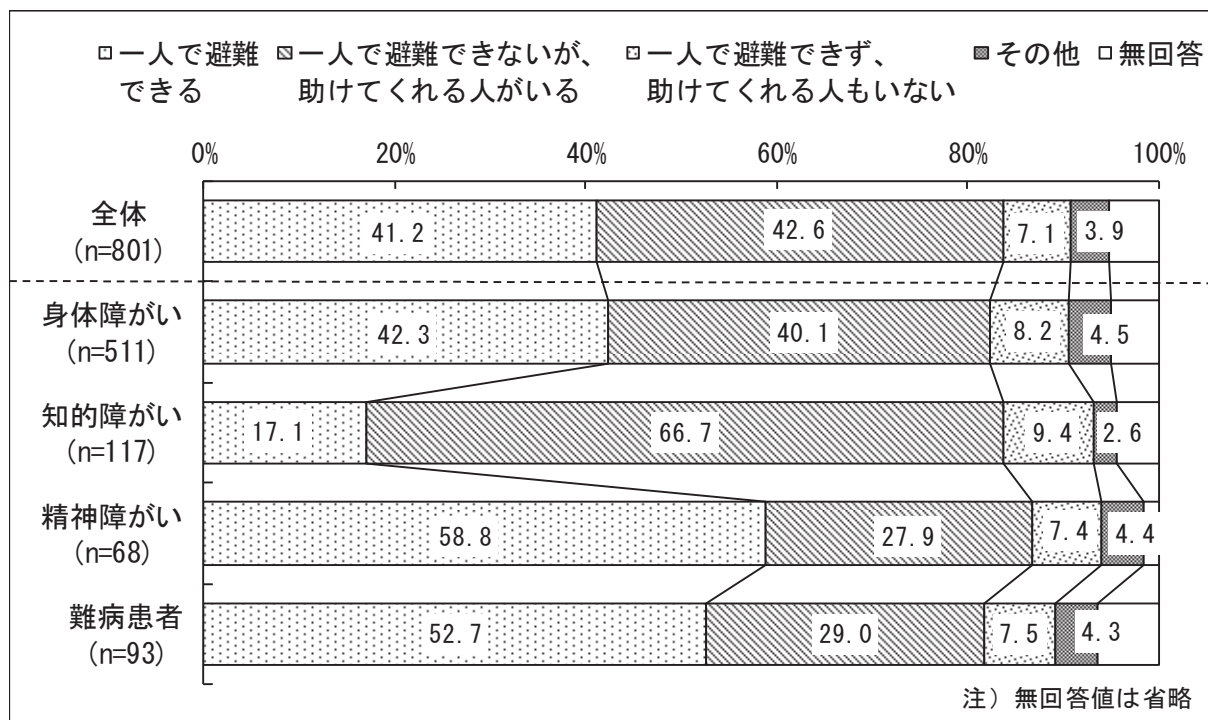
「一人で避難できず、助けてくれる人もいない」が、全体の7.1%。

火事や地震などの災害時に一人で避難できるかは、全体で「一人で避難できる」が41.2%、「一人で避難できないが、助けてくれる人がいる」が42.6%である。

障がい種別でみると“知的障がい”は「一人で避難できないが、助けてくれる人がいる」が66.7%で他の障がいと比べて特に高い。

また、「一人で避難できず、助けてくれる人もいない」が、全体の7.1%である。

図 一人での避難（問21）

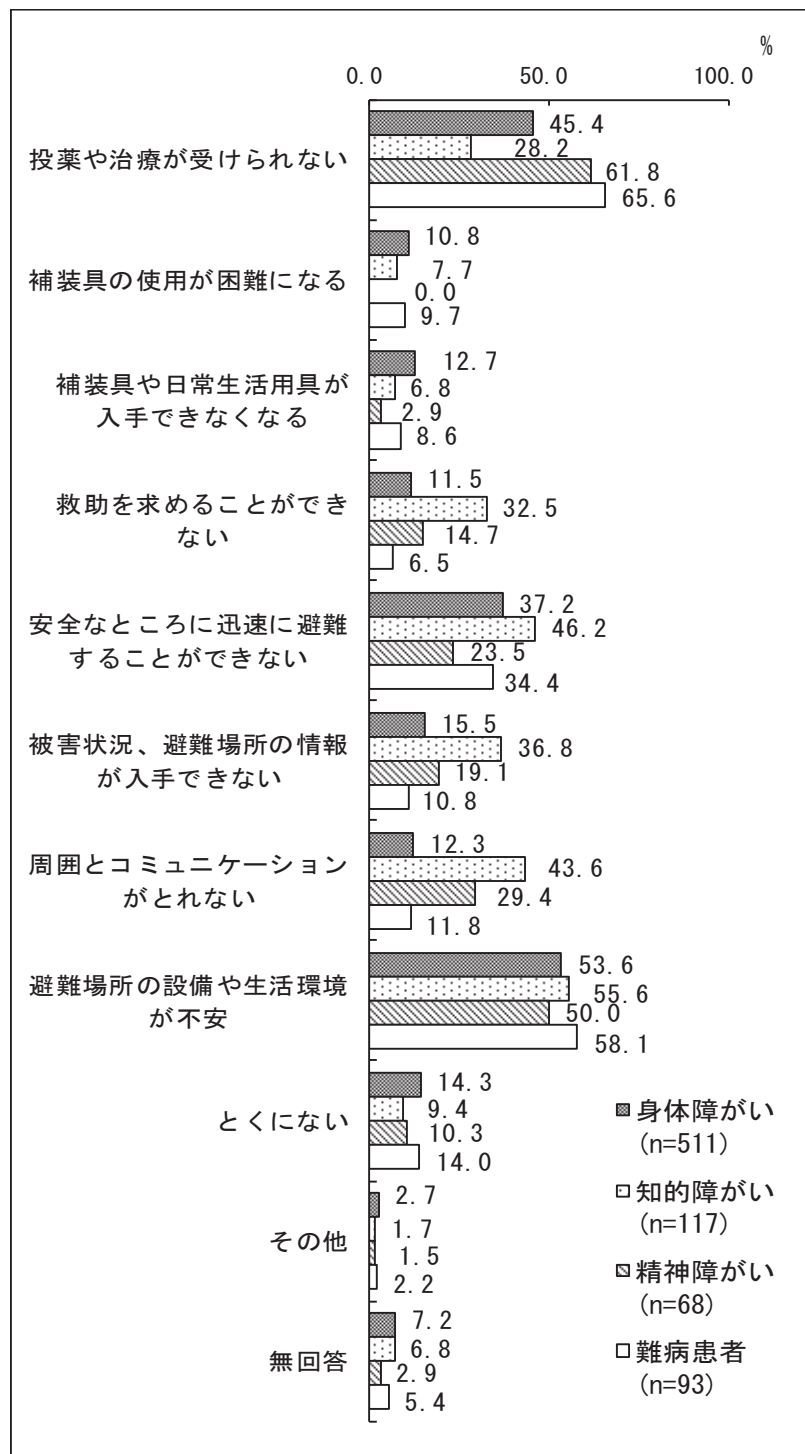


6-2 災害時の心配ごと

それぞれの障害がいても「避難場所の設備や生活環境が不安」が高い。また、“精神障がい”と“難病患者”は「投薬や治療が受けられない」が特に高い。

災害時に心配に思うことは、各障がいとも「避難場所の設備や生活環境が不安」が高い。また、「投薬や治療が受けられない」が“精神障がい”は61.8%、“難病患者”は65.6%で最も高い。“知的障がい”は「安全なところに迅速に避難することができない」や「周囲とコミュニケーションがとれない」も比較的高い。

図 災害時の心配ごと（問22） 《複数回答》

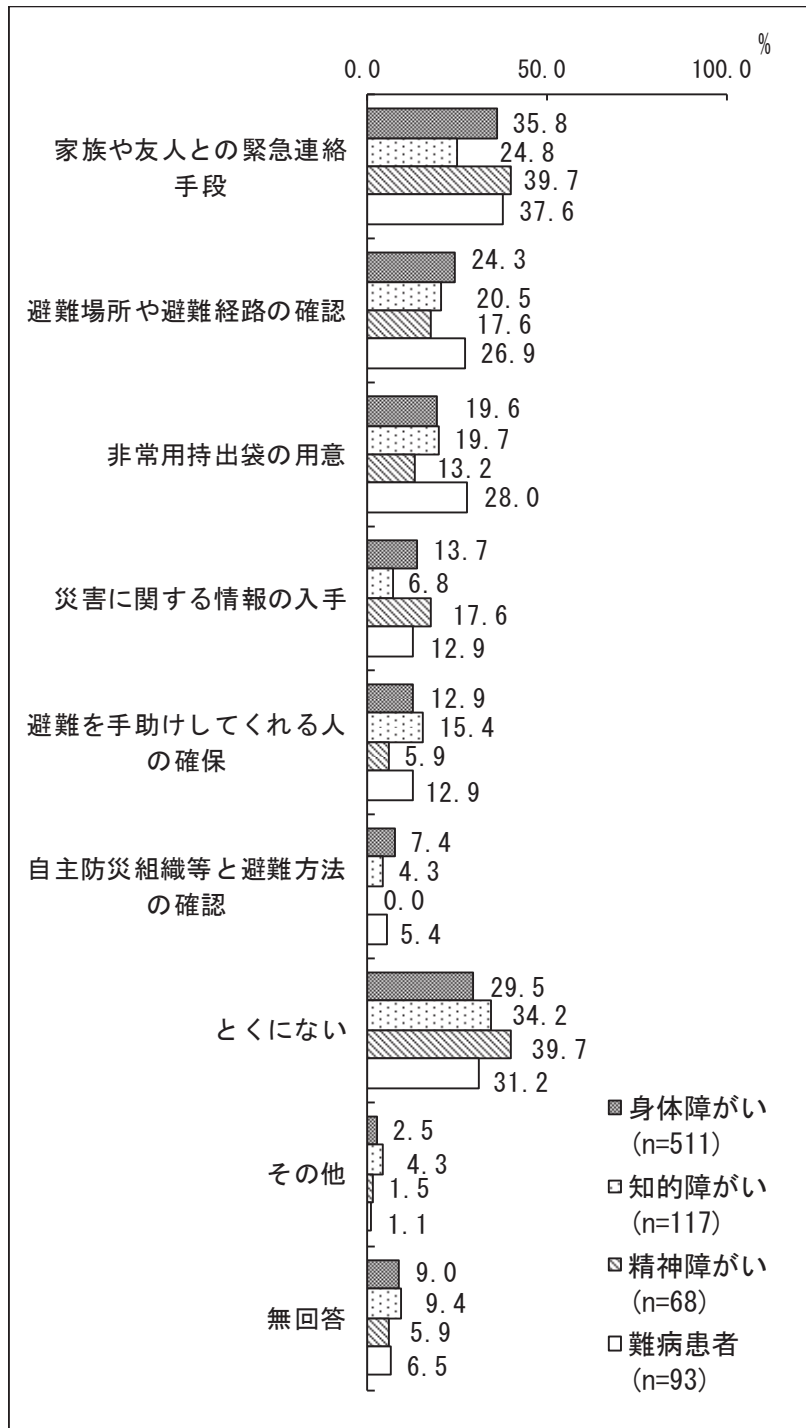


6-3 災害に対する日ごろの備え

「家族や友人との緊急連絡手段」が高い。「とくにない」が前回より5.6ポイント減少した。

日ごろから災害に備えていることは、「家族や友人との緊急連絡手段」が比較的高い。“難病患者”は「避難場所や避難経路の確認」が26.9%、「非常用持出袋の用意」が28.0%で他の障がいと比べてやや高い。

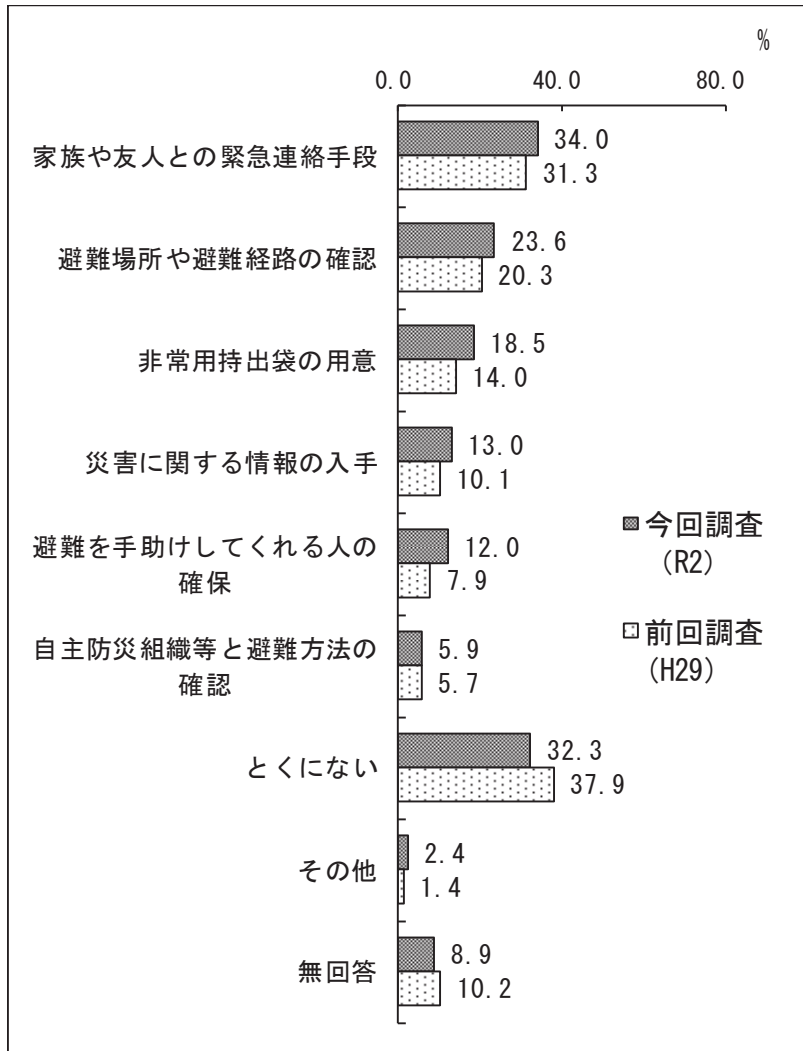
図 災害に対する日ごろの備え（問23） 《複数回答》



【経年比較】

日ごろから災害に備えていることについて、経年比較をみると「とくにない」が今回は32.3%で、前回調査よりも5.6ポイント減少した。

図 災害に対する日ごろの備え（問 23） 《複数回答》



第7節 障がいのある方が安心して暮らせる地域づくりについて

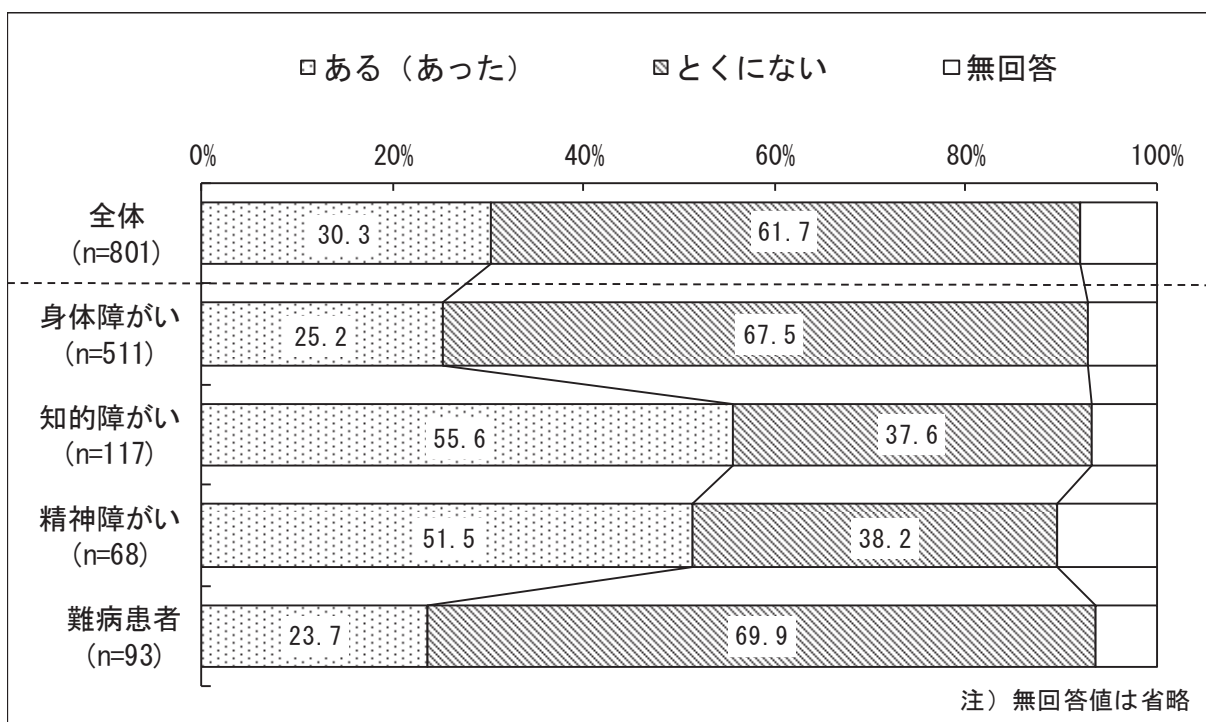
7-1 障がいがあることでの差別

「ある（あった）」が、“知的障がい”は55.6%、“精神障がい”は51.5%で特に高い。

障がいや難病があることで差別や嫌な思いをした経験は、全体で「ある（あった）」が30.3%である。

特に、“知的障がい”は「ある（あった）」が55.6%、“精神障がい”は51.5%で、他の障がいと比べて特に高い。

図 障がいがあることでの差別（問24）

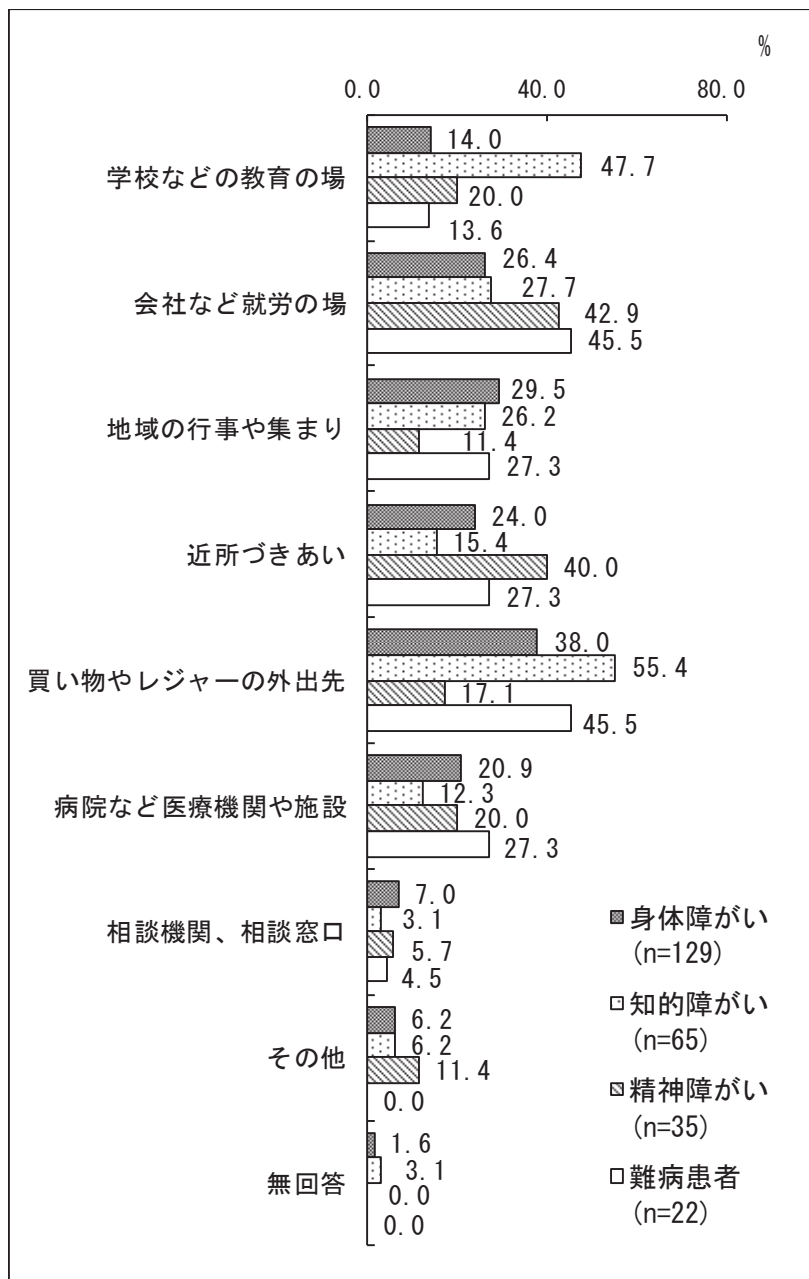


(嫌な思いを感じた場所)

障がいや難病があることでの差別や嫌な思いをした場所は、“知的障がい”は「買い物やレジャーの外出先」が55.4%で最も高く、次に「学校などの教育の場」が47.7%で続く。

“精神障がい”は「会社などの就労の場」が42.9%、「近所づきあい」が40.0%で高い。

図 差別や嫌な思いをした場所 (問 24-1)



7-2 障害者差別解消法の認知度

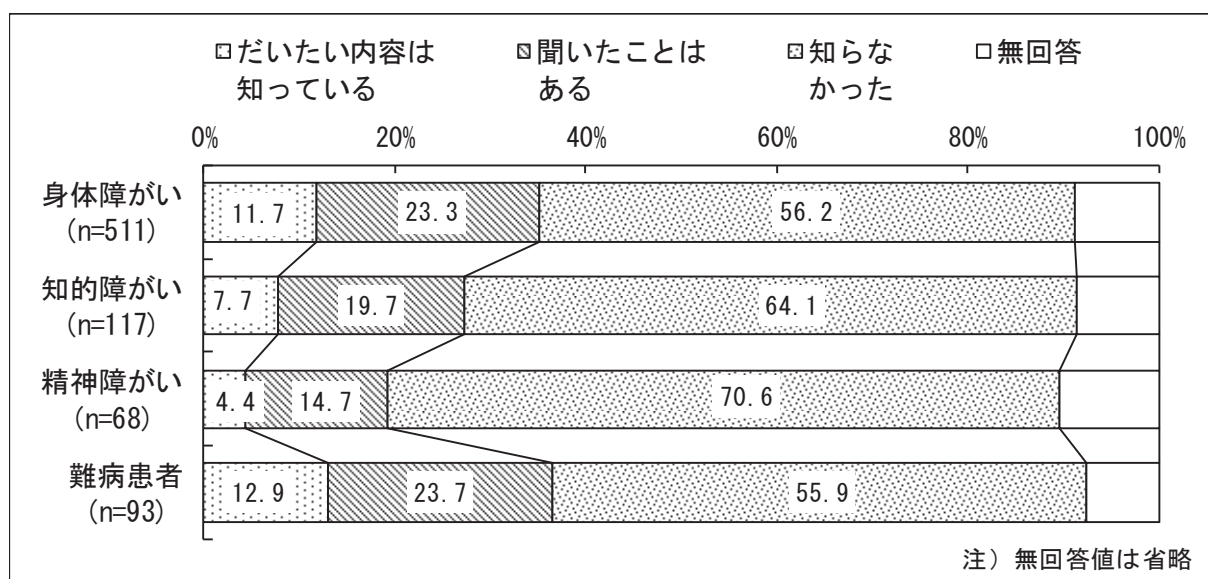
「知らなかった」が全体の58.7%で、前回調査と比べて3.3ポイント増加。

障害者差別解消法は、障がいのある人への「不当な差別的取扱い」を禁止し、障がいのある人が困らないように役所や会社・お店などに「合理的配慮の提供」を求めています。

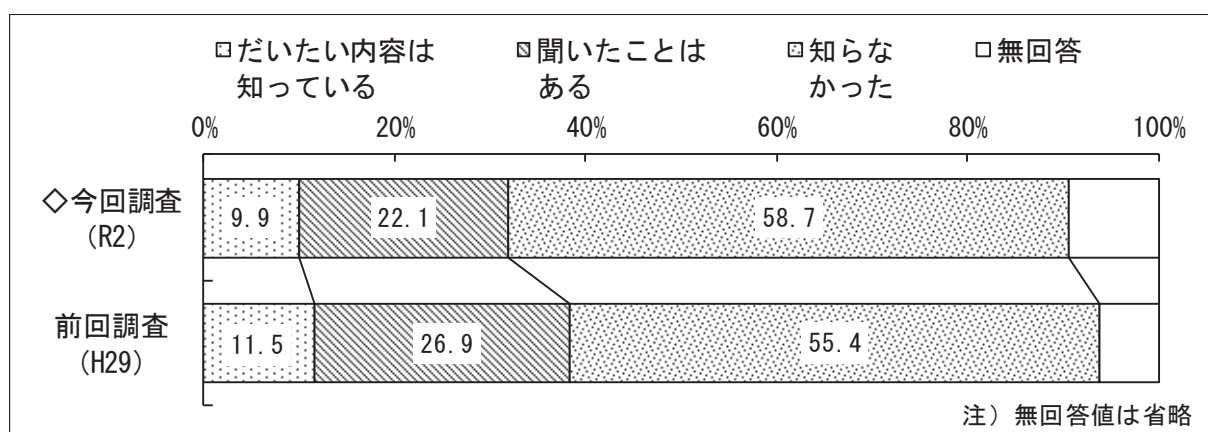
この法律の認知度は、“精神障がい”は「知らなかった」が70.6%で高い。

経年比較をみると、「だいたい内容を知っている」が全体の9.9%、「聞いたことはある」が22.1%で、前回調査と比べて減少し、その一方で「知らなかった」が58.7%で前回調査と比べて3.3ポイント増加した。

図 障害者差別解消法の認知度（問25）



【経年比較】



7-3 障がいのある方への市民の理解

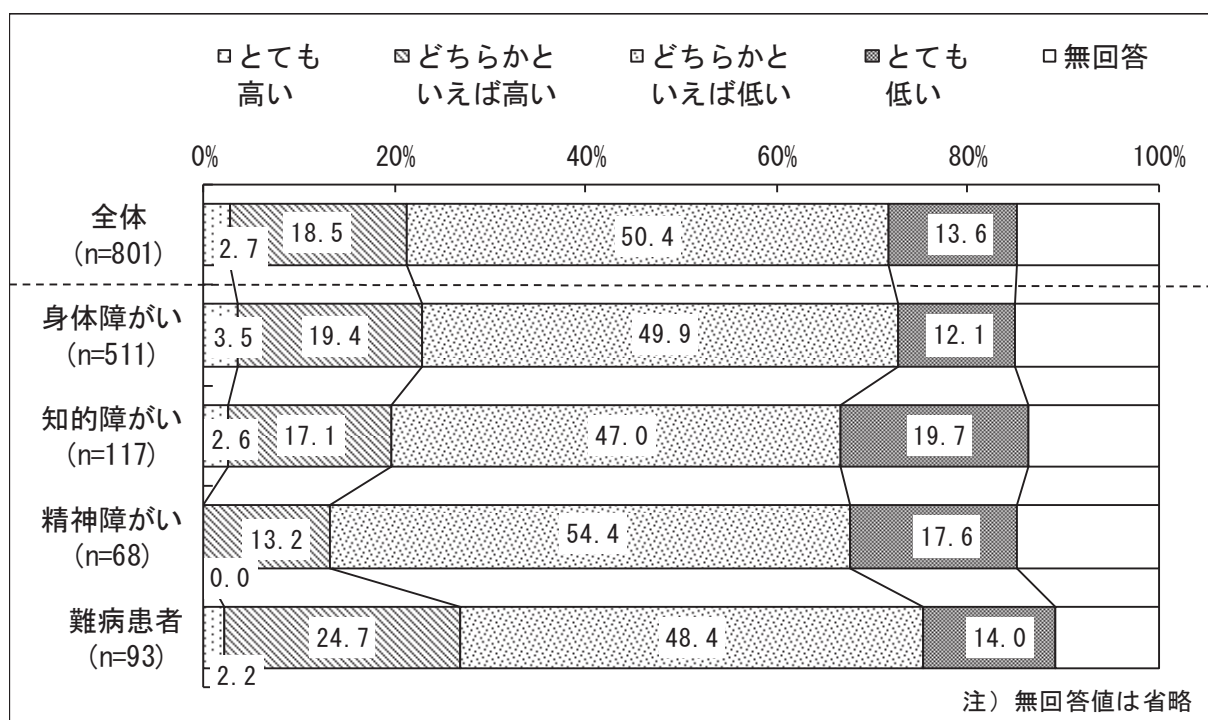
「とても高い」と「どちらかといえば高い」を合わせて21.2%。特に“精神障がい”が低い。

障がいのある方への市民の理解は、全体で「とても高い」が2.7%、「どちらかといえば高い」が18.5%で、合わせると21.2%である。

その一方、「どちらかといえば低い」が50.4%、「とても低い」が13.6%で、合わせると64.0%である。

特に、“精神障がい”は市民の理解が「とても高い」と「どちらかといえば高い」を合わせて13.2%で、他の障がいと比べて特に低い。

図 障がいある方への市民の理解（問26）



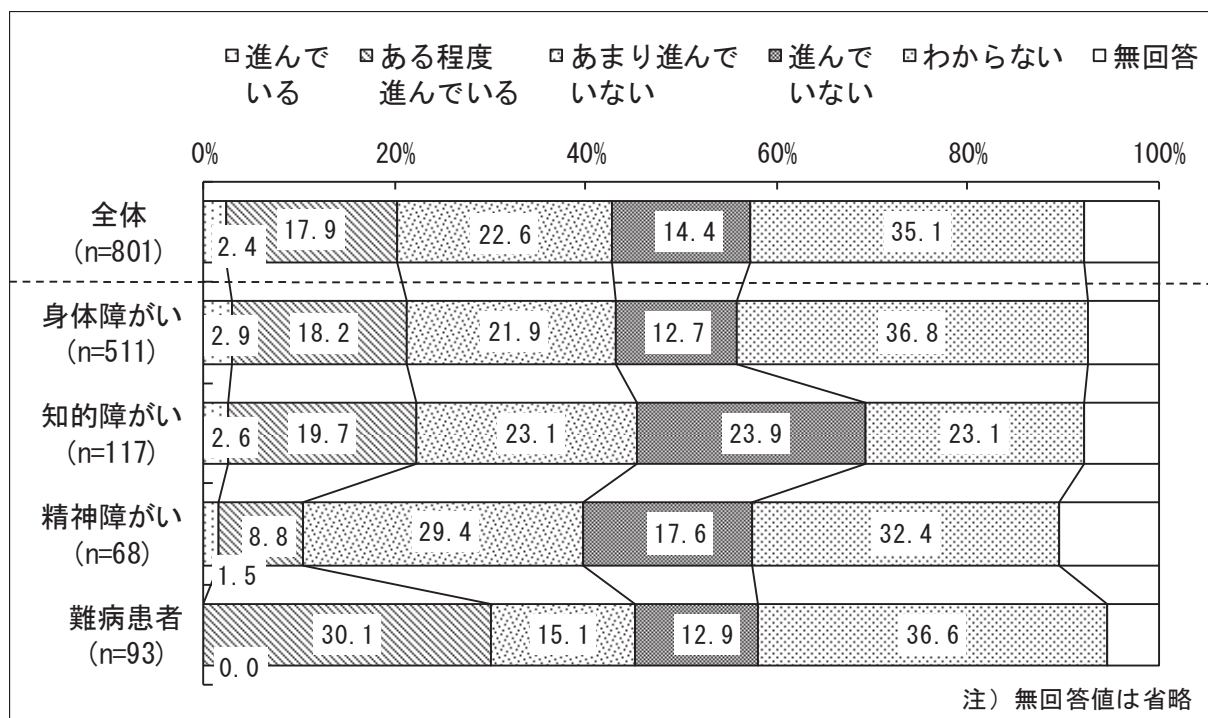
7-4 障害のある方に対する地域づくり

「進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせて20.3%。“精神障がい”は10.3%で低い。また“知的障がい”は「進んでいない」が23.9%。

この数年で、障がいのある方に対する地域づくりが進んでいるかたずねたところ、全体で「進んでいる」が2.4%、「ある程度進んでいる」が17.9%で、合わせると20.3%である。その一方、「あまり進んでいない」が14.4%、「進んでいない」が35.1%で、合わせると49.5%である。

“精神障がい”は「進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせて10.3%で低い。“知的障がい”は「進んでいない」が23.9%で比較的高い。

図 障がいある方に対する地域づくり（問27）



7-5 現在の暮らしと将来の希望

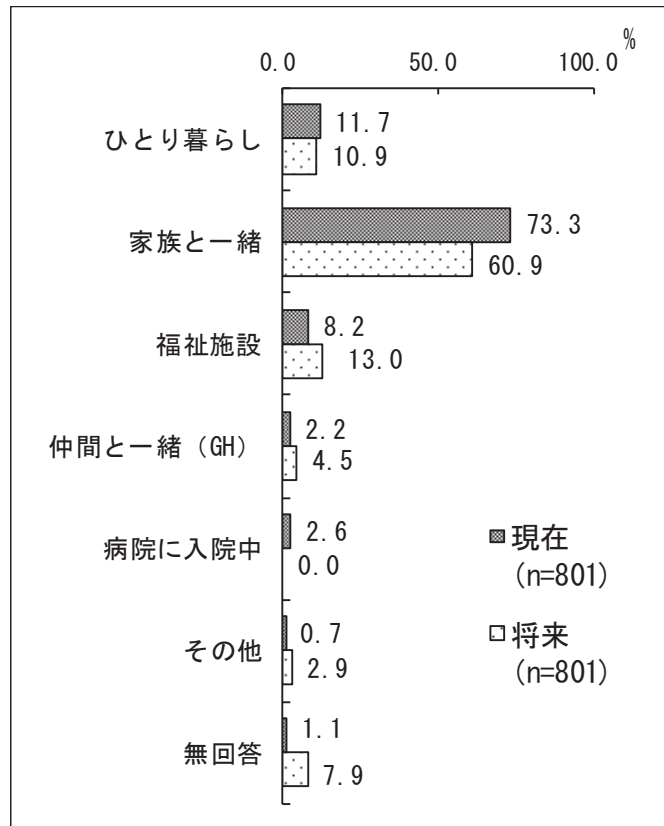
現在と将来とも「家族と一緒に」が高い。

現在の暮らし方をみると、「家族と一緒に」が73.3%で最も高い。

将来の希望についても「家族と一緒に」が60.9%で最も高い。

現在の暮らしと将来の希望を比べると、将来の方が現在よりも「福祉施設」が4.8ポイント高い。

図 7-5 現在の暮らしと将来の希望（問 4、問 28）



現在の暮らしと将来の希望を障がい種別でみると、「知的障がい」は現在と比べて将来は「福祉施設」が3.4ポイント減り、「仲間と一緒に（グループホーム）」が5.2ポイント高くなっている。

“精神障がい”は、現在よりも将来は「ひとり暮らし」が8.8ポイント高く、また「福祉施設」も11.7ポイント高い。

図 現在の暮らし（問4）

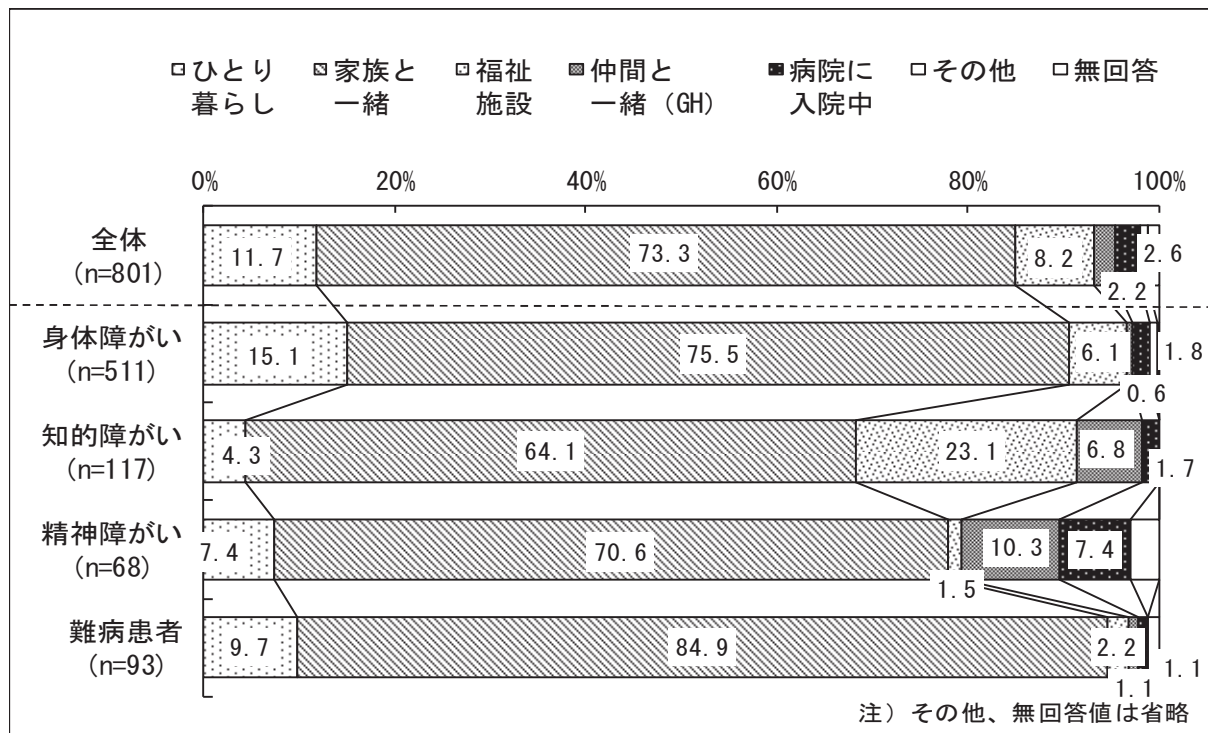
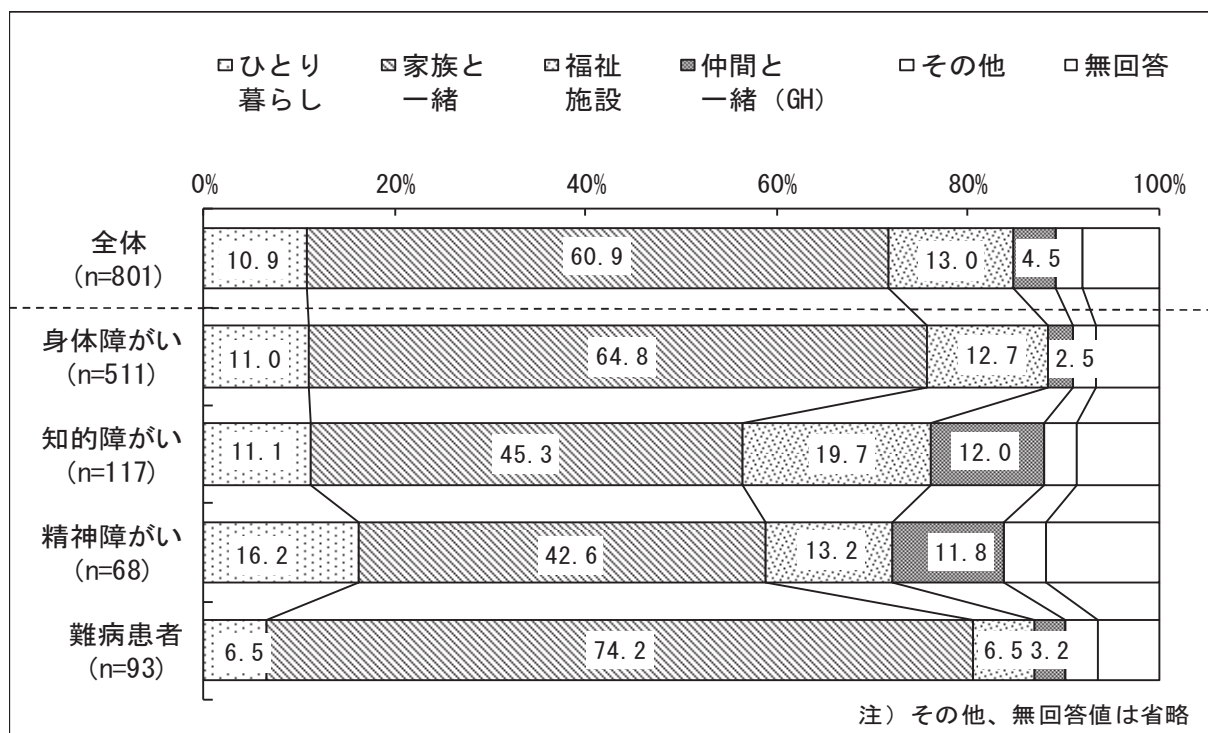


図 将来の希望（問28）

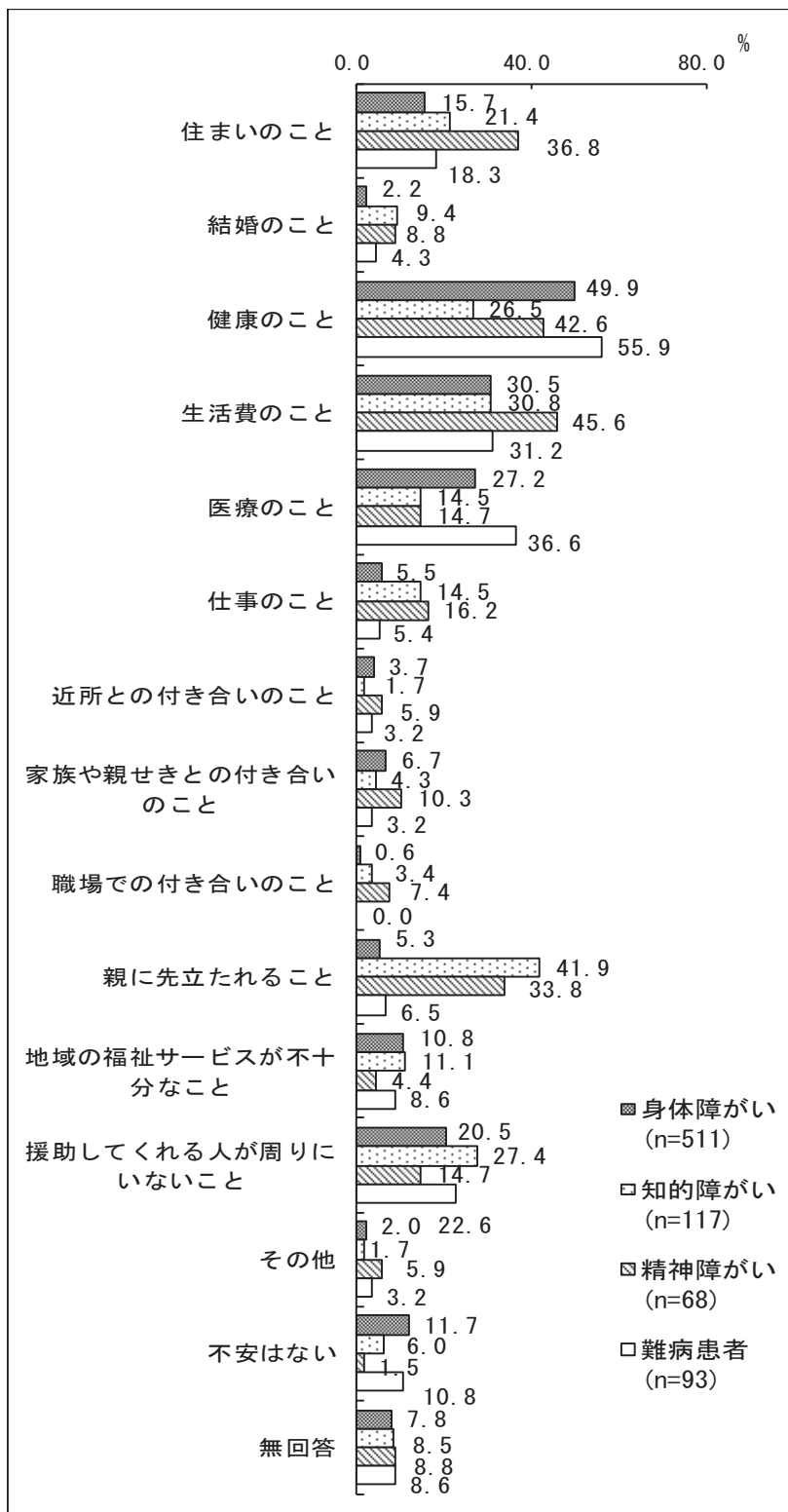


7-6 将来の生活の不安

“知的障がい”は「親に先立たれること」、「精神障がい」は「生活費のこと」が最も高い。

将来の生活の不安は、“身体障がい”は「健康のこと」が49.9%で最も高く、“難病患者”も55.9%で高いほか、「医療のこと」も高い。“知的障がい”は「親に先立たれること」が41.9%で最も高い。“精神障がい”は「生活費のこと」が45.6%で最も高い。

図 将来の生活の不安（問29） 《複数回答》



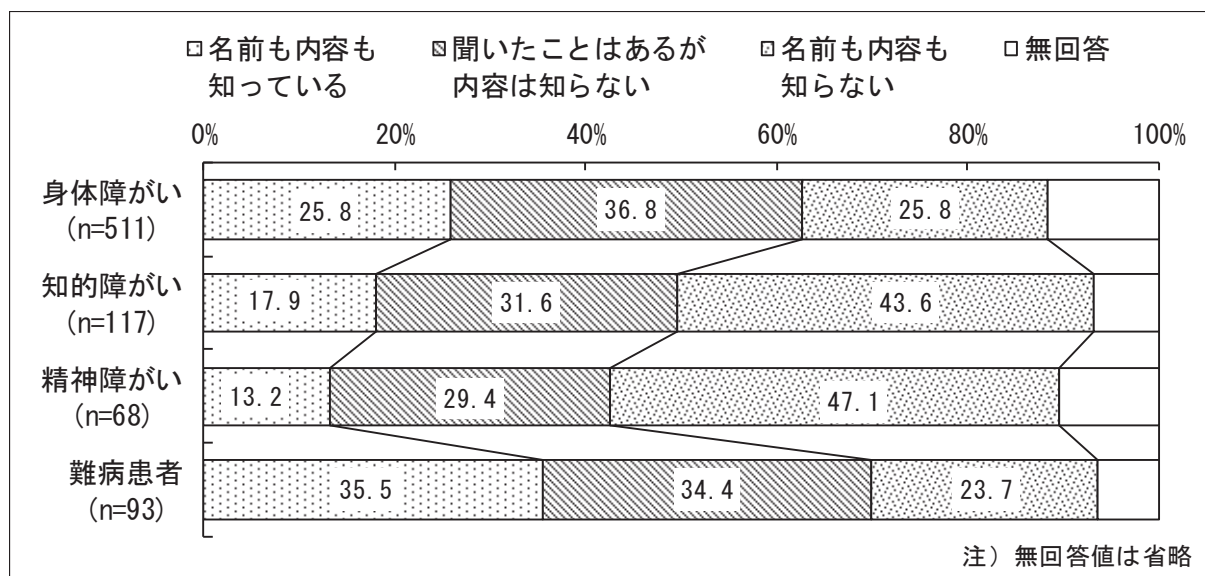
7-7 成年後見制度の理解と今後の利用意向

「名前も内容も知っている」は全体で24.0%だが、“精神障がい”は13.2%で低い。今後の利用意向は、前回調査と比べて「利用したい」が若干増加。

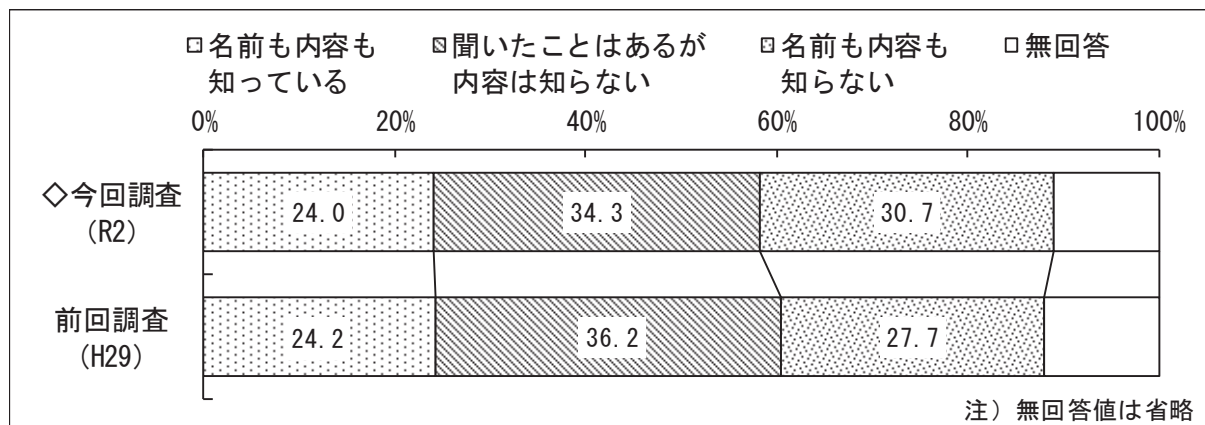
判断能力が十分でないかたの財産などの権利を守る成年後見制度の理解は、“精神障がい”は「名前も内容も知っている」が13.2%で他の障がいよりも低い。

経年比較をみると、全体で「名前も内容も知っている」が24.0%で、前回調査と比べて大きな違いは見られない。

図 成年後見制度の理解（問30）



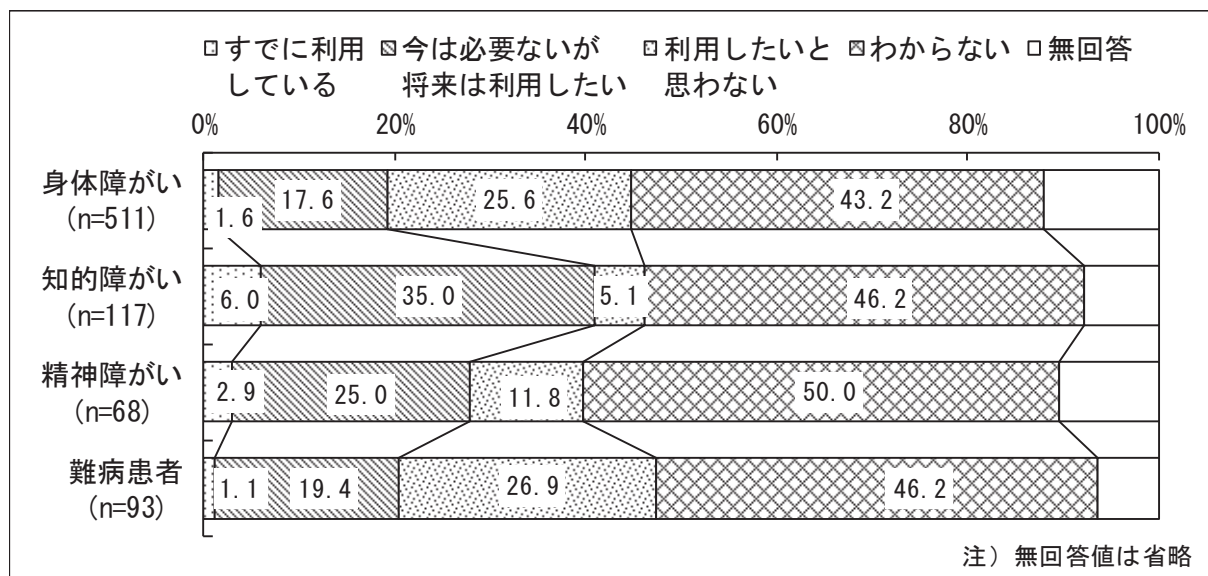
【経年比較】



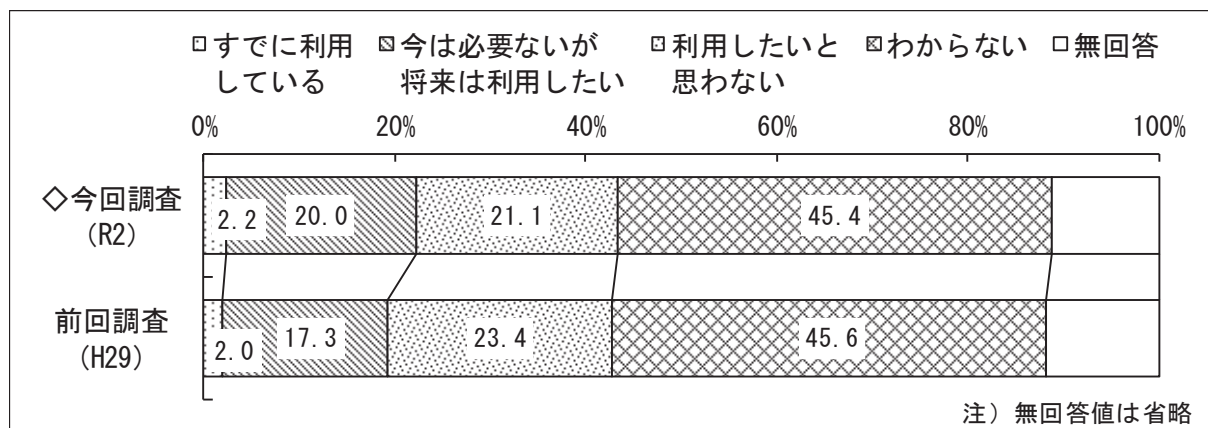
成年後見制度の利用意向については、“知的障がい”は「今は必要ないが将来は利用したい」が35.0%で特に高い。

経年比較をみると、全体で「すでに利用している」が2.2%、「今は必要ないが将来は利用したい」が20.0%で、前回調査と比べて若干増加した。

図 成年後見制度の利用意向（問31）



【経年比較】



第8節 潮来市の障がい福祉の取り組みについて

8-1 障がい福祉の取り組みの満足度

『ア. 障がいの理解を深める取り組み』、『ス. 相談窓口の使いやすさ』、『ケ. 健康相談、健康診査』の満足度が比較的高い。

潮来市の障がい福祉の満足度をみると、「満足」と「まあ満足」を合わせた満足は、『ケ. 健康相談、健康診査』が42.7%、『ス. 相談窓口の使いやすさ』が41.7%、『ア. 障がいの理解を深める取り組み』が37.3%で、満足度が比較的高い。

図 障がい福祉の取り組みの満足度（問32）

〔次ページに続く〕

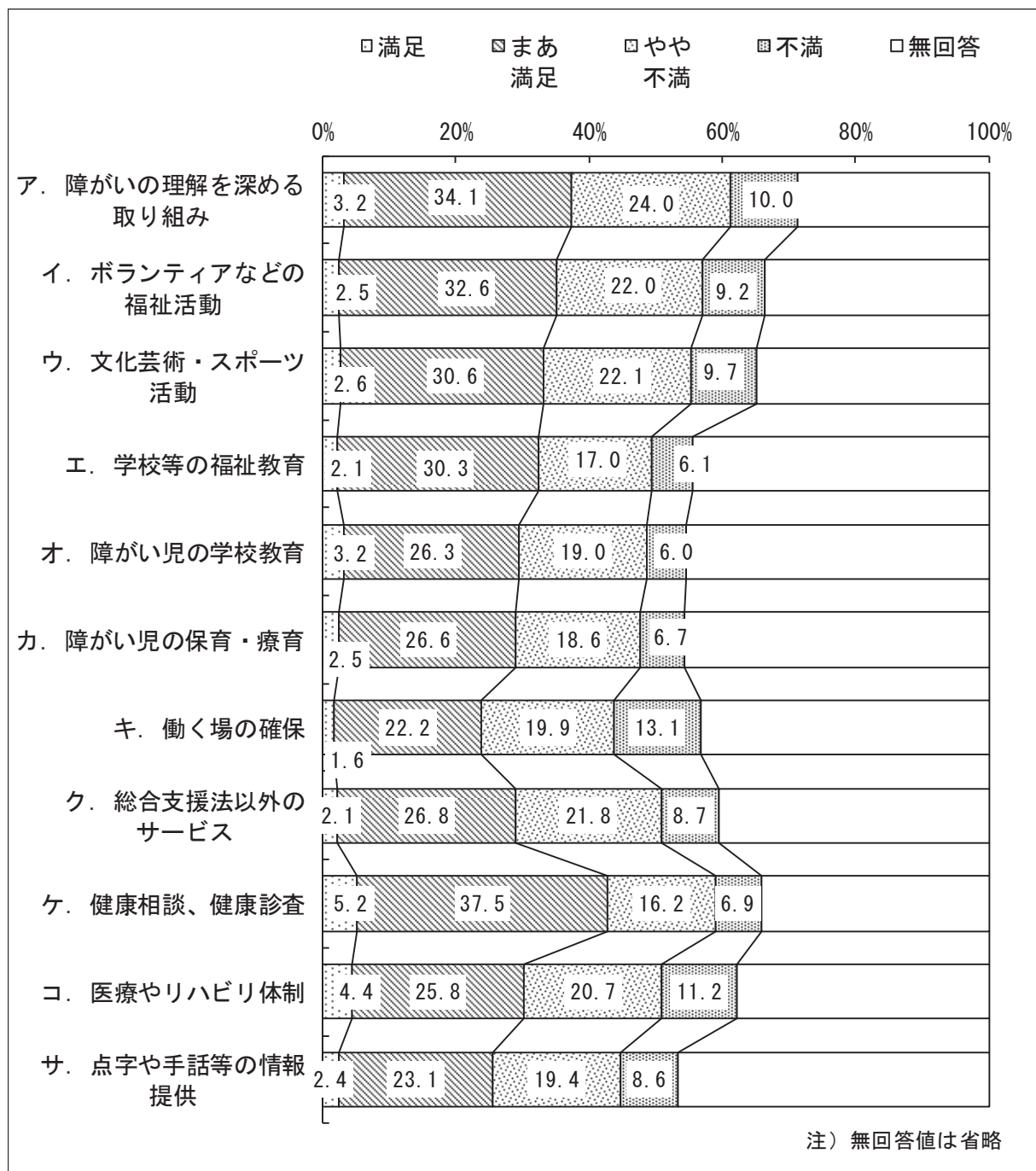
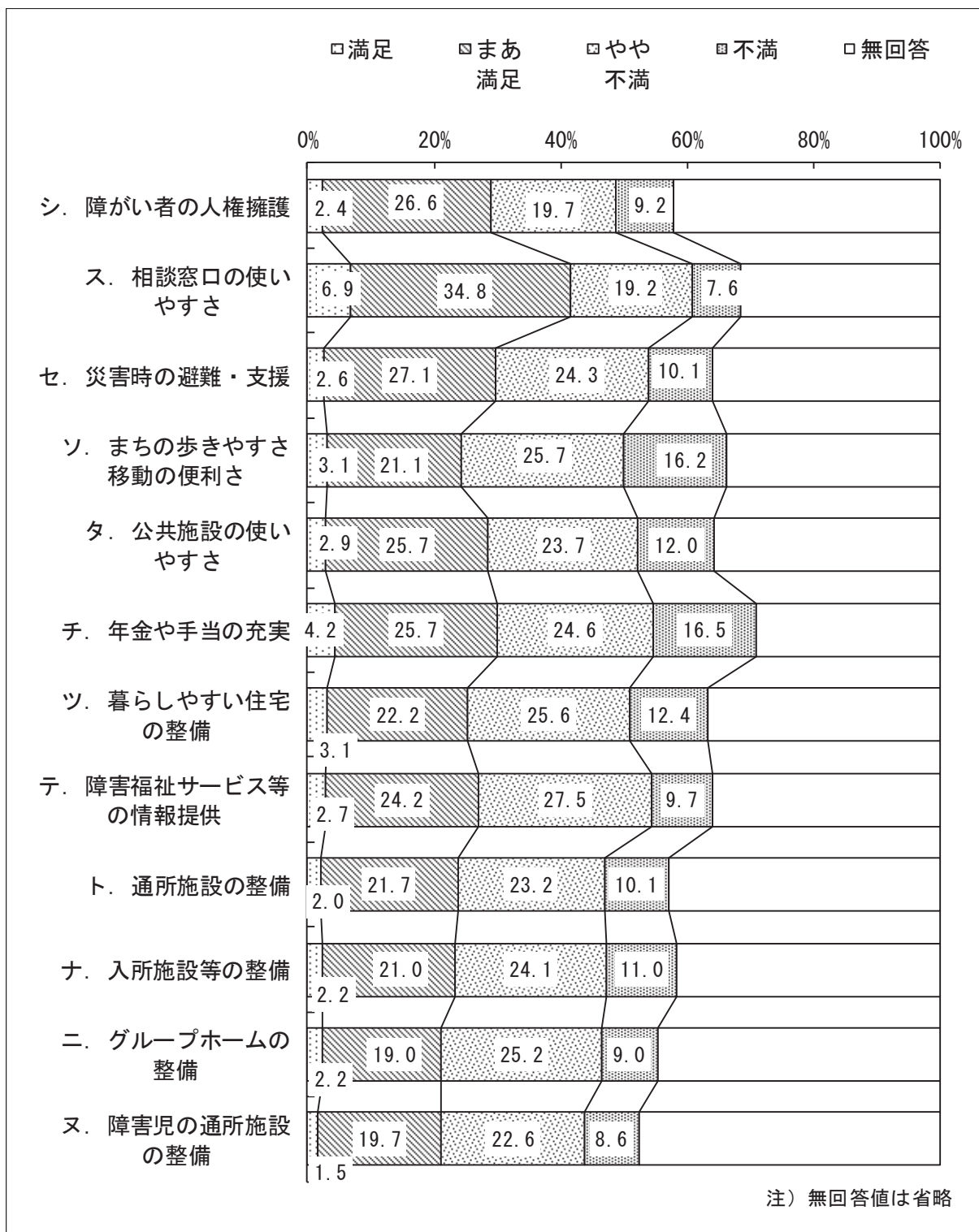


図 障がい福祉の取り組みの満足度（問 32）



(参考) 障がい福祉の満足度 (加重平均)

潮来市の障がい福祉の取り組みについて、満足度を加重平均で見ると、「ケ. 健康相談、健康診査」が 0.27 点、「ス. 相談窓口の使いやすさ」が 0.21 点で満足度が高い。

その一方、「キ. 就業・雇用対策」が-0.36 点、「ソ. 歩きやすさ移動の便利さ」-0.47 点で、不満が比較的高い。

図 障がい福祉の満足度 (問 32)

[次ページに続く]

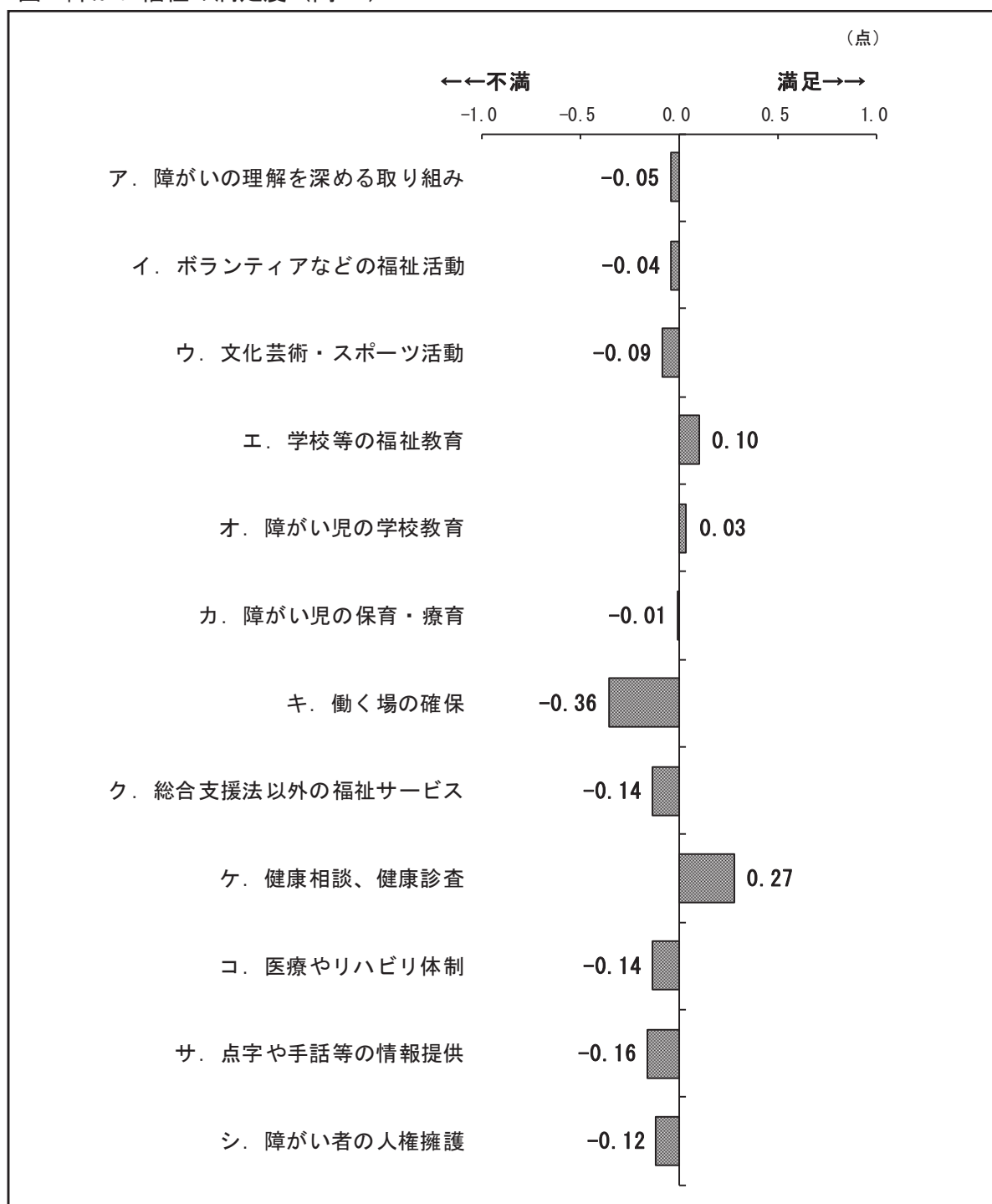
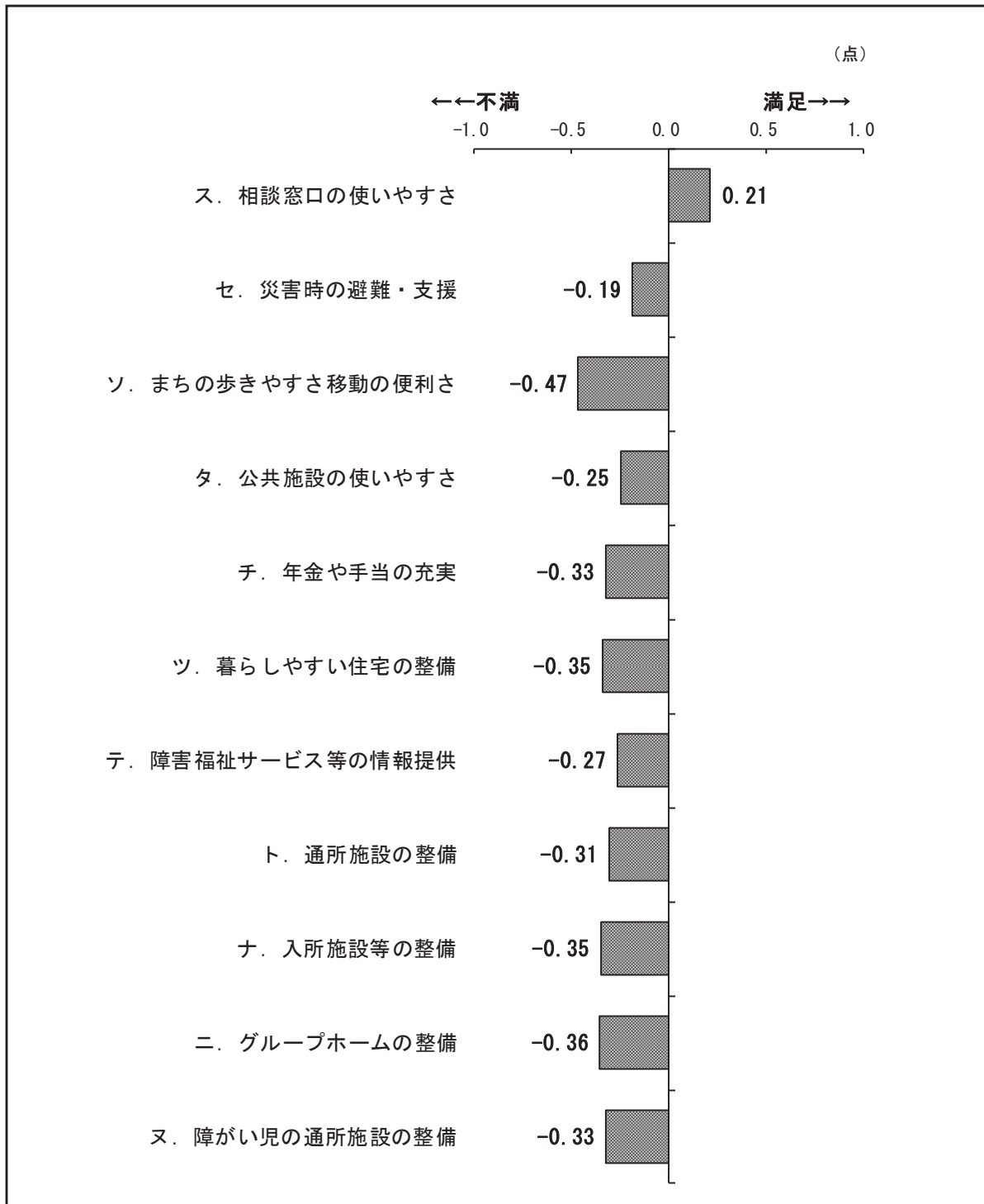


図 障がい福祉の満足度（問 32）



< 「満足度」の加重平均値の算出方法 >

各設問に対し「満足している」から「不満である」までの回答を加重平均値によって算出し点数化した。これは、選択肢のうち「満足」に+2点、「まあ満足」に+1点、「やや不満」に-1点、「不満」に-2点を便宜的に与え、回答構成から数値を求めるものである。

$$\text{点} = \frac{(\text{「満足」} \times 2 + \text{「まあ満足」} \times 1) - (\text{「やや不満」} \times -1 + \text{「不満」} \times -2)}{\text{回答者総数} - \text{「無回答」}}$$

(参考) 『満足度』 前回との比較

4段階評価の平均点で満足度をみると、特に『(カ) 障がい児への保育・療育』や『(ケ) 健康相談、健康診査』の評価が上がっている。また、全体の平均点も上がっている。

図 障がい福祉の満足度【4段階評価の平均】

(単位：点)

項 目	前々回 調査 (H26)	前回 調査 (H29)	今回 調査 (R2)	評価 (H26→R2)
(ア) 障がいの理解を深める取り組み	2.42	⑤ 2.43	2.43	0.01
(イ) ボランティアなどの福祉活動	④ 2.48	③ 2.46	2.43	▲ 0.05
(ウ) 文化芸術・スポーツ活動	③ 2.53	2.38	2.40	▲ 0.13
(エ) 学校等の福祉教育	⑤ 2.46	④ 2.44	③ 2.51	0.05
(オ) 障がい児の学校教育	2.41	⑤ 2.43	④ 2.49	0.08
(カ) 障がい児の保育・療育	2.11	2.42	⑤ 2.46	0.35
(キ) 働く場の確保	2.38	2.17	2.22	▲ 0.16
(ク) 総合支援法以外の福祉サービス	① 2.67	2.38	2.38	▲ 0.29
(ケ) 健康相談、健康診査	2.37	① 2.60	① 2.62	0.25
(コ) 医療やリハビリ体制	2.40	2.32	2.38	▲ 0.02
(サ) 点字や手話等の情報提供	2.41	2.33	2.36	▲ 0.05
(シ) 障がい者の人権擁護	⑤ 2.46	2.38	2.38	▲ 0.08
(ス) 相談窓口の使いやすさ	② 2.64	① 2.60	② 2.60	▲ 0.04
(セ) 災害時の避難・支援	2.28	2.27	2.35	0.07
(ソ) まちの歩きやすさ移動の便利さ	2.09	2.09	2.17	0.08
(タ) 公共施設の使いやすさ	2.33	2.30	2.30	▲ 0.03
(チ) 年金や手当の充実	2.08	2.14	2.25	0.17
(ツ) 暮らしやすい住宅の整備	2.25	2.18	2.25	0.00
(テ) 障害福祉サービス等の情報提供	2.21	2.18	2.31	0.10
(ト) 通所施設の整備	2.34	2.24	2.27	▲ 0.07
(ナ) 入所施設等の整備	2.24	2.21	2.25	0.01
(ニ) グループホームの整備	2.19	2.23	2.26	0.07
(ヌ) 障がい児の通所施設の整備	2.27	2.21	2.27	▲ 0.00
全体の平均	2.35	2.32	2.36	0.01

<「満足度」4段階評価の算出方法>

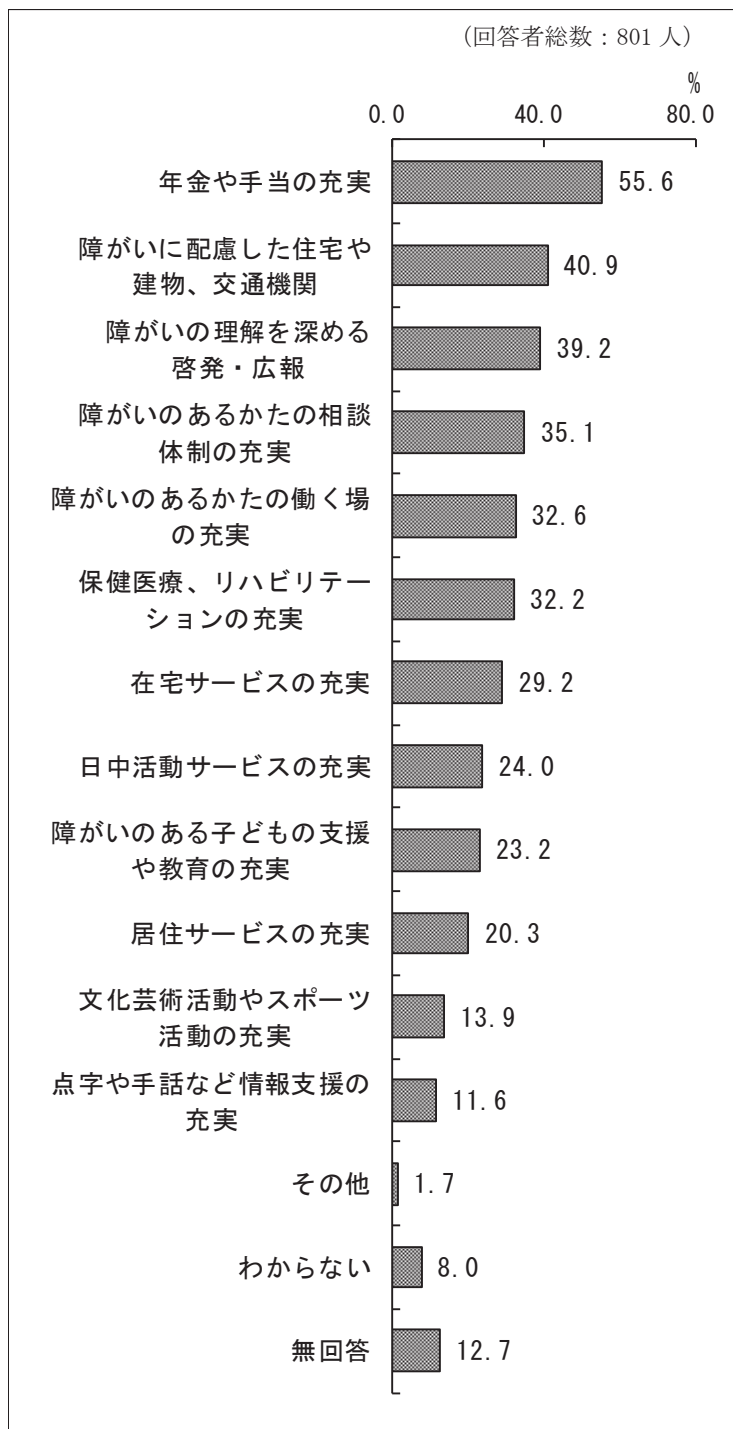
設問ごとに回答した人の選択肢で、「満足」4点、「まあ満足」3点、「やや不満」2点、「不満」1点をそれぞれ与え、無回答を除いた回答者数から平均点を求めた。(前回、前々回調査と同様)

8-2 障がい福祉の重点

「年金や手当の充実」が最も高く、次に「障がいに配慮した住宅や建物、交通機関」や「障がいの理解を深める啓発・広報」が続く。

障がい福祉の重点は、全体で「年金や手当の充実」が55.6%で最も高く、次に「障がいに配慮した住宅や建物、交通機関」が40.9%、「障がいの理解を深める啓発・広報」が39.2%で続く。

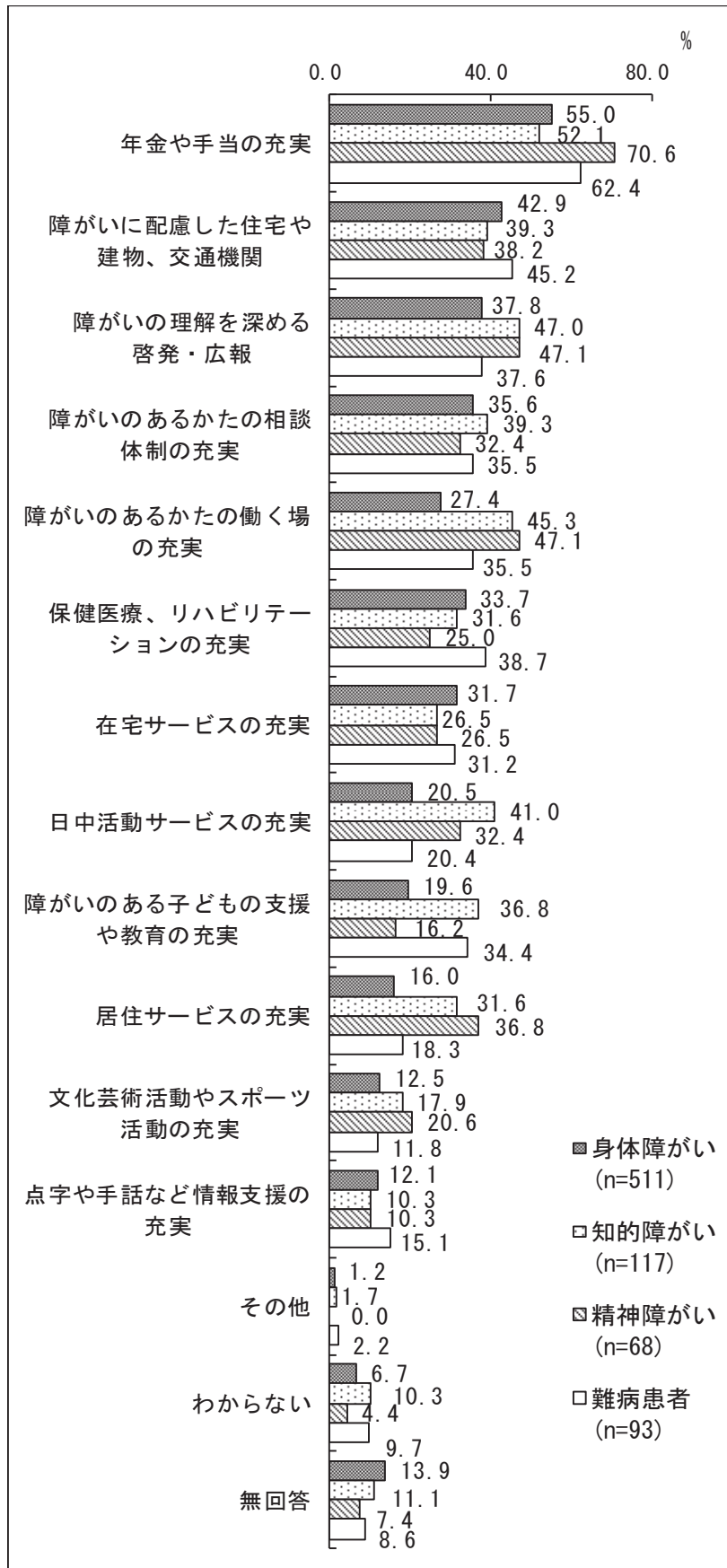
図 障がい福祉の重点（問33） 《複数回答》



障がい種別でみると、“精神障がい”は「年金や手当の充実」が70.6%で特に高い。

“知的障がい”や“精神障がい”は「障がいの理解を深める啓発・広報」や「障がいのあるかたの働く場の充実」も比較的高い。

図 障がい福祉の重点（問33） 《複数回答》



資料編

1 アンケート集計表

問1 この調査の記入者はどなたですか。[1つに〇]

回答者総数=801人

1. 本人（または、本人が答え 代筆者が記入）	520 (64.9)	3. 施設・病院職員（本人の 意向を考えて）	38 (4.7)
2. 家族（本人の意向を考えて）	204 (25.5)	4. その他の方（本人の意向を 考えて）	4 (0.5)
		無回答	35 (4.4)

あなたのことについて（封筒の宛名の方について）

問2 あなたの性別は。[1つに〇]

回答者総数=801人

1. 男性	394 (49.2)	2. 女性	395 (49.3)
		無回答	12 (1.5)

問3 あなたの年齢は。（令和2年7月1日現在） [1つに〇]

回答者総数=801人

1. 0～6歳	8 (1.0)	5. 40～49歳	76 (9.5)
2. 7～18歳	22 (2.7)	6. 50～64歳	138 (17.2)
3. 19～29歳	53 (6.6)	7. 65～74歳	197 (24.6)
4. 30～39歳	46 (5.7)	8. 75歳以上	251 (31.3)
		無回答	10 (1.2)

問4 現在、どのように（どこで）暮らしていますか。[1つに〇]

回答者総数=801人

1. ひとり暮らし	94 (11.7)	4. 仲間と一緒に（グループホーム）	18 (2.2)
2. 家族と一緒に	587 (73.3)	5. 病院に入院中	21 (2.6)
3. 福祉施設（高齢者や障がい者施設）	66 (8.2)	6. その他()	6 (0.7)
		無回答	9 (1.1)

問5 主な障がいや難病（特定疾患）の治療に関して、最近6か月の医療機関の受診状況を教えてください。[1つに〇]

回答者総数=801人

1. 入院・通院ともししていない	161 (20.1)	4. 入院と通院が半分くらい	18 (2.2)
2. 主に通院している	554 (69.2)	5. 主に入院している	25 (3.1)
3. 主に往診してもらっている	19 (2.4)		
		無回答	24 (3.0)

問6 あなたは、つぎのような手帳や受給者証をお持ちですか。[あてはまるものすべてに〇]

回答者総数=801人

1. 身体障害者手帳	511 (63.8)	4. 指定難病特定医療費受給者証等	93 (11.6)
2. 療育手帳	117 (14.6)	5. 障害福祉サービス(児童)受給者証	41 (5.1)
3. 精神障害者保健福祉手帳	68 (8.5)		
		無回答	45 (5.6)

▼身体障害者手帳所持者

◎身体障害者手帳の等級は。〔1つに○〕

回答者総数=511人

1. 1級	190 (37.2)	4. 4級	115 (22.5)
2. 2級	79 (15.5)	5. 5級	34 (6.7)
3. 3級	68 (13.3)	6. 6級	15 (2.9)
無回答			10 (2.0)

◎主な障がいは。〔1つに○〕

回答者総数=511人

1. 目が不自由（視覚障害）	33 (6.5)
2. 耳が不自由（聴覚障害・平衡機能障害）	44 (8.6)
3. 言葉が不自由（音声・言語・そしゃく障害）	13 (2.5)
4. 手足が不自由（上肢、下肢障害・体幹機能障害・脳原性運動機能障害）	227 (44.4)
5. 心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、免疫機能に障がい（内部障害）	185 (36.2)
無回答	9 (1.8)

▼療育手帳所持者

◎療育手帳の等級は。〔1つに○〕

回答者総数=117人

1. <input checked="" type="radio"/> A (マルA)	26 (22.2)	3. B	30 (25.6)
2. A	33 (28.2)	4. C	20 (17.1)
無回答			8 (6.8)

▼精神障害者手帳所持者

◎精神障害者保健福祉手帳の等級は。〔1つに○〕

回答者総数=68人

1. 1級	6 (8.8)	3. 3級	16 (23.5)
2. 2級	43 (63.2)		
無回答			3 (4.4)

障害福祉サービスについて

問7 あなたは「障害福祉サービス」を、利用していますか。〔1つに○〕 回答者総数=801人

1. 利用している	219 (27.3)	2. 利用していない	520 (64.9)
		無回答	62 (7.7)



「1. 利用している」人だけ、お答えください。

問7-1 利用している「障害福祉サービス」は、どちらですか。〔あてはまるものすべてに○〕

回答者総数=219人

1. 【居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、重度障害者等包括支援】 自宅で、食事や入浴、排せつ、家事の介助を受けるサービス	26 (11.9)
2. 【同行援護、行動援護、外出支援】 病院等の通院や外出の際、ヘルパー等が付添う移動支援のサービス	19 (8.7)
3. 【療養介護、生活介護、施設入所支援】 施設入所や病院などで、食事や入浴、排せつ等の介助を受けるサービス	70 (32.0)
4. 【短期入所】 家族が介助できないときに、短期間だけ施設に入所し介助を受けるサービス	26 (11.9)
5. 【自立生活援助】 居宅に訪問してもらい、必要な助言や医療機関との連絡調整を受けるサービス	11 (5.0)
6. 【共同生活援助】 グループホーム等で、介助や生活に関する相談等の支援を受けるサービス	21 (9.6)
7. 【自立訓練（生活訓練、機能訓練）】 福祉サービス事業所に通って、生活訓練や機能訓練を受けるサービス	37 (16.9)
8. 【就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、就労定着支援】 福祉サービス事業 所等に通って、就労に必要な知識や訓練、助言等を受けるサービス	31 (14.2)
9. 【地域移行支援】 施設や病院から地域での生活に移行するための相談や支援を受けるサービス	4 (1.8)
10. 【地域定着支援（ひとり暮らし等）】 居宅において、緊急時の相談等の支援を受けるサービス	1 (0.5)
11. 【放課後等デイサービス、日中一時支援】 学校の放課後など日中に、 福祉サービス事業所で、活動の場の提供、訓練等の支援を受けるサービス	27 (12.3)
12. 【児童発達支援】 未就学児童が、集団生活への適応訓練などの療育を受けるサービス	2 (0.9)
13. 【計画相談支援、障害児相談支援】 障害福祉、障害児福祉サービス利用の相談・調整を行うサービス	53 (24.2)
無回答	14 (6.4)

問7-2 現在、利用している「障害福祉サービス」には満足していますか。〔1つに○〕

回答者総数=219人

1. 満足	55 (25.1)	3. やや不満	25 (11.4)
2. ほぼ満足	98 (44.7)	4. 不満	8 (3.7)
		無回答	33 (15.1)

▼問7で「2. 利用していない」人だけ、お答えください。

問7-3 サービスを「利用していない」主な理由は。〔1つに〇〕

回答者総数=520人

1. サービスを利用する必要がない	322 (61.9)	3. 利用する方法がわからない	60 (11.5)
2. 自分にあったサービスがない	66 (12.7)	4. その他	40 (7.7)
無回答			32 (6.2)

すべての方にうかがいます

問8 現在、「障害福祉サービス」を利用している、利用していないに関わらず、今後（今後も）、利用したいサービスはどちらですか。〔あてはまるものすべてに〇〕

回答者総数=801人

1. 【居宅介護（ホームヘルプ）、重度訪問介護、重度障害者等包括支援】	158 (19.7)
2. 【同行援護、行動援護、外出支援】	140 (17.5)
3. 【療養介護、生活介護、施設入所支援】	182 (22.7)
4. 【短期入所】	110 (13.7)
5. 【自立生活援助】	132 (16.5)
6. 【共同生活援助】	47 (5.9)
7. 【自立訓練（生活訓練、機能訓練）】	94 (11.7)
8. 【就労移行支援、就労継続支援（A型・B型）、就労定着支援】	78 (9.7)
9. 【地域移行支援】	24 (3.0)
10. 【地域定着支援（ひとり暮らし等）】	70 (8.7)
11. 【放課後等デイサービス、日中一時支援】	51 (6.4)
12. 【児童発達支援】	15 (1.9)
13. 【計画相談支援、障害児相談支援】	65 (8.1)
無回答	228 (28.5)

※ それぞれの「障害福祉サービス」の内容は、問7-1の選択肢を参考にしてください。

教育や就労、社会参加について

問9 あなたは、平日の昼間、主にどのように過ごしていますか。〔1つに〇〕 回答者総数=801人

＜児童・生徒＞		33 (4.1)
1. 幼稚園や保育園、障害児通園施設、学校などに通っている	} → 問11へ	2 (0.2)
2. どこにも通っていない		
＜働いている人＞		148 (18.5)
3. 一般の企業等で働いている（自営も含む）	} → 問12-1、-2	33 (4.1)
4. 就労の訓練を受けながら働いている		
＜上記に該当しない人＞		361 (45.1)
5. 自宅で過ごしている	} → 問10-1	55 (6.9)
6. デイケア、リハビリに通っている		66 (8.2)
7. 施設に入所している		18 (2.2)
8. 病院に入院している		27 (3.4)
9. その他		58 (7.2)
無回答		58 (7.2)

▼問9で＜上記に該当しない人＞だけ、お答えください

問10 平日の昼間、どのように過ごしたいと思いますか。〔1つに〇〕 回答者総数=527人

1. 学校などに通いたい	4 (0.8)	4. 今の生活を続けたい	260 (49.3)
2. 一般の企業等で働きたい	16 (3.0)	5. とくにない	97 (18.4)
3. 就労の訓練を受けながら働きたい	17 (3.2)	6. その他	23 (4.4)
無回答		110 (20.9)	

▼問9で＜児童・生徒＞だけ、お答えください

問11 保育や教育について、どのようなことを望みますか。〔あてはまるものすべてに〇〕

回答者総数=35人

1. とくにない（だいたい満足）	5 (14.3)	
2. 通学、通園時の利便性の向上	7 (20.0)	
3. 園や学校の障がい特性に応じた設備の配慮	11 (31.4)	
4. 障がいのない児童生徒とふれあう機会の充実	8 (22.9)	
5. 先生や保護者の障がいや病気に対する理解	13 (37.1)	
6. 周りの子どもたちの障がいや病気に対する理解	16 (45.7)	
7. 地域の仲間づくりや居場所の整備	5 (14.3)	
8. 放課後や長期休暇中に利用できるサービスの充実	13 (37.1)	
9. 卒業後の情報や進路指導の充実	18 (51.4)	
10. 保育士や教職員の専門性の向上	15 (42.9)	
11. その他	1 (2.9)	
無回答		2 (5.7)

▼ 問9で<働いている人>だけ、お答えください

問12-1 今後、収入を得る仕事について、どのように思いますか。〔1つに○〕 回答者総数=181人

1. このまま仕事をしたい	165 (91.2)	2. 仕事はしたくない、できない	10 (5.5)
		無回答	6 (3.3)

問12-2 障害のある人が働きやすい環境をつくるには、なにが必要と思いますか。

〔あてはまるものすべてに○〕

回答者総数=181人

1. 通勤手段の確保	72 (39.8)	7. 就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	47 (26.0)
2. バリアフリー等の職場内の配慮	39 (21.5)	8. 障がいの程度にあった職種の増加	85 (47.0)
3. 短時間勤務や勤務日数など	44 (24.3)	9. 職場内での相談対応や支援	56 (30.9)
4. 在宅勤務の拡充	25 (13.8)	10. その他	1 (0.6)
5. 企業の障がい者雇用に対する理解	88 (48.6)	11. わからない	15 (8.3)
6. 障がいに対する上司や同僚の理解	85 (47.0)	無回答	18 (9.9)

すべての方に向かいます

外出や社会参加について

問13 あなたは、日常生活において、ひとりで外出できますか。〔1つに○〕 回答者総数=801人

1. ひとりで外出できる	438 (54.7)	3. 付添いがあっても外出は難しい	48 (6.0)
2. 付添いがあれば外出できる	292 (36.5)	無回答	23 (2.9)

問14 通勤・通学、通所、レジャーなどで、どのくらい外出しますか。〔1つに○〕

回答者総数=801人

1. ほとんど毎日	254 (31.7)	3. 月に数日くらい	170 (21.2)
2. 週に2~3日くらい	183 (22.8)	4. ほとんどしない(外出できない)	145 (18.1)
		無回答	49 (6.1)

問15 あなたは、今よりも外出する機会を増やしたいと思いますか。〔1つに○〕 回答者総数=801人

1. もっと増やしたい	177 (22.1)	3. もっと減らしたい	15 (1.9)
2. 今のままでよい	565 (70.5)	無回答	44 (5.5)

問16 あなたは、楽しみや生きがいを持って生活していると思いますか。〔1つに○〕

回答者総数=801人

1. そう思う	214 (26.7)	3. どちらかといえばそう思わない	136 (17.0)
2. どちらかといえばそう思う	296 (37.0)	4. そう思わない	106 (13.2)
		無回答	49 (6.1)

問17 あなたは、文化芸術活動やスポーツ活動などに参加していますか。〔1つに〇〕

回答者総数=801人

1. 参加している	114 (14.2)	3. 参加していない	538 (67.2)
2. 参加したいが、できない	112 (14.0)		

無回答 37 (4.6)

問18 障がいのある方が地域や社会に積極的に参加していくために、どのようなことが大切だと思いますか。〔5つまで〇〕

回答者総数=801人

1. 文化芸術・スポーツ活動の充実	139 (17.4)
2. 利用しやすい施設の改善	368 (45.9)
3. コミュニケーションの手段（手話や点字など）の確保	73 (9.1)
4. 移動のためのサポート（福祉車両や介助者）の確保	285 (35.6)
5. 交通機関の利便性の向上	296 (37.0)
6. 障がいに対する理解を深める広報や福祉教育の充実	245 (30.6)
7. 参加を補助するボランティアなどの育成	160 (20.0)
8. 家族の積極的な参加	107 (13.4)
9. 障害者自身の積極的な参加	194 (24.2)
10. その他	19 (2.4)
11. とくにない	119 (14.9)

無回答 69 (8.6)

相談・情報提供について

問19 あなたは、相談ごとがあったとき、まず、どこに相談していますか。〔3つまで〇〕

回答者総数=801人

1. 市役所の窓口	306 (38.2)	8. 知的障害者相談員	11 (1.4)
2. 相談支援事業所	67 (8.4)	9. 民生委員	47 (5.9)
3. 障害福祉サービスを提供する事業所	140 (17.5)	10. インターネットの書き込み	21 (2.6)
4. 病院・医院	326 (40.7)	11. 学校の先生	19 (2.4)
5. 保健センター	27 (3.4)	12. 潮来保健所や福祉相談センター	53 (6.6)
6. 社会福祉協議会	97 (12.1)	13. 障がいや病気に関連した団体など	32 (4.0)
7. 身体障害者相談員	39 (4.9)	14. その他	127 (15.9)

無回答 72 (9.0)

問20 福祉サービスや日ごろの生活について、必要な情報を集めたり、相談したりするときに困ることがありますか。〔あてはまるものすべてに○〕 回答者総数=801人

1. どこに相談すればよいかわからない	213 (26.6)
2. 近所に相談するところがない	64 (8.0)
3. しっかりと相談にのってもらえるのか不安	197 (24.6)
4. 障がいや病気に対応した相談体制や情報がない	156 (19.5)
5. 相談先で、周りの人にまで相談内容が聞こえてしまう	80 (10.0)
6. とくにない	291 (36.3)
無回答	103 (12.9)

災害対策について

問21 あなたは、火事や地震などの災害時に一人で避難できますか。〔1つに○〕 回答者総数=801人

1. 一人で避難できる	330 (41.2)	3. 一人で避難できず、助けてくれる人もいない	57 (7.1)
2. 一人で避難できないが、助けてくれる人がいる	341 (42.6)	4. その他	31 (3.9)
無回答		42 (5.2)	

問22 あなたは、災害時に心配に思うことがありますか。〔あてはまるものすべてに○〕 回答者総数=801人

1. 投薬や治療がうけられない	360 (44.9)
2. 補装具の使用が困難になる	70 (8.7)
3. 補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	84 (10.5)
4. 救助を求めることができない	106 (13.2)
5. 安全なところまで、迅速に避難することができない	282 (35.2)
6. 被害状況、避難場所などの情報が入手できない	140 (17.5)
7. 周囲とコミュニケーションがとれない	138 (17.2)
8. 避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	418 (52.2)
9. とくにない	116 (14.5)
10. その他	19 (2.4)
無回答	57 (7.1)

問 23 日ごろから災害に備えていることがありますか。〔あてはまるものすべてに○〕 回答者総数=801人

1. 避難場所や避難経路の確認	189 (23.6)
2. 自主防災組織(自治会、区)や民生委員等と避難方法を確認	47 (5.9)
3. 避難を手助けしてくれる人の確保	96 (12.0)
4. 非常用持出袋の用意	148 (18.5)
5. 災害に関する情報の入手	104 (13.0)
6. 緊急連絡先など家族や友人との連絡手段	272 (34.0)
7. とくにない	259 (32.3)
8. その他	19 (2.4)
無回答	71 (8.9)

障害者差別解消法について

問24 あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする(した)ことがありますか。〔1つに○〕

回答者総数=801人

1. ある(あった)	243 (30.3)	2. とくにない	494 (61.7)
		無回答	64 (8.0)

問24-1 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。〔あてはまるものすべてに○〕

回答者総数=243人

1. 学校など教育の場	57 (23.5)	5. 買い物やレジャーの外出先	90 (37.0)
2. 会社など就労の場	72 (29.6)	6. 病院など医療機関や施設	48 (19.8)
3. 地域の行事や集まり	60 (24.7)	7. 相談機関、相談窓口	16 (6.6)
4. 近所づきあい	59 (24.3)	8. その他	18 (7.4)
		無回答	4 (1.6)

問25 障害者差別解消法は、障がいのある人への「不当な差別的取扱い」を禁止し、障がいのある人が困らないように役所や会社・お店などに「合理的配慮の提供」を求めています。あなたは、この法律を知っていますか。〔1つに○〕

回答者総数=801人

1. だいたい内容は知っている	79 (9.9)	3. 知らなかった	470 (58.7)
2. 聞いたことはある	177 (22.1)		
		無回答	75 (9.4)

問26 潮来市民の障がいにある方に対する理解度はどのくらいだと思いますか。〔1つに○〕

回答者総数=801人

1. とても高い	22 (2.7)	3. どちらかといえば低い	404 (50.4)
2. どちらかといえば高い	148 (18.5)	4. とても低い	109 (13.6)
		無回答	118 (14.7)

問27 この数年で、障がいのある方に対する地域づくりは進んでいると思いますか。〔1つに〇〕

回答者総数=801人

1. 進んでいる	19 (2.4)	3. あまり進んでいない	181 (22.6)
2. ある程度進んでいる	143 (17.9)	4. 進んでいない	115 (14.4)
		5. わからない	281 (35.1)
無回答			62 (7.7)

問28 あなたは、将来、どのように(どこで)暮らしたいですか。〔1つに〇〕

回答者総数=801人

1. ひとり暮らしをしたい	87 (10.9)	4. 仲間と一緒に(グループホーム)に暮らしたい	36 (4.5)
2. 家族と一緒に暮らしたい	488 (60.9)	5. その他	23 (2.9)
3. 福祉施設(高齢者や障がい者施設)で暮らしたい	104 (13.0)		
無回答			63 (7.9)

問29 あなたの将来を考えたとき、とくに不安に思うことがありますか。〔3つまで〇〕

回答者総数=801人

1. 住まいのこと	142 (17.7)	9. 職場での付き合いのこと	15 (1.9)
2. 結婚のこと	34 (4.2)	10. 親に先立たれること	102 (12.7)
3. 健康のこと	366 (45.7)	11. この地域で生活を続けていくための福祉サービスが不十分なこと	78 (9.7)
4. 生活費のこと	252 (31.5)	12. 身のまわりの援助をしてくれる人がいるかどうかわからないこと	159 (19.9)
5. 医療のこと	197 (24.6)	13. その他	19 (2.4)
6. 仕事のこと	59 (7.4)	14. 不安はない	87 (10.9)
7. 近所との付き合いのこと	27 (3.4)		
8. 家族や親せきとの付き合いのこと	51 (6.4)		
無回答			68 (8.5)

問30 知的障がいや精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る「成年後見制度」があります。あなたは、この制度をご存知ですか。〔1つに〇〕

回答者総数=801人

1. 名前も内容も知っている	192 (24.0)
2. 名前は聞いたことがあるが内容は知らない	275 (34.3)
3. 名前も内容も知らない	246 (30.7)
無回答	88 (11.0)

問31 あなたは、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。〔1つに〇〕

回答者総数=801人

1. すでに利用している	18 (2.2)
2. 今は必要ないが、将来は利用したい	160 (20.0)
3. 利用したいと思わない	169 (21.1)
4. わからない	364 (45.4)
無回答	90 (11.2)

潮来市の障がい福祉の取り組みについて

問32 潮来市の障がい福祉への取り組みについて、あなたの「満足度」にあてはまるものを、それぞれ○をつけてください。

回答者総数=801人

	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	無回答
ア. 障がいに対するまち全体の理解を深める取り組み	26 (3.2)	273 (34.1)	192 (24.0)	80 (10.0)	230 (28.7)
イ. ボランティアなどの福祉活動	20 (2.5)	261 (32.6)	176 (22.0)	74 (9.2)	270 (33.7)
ウ. 行事やイベント、スポーツなど、地域での交流機会	21 (2.6)	245 (30.6)	177 (22.1)	78 (9.7)	280 (35.0)
エ. 学校などでの福祉教育	17 (2.1)	243 (30.3)	136 (17.0)	49 (6.1)	356 (44.4)
オ. 障がい児への学校教育	26 (3.2)	211 (26.3)	152 (19.0)	48 (6.0)	364 (45.4)
カ. 障がい児への保育・療育	20 (2.5)	213 (26.6)	149 (18.6)	54 (6.7)	365 (45.6)
キ. 働く場の確保（就業・雇用対策）	13 (1.6)	178 (22.2)	159 (19.9)	105 (13.1)	346 (43.2)
ク. 総合支援法以外の福祉サービス（自宅で受けられる支援など）	17 (2.1)	215 (26.8)	175 (21.8)	70 (8.7)	324 (40.4)
ケ. 健康相談、健康診査など	42 (5.2)	300 (37.5)	130 (16.2)	55 (6.9)	274 (34.2)
コ. 医療やリハビリの体制	35 (4.4)	207 (25.8)	166 (20.7)	90 (11.2)	303 (37.8)
サ. 点字や手話、字幕放送などによる情報提供	19 (2.4)	185 (23.1)	155 (19.4)	69 (8.6)	373 (46.6)
シ. 障がい者の人権擁護	19 (2.4)	213 (26.6)	158 (19.7)	74 (9.2)	337 (42.1)

（つぎのページに続きます。）

(続き)

	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	無回答
ス. 相談窓口の使いやすさ	55 (6.9)	279 (34.8)	154 (19.2)	61 (7.6)	252 (31.5)
セ. 災害時や緊急時の避難・支援	21 (2.6)	217 (27.1)	195 (24.3)	81 (10.1)	287 (35.8)
ソ. まちなかの歩きやすさ、移動の便利さ	25 (3.1)	169 (21.1)	206 (25.7)	130 (16.2)	271 (33.8)
タ. 公共施設の使いやすさ	23 (2.9)	206 (25.7)	190 (23.7)	96 (12.0)	286 (35.7)
チ. 生活の安定のための年金や手当の充実	34 (4.2)	206 (25.7)	197 (24.6)	132 (16.5)	232 (29.0)
ツ. 障がいがあっても暮らしやすい住宅の整備	25 (3.1)	178 (22.2)	205 (25.6)	99 (12.4)	294 (36.7)
テ. 障がい者福祉のサービスや制度の情報提供	22 (2.7)	194 (24.2)	220 (27.5)	78 (9.7)	287 (35.8)
ト. 通所施設、作業所の整備	16 (2.0)	174 (21.7)	186 (23.2)	81 (10.1)	344 (42.9)
ナ. 入所施設や短期入所施設の整備	18 (2.2)	168 (21.0)	193 (24.1)	88 (11.0)	334 (41.7)
ニ. グループホームの整備	18 (2.2)	152 (19.0)	202 (25.2)	72 (9.0)	357 (44.6)
ヌ. 障がい児の通所（あずかり）施設の整備	12 (1.5)	158 (19.7)	181 (22.6)	69 (8.6)	381 (47.6)

問33 障害のあるかたに対して、今後、どのような取り組みが重要と思いますか。

〔あてはまるものすべてに○〕

回答者総数=801人

1. 障がいのある方への理解を深める啓発・広報	314 (39.2)
2. ホームヘルプサービスなど在宅サービスの充実	234 (29.2)
3. 日常での生活や就労の訓練を行う日中活動サービスの充実	192 (24.0)
4. グループホームなどの居住サービスの充実	163 (20.3)
5. 生活の安定のための年金や手当の充実	445 (55.6)
6. 障がいのある方に配慮した住宅や建物、交通機関の整備	328 (40.9)
7. 障がいのある方の相談体制の充実	281 (35.1)
8. 障がいのある子どもの支援や教育の充実	186 (23.2)
9. 障がいのある方の働く場の充実	261 (32.6)
10. 保健医療サービスやリハビリテーションの充実	258 (32.2)
11. 文化芸術活動やスポーツ活動の充実	111 (13.9)
12. 点字や手話、字幕放送など情報支援の充実	93 (11.6)
13. その他	14 (1.7)
14. わからない	64 (8.0)
無回答	102 (12.7)

▼ 最後に、障がい福祉に関するご意見、ご要望がありましたら、お聞かせください。

2 自由記述

アンケート調査では、障がい福祉に関するご意見、ご要望を把握する自由記入欄を設けた。

主な意見の内容は以下のとおり。（主な意見は原文のままですが、誤字脱字の訂正、個人名の記述など一部抜粋しています。）

【身体障害者手帳所持者】

主な意見	性別	年齢
◇ どんな事をしてもらえるのか？出来るのか？よくわかりません。どこに問い合わせをしたらよいのか。	女性	7～18歳
◇ 障がい者で車の運転が難しい人には、タクシー券の増産が必要だと思う（または交通機関を過ごしやすいように増やす）。障がい福祉サービスのPRが必要だと思う。障がい者が不十分な暮らしにならないようもっと配慮した方がよい。潮来市に住んで良かったと思う町にしてほしい。	女性	19～29歳
◇ 障がいのある人に優しい街になってほしい。障がい者やその家族に対する手当を充実させてほしい。	女性	30～39歳
◇ 潮来市はリハビリ施設がなく不便です。災害時の本人への連絡、安否確認の充実。近隣の病院に行くにも交通手段が少なく、タクシー券を配布されていますが、ワンメーター分では賄えないと思います。パソコン講習会などの開催（仕事・他とのコミュニケーション等に使えるように）。	男性	30～39歳
◇ 移動手段におけるサービスの充実。医療機関の受診等の移動ではなく、潮来バスターミナルまでの送迎や買い物などの私用での外出で利用できるサービスがあればありがたい。	女性	30～39歳
◇ 1、2級だけお金が支給されるのではなく、手帳を持ったら何級だろうと支給されるべき（金額的に）。	女性	40～49歳
◇ 災害があった時、避難場所が遠く、足が悪いため行くことが困難。避難場所に着いても食事の面で制限があるので難しい。	女性	40～49歳
◇ みんなが平等な生活を送ることが出来る社会を！！	男性	50～64歳
◇ 内部障がい者が気がねなく働ける場所を充実させていただきたいです。	男性	50～64歳
◇ 安心して生活が出来るような街づくりをお願いしたいと思います。	女性	50～64歳
◇ 段差のない道路を作ってほしい。	女性	50～64歳
◇ 障がい者には、他人にはどうしても理解されない事が、その人その人、皆違った問題をかかえていると思います。その事を障がい者が相談に行くのではなく、障がい者に登録されている一人一人すべての人に福祉の人が出向いて行き、様子を見て、話ができる人には困った事や不安な事はないかと聞いて歩くのが一番ではないかと。	女性	50～64歳
◇ 障がい者に限らず、高齢者に対する対応が悪いです。	男性	50～64歳
◇ 障がい者本人に対して福祉サービスの情報提供。	男性	50～64歳
◇ 身近にお住いの障がいのある方への地域社会の関心が低く（薄く）、関わりを持ち始めた者が何から何まで支援せざるを得なくなる今の状況は改善されるべきである。	男性	50～64歳

(身体障害者手帳所持者)

主な意見	性別	年齢
◇ 本人は在宅を希望していますが、これ以上症状が悪化した場合を想定すると、在宅は難しいです。インスリン注射を1日数回行っている為、看護師さんが常駐している施設でないとい入れないのですが、数が少なく金額も高いので、この先の在宅介護には不安しかありません。	男性	50～64歳
◇ 安心・安全な街を願いたい。	男性	50～64歳
◇ 金銭に関する事への不満、働けないのに税金が大変です。どうすれば良いのか？	男性	50～64歳
◇ マル福をありがたいと思っています。が、できれば、封書の表面に「マル福」を記載するのを止めていただけないでしょうか。車いすですどこでも行けたり、出先でも不便がない(トイレ、少しの段差、少しの階段、バスの乗降、車いすを出し入れできる駐車スペースなど)設備が整った街、互いを思いやる人が多い街(みんながルールを守る、ゴミを捨てない、自分も人も大事にする)づくりなど、新しいイベントや目玉となる企画などではなく、基本的なことを整備していくことが、障がい福祉になっていくと思います。	女性	50～64歳
◇ 発達障害児の学びスペースや遊びスペースを増やしてほしい。通学路にスクールゾーンを道路にマークが欲しいです。あと交差点。障害3級以上でも何か手当があると良いです。働ける時もあれば、出来ない時もあるので、そういった時の保障などあれば良いなと思います。	女性	50～64歳
◇ 市道の整備、雑草処理、水たまり対策、路肩の整備(自転車、歩行等)、街路灯の修理、設置数見直し。市の窓口担当者の対応。	男性	65～74歳
◇ もう少し、障がい者への理解を深めるための広報等の充実が必要では？	男性	65～74歳
◇ これから先がいつも不安。心のよりどころや人のかかわりあいを望む。	女性	65～74歳
◇ タクシー利用の時、障害タクシー券が使えない時がある(通院の時など)。	男性	65～74歳
◇ 情報提供が弱い。福祉、福祉と言っているながら、道の駅のバスの廃止など、もっと利用者の声を聞いてほしい。	女性	65～74歳
◇ 厚生年金を受給しているが、障害者年金の手当充実してもらいたい。	男性	65～74歳
◇ 私は肢体不自由ですが、先日十年振りにブーツ型の靴を作る事になりましたが、とても金額の高さにびっくりしてしまいました。自分の右足になってくれる靴と思い、作る事にしましたが、潮来市だけでなく茨城県からの補助金もあっても良いのではないかと思いました。	女性	65～74歳
◇ 現状は人の手を借りなくても自立して生活可能ですが、先行き年を取った時に不安である。	男性	65～74歳
◇ 私としては、市役所窓口に行っても、きちんと対応してもらえるので満足です。	男性	65～74歳
◇ 交通機関を利用する時に障害者手帳を示して下さいと言われるが、見える所に文章で書いておいてほしい。障がい者には、交通機関の無料パスがほしい。県営住宅に住んでいると、役員をやらないと出ていってもらうと言われているが、障がい者は行動が出来ないため、無理なのに、出ていかなくてはならないのか。出ていきたくてもお金がないので出ていけない。	男性	65～74歳

(身体障害者手帳所持者)

主な意見	性別	年齢
◇ 私の場合、聴覚障がいなので会社の会話とかに支障をきたす為、どうしても遠慮がちになってしまう。それぞれの障がいに対して社会全体が理解を深めるよう、日本人としての優しさ、気づかいをとりもどす教育をしてほしい!!	女性	65～74歳
◇ 福祉事務所に手話ができる人に居てほしい。わからない所、相談したい気がいっぱいある。	女性	65～74歳
◇ 手話通訳者(手話できる人)が、潮来市福祉事務所にいてほしい。わからないことで話したい気持ちがいっぱいある。又、聞きたい所がある。	男性	65～74歳
◇ 各福祉相談窓口職員の知識不足を強く感じる(体験、経験不足から?)。	男性	65～74歳
◇ 質問内容がいろいろで答えるのがむずかしいです。例えば仕事をしている人と無職の人では質問が違ってくるのではないかと思いました。	男性	65～74歳
◇ 潮来市福祉事務所と社会福祉協議会の役割の違いがよくわかりません。身体障害者手帳が出ることになってはじめて受けられるサービスを知りました。助かってます。「障害福祉サービス」の具体的内容が良く分からない。障害者が公的支援を気兼ねなく受けられるよう、全世代の方の意識改革をしてもらいたい。	女性	65～74歳
◇ 本当の心ある対応と実行力を求めます。	男性	65～74歳
◇ 障がいのことをわかってもらいたい。もっと人間として、障がいのことをわかるように。自分が障がいになった時、どのようにするか思っていない。	女性	65～74歳
◇ 今回、後期高齢者医療費が上がりました。年金から引き落としですが、一度に一万円程のアップは年金生活者にとってはとてもきついです。なんの相談もなしに紙切れ一枚で、決して安くはない後期高齢者医療費、なぜ0.5%も高くするのですか?潮来市に総合病院の設置を希望します。	男性	65～74歳
◇ 先日、ハザードマップをいただきに行きましたところ、入口のスタンドには無く、係長さんが奥から出してきてくださいました。「潮来市保存版防災パンフレット」という冊子になったものです。災害時の備えが記されていましたが、洪水ハザードマップ(P11、12)が小さくて、水害時、どこに避難できるかが明確でないので、一枚の大きな地図があれば助けになります。	女性	65～74歳
◇ 障がい者でも大変ですが、全ての市民の子供達が安心して通学、生活出来るように対応して下さい。特に母子家庭の方々には手厚い応援、支援をして下さい。障がい者でも元気な方も沢山いると思います。	男性	65～74歳
◇ こまった時にどこにどうやって連絡したら良いのかが分からない。こんな事で、とってしまう。	女性	75歳以上
◇ 年金制度の見直しをしてほしい。	男性	75歳以上
◇ 相談や手続きをする時の移動が出来ない。	女性	75歳以上
◇ 施設に入所できるか不安。生活できない。	女性	75歳以上
◇ 市内(図書館等)の公共施設利用する為、交通機関を考えて。足のない人、高齢者(運転の出来ない人)。	男性	75歳以上
◇ 水道、電球、ちょっとした修理及び交換(高所)。将来、通院、買い物の足(重量のある物)。	女性	75歳以上

(身体障害者手帳所持者)

主な意見	性別	年齢
◇ 介護保険料を支払っている 85 才の老女。日中 1 人暮らし、月に 1 度ぐらいの福祉サービスがほしいです。	女性	75 歳以上
◇ ①移動手段や食料の買い物が不便。バスには GPS を設置し、その位置が分かるようにしてほしい。②防災無線が全く役立っていない(聞き取れない)。各家庭に FM ラジオなどの専用機の設置を希望したい。	男性	75 歳以上
◇ 一人暮らしの人が安心して暮らすするには本人の首にポケベル、もしくは TEL みたいにプッシュ押すと連絡が取れるようにして頂きたい。夜が安心する。	女性	75 歳以上
◇ 乗合大型タクシー等、病院、スーパーなど身近な所に行くのがとても不便。市としての老人に対して便利になるようお願い致します。	女性	75 歳以上
◇ 実際に利用できるサービス等(身体障害者手帳で)よく理解出来ていない(使えるサービスが無い)。身分証明書くらいしか役立っていないように思う。わかりやすい広報とサービスの提供を希望する。	女性	75 歳以上
◇ 障がい者はリハビリや訓練によって社会復帰が出来る。鹿島病院の様なハード、ソフトが潮来市は非常に遅れている。	男性	75 歳以上
◇ 現在の生活は年金で、その中で潮来福祉へ医療器具等の申込み割引等で生活していますが、町内会より寄付金が来るのが困っている。	男性	75 歳以上
◇ 所得のある方は多額の税金を納めているので、マル福除外はすべきでない。保険料も多いし。	男性	75 歳以上

【療育手帳所持者】

主な意見	性別	年齢
◇ アンケートの結果を知らせてほしい。市内の福祉サービスを知りたい(どういったサービスがあるのか、自分で調べないと知ることができないので…)。アンケートをとって、どこを改善するのか、改善したのかをお知らせしてほしいです。	男性	7～18歳
◇ 放課後デイサービス、利用時間延長等出来ると助かる。生活訓練等が充実した短期入所施設があると良い。相談先が役所の場合、担当者が変わってしまうので詳しい人が常にはいない。幼少期から保健センター、家庭相談員等専門性のある方がいないので困りました。情報が少なすぎます。	男性	7～18歳
◇ 障害者全般のアンケートとしては良いと思います。在宅と施設入所とアンケートの質問項目を分けてもいいのでは。施設入所中の方では質問内容により答えられない、判断ができないものもありました。	男性	19～29歳
◇ 障がい者への対応ができる自動車教習所があると大変助かります。	男性	19～29歳
◇ 現在、放課後デイサービスを利用しています。潮来市は事業所が少ないので、利用する所に限られます。定員もいっぱい、なかなか思うように利用できず、他市の事業所を利用せざるをえません。他市なので送迎も大変です。潮来市に事業所が増えれば、もっと利用しやすいと思います。	女性	30～39歳
◇ 私は障がいがあっても仕事もしてますし、趣味もあります。でも友達がいまません。家族とも仲良しなのでさびしくはありませんが、もっと交流の場があったらいいなと思います。たまに「まつぱっくり」さんからお誘いがありますが、年間数回なので月一回ぐらいは集いがあったらうれしいです。	女性	30～39歳
◇ 施設のハード面はアンケートでもよいと思いますが、障がいについては、その人によって必要な手助けや補助が違うので、個人に細かいサポート、聞き取りをしていただきたい。障がいを持ち困っている人のために相談員や補助員を増やすことにお金を使ってほしい。	男性	30～39歳
◇ 子どもに発達障がいがあるとわかると、学童をやめろ、と言われた。コミュニケーションがとれないと言われ、事前に何回も相談しに行き、大丈夫と言ったのに。全く理解してもらえてないと思う。	女性	30～39歳
◇ (代筆者は本人の担当の施設職員です) ご本人様は、日中活動の一環として、平日の晴れた日には歩行訓練の為、県民の森の散策に出掛けるのが日課です。最近では、一般の歩行(ウォーキング)中の方から声をかけられたり、笑顔であいさつやハイタッチをして頂く機会も増え、とても有り難く思っております。雨だとこの活動が出来ず、行き場がなくなってしまうので、雨天でも使えるウォーキング施設が出来たらとても助かります。	女性	30～39歳
◇ 近くの施設に入所したい。知的障がいの子ども、親の亡きあとどうなるのか、とても心配だ。	男性	30～39歳

(療育手帳所持者)

主な意見	性別	年齢
◇ 親からの意見です。子どもが小さい時代には“相談”できる窓口はほとんどなく、あっても何の方向も見い出せず、病院といえば車で1時間以上かかるところでなければ受け入れられず、右も左もわからず独学で日々必死に子育てしておりました。今は成人して通所していますが、親なき後のことは雲をつかむようで不安ばかりです。ハンデがあっても普通に生きていける世の中に1日も早くなってほしいと日々思っております。	女性	30～39歳
◇ 障がいがあっても生活が充実している。	男性	40～49歳
◇ 施設入所中ですが、市のご配慮で安心して過ごしています。施設に対する入所状況確認を随時お願いします。	男性	40～49歳
◇ 鹿行地区で一番遅れていると思います。	女性	40～49歳
◇ 生活の安定のため、年金や手当を充実(もう少し、あげてほしい)。	女性	40～49歳
◇ 知的障がいのある利用者様に聞いても返答はありません。理解できません。	女性	50～64歳
◇ 両親が高齢になった場合に、利用させたいと考えている施設がなかなか見つからない。高齢者施設は充実してきたが、障がい者施設は要望に対して対応が少ない。地域差があり、特に県南は足りていないと思う。	女性	65～74歳

【精神障害者保健福祉手帳所持者】

主な意見	性別	年齢
◇ 障がい者枠の仕事をもっと増やしてほしい。	男性	19～29歳
◇ 自分で車を運転することができないので、まずは交通機関の充実がないと、働くことも、1人で生活することもできません。	女性	30～39歳
◇ 精神障がい者の方も身体障がい者の人と同じように、サービスや「マル福」がもらえるようにならないのかなと思っています。なぜかと言うと、他の病院にかかった場合はふつうの人と同じようにお金がかかります。	男性	40～49歳
◇ 障害福祉課の対応は良い。地域で障害に対して知識が深まっていけば良いと思う。	女性	40～49歳
◇ 障害者年金を申請しましたが(数年前)通りませんでした。結婚して、子どもがいて、収入のある夫がいるから年金を受け取れないのはおかしいと思います。「茨城県は精神医療の暗黒地帯」と言われますが、その通りですね。障害者年金、申請した全ての人が受給されるようになってほしいです。	女性	40～49歳
◇ 精神的障害があり、市役所に色々おうかがいをたてたが、障害年金ももらえず。その人の身になって考えてほしいです。	女性	40～49歳
◇ 年金が心配である。	男性	50～64歳
◇ 自分がしっかりしていれば生活できると、自分では強く思っている。	男性	50～64歳
◇ 潮来市民より役所の方々が障がい者に対して理解や、コミュニケーションを取らなさすぎだと思います。	女性	50～64歳
◇ 最後は老人ホームに入るかヘルパーさんに自宅に入ってもらうか、足が歩けなくなった時の場合の事、身の回りをしてもらえるかどうか不安。1人暮らしの不安を感じています。	女性	65～74歳

【一般特定疾患医療受給者証所持者】

主な意見	性別	年齢
◇ クロウン病の場合、見た目は普通。就職もしたことはあるが熱が出やすく、薬のせいもあり免疫力低下でカゼを引きやすく仕事も休みがちで、入院も長引き退職して、それから家に“引きこもり”状態で先行きがとても不安だ。	男性	19～29歳
◇ この大変な時に、この様なアンケートを取っていただき、守られているなど、安心出来る所がありました。ありがとうございました。	女性	30～39歳
◇ 潮来市に大きな総合病院を早く作っていただきたい。	女性	40～49歳
◇ 年金や手当の充実。	女性	65～74歳
◇ 障がい福祉を考える場合、家族が希望するサービスを受けやすくすることが大切だと思います。ご本人の自立に向けての環境の整備とご家族のケアの両面をお願い致します。	男性	65～74歳
◇ 外出することも少なく、広報を読むくらいで、いろいろな取り組みをなさっていることを知らないことも多くありました。	女性	65～74歳
◇ 高齢になり今の所それなりの生活をしておりますが、車移動とか、一人暮らしになったりした時の事を考えると、要望とか不安は多々ありますが、現状の支援はそれなりに出来ていると思いますので、これ以上の悪化を望まないようにします。	女性	75歳以上
◇ 今回、アンケートという形になりましたが、調査結果をまとめ、公共施設で市の取り組みを報告、説明を早急をお願いします。又、質問等をうけて、介護者、障がい者の悩みを共有できないでしょうか。	女性	75歳以上

【重複障がい者】

主な意見	性別	年齢
◇ 日頃よりお世話になります。成年後見制度ですが、学習させていただきましたが、後見人をつけたときの月々の報酬が2万、3万と聞きますと、障がい年金から2、3万だして生活ができるかどうかと、福祉の制度や障がい者そのものに理解がある後見人かどうかと心配になり、制度を利用していません。大人になって、20代30代と思ってもよらない思春期、反抗期を乗り切るのは親だけではなく、第三者の方のかかわりが必要で、大事と思って毎日います。親ではできないこと、親しかできないことなど毎日考えています。30代になりつつあります。本人も親離れしたいところと、親にしか理解されていないところと複雑でジレンマがあります。青年期になった障がいのある方のそういう思いもご理解をお願いいたします。	女性	19～29歳 (身体・知的)
◇ 医療機関が不足していると思います。市内では全く足らず、市外に行かなくてはならないので、交通が不便です。	女性	30～39歳 (身体・知的)
◇ 障がい者が1人でも暮らせる環境をつくってもらいたい。空いている家とかを借りれるなら借りたい。	女性	30～39歳 (身体・知的)
◇ ホームヘルパーの介護の充実。	女性	65～74歳 (身体・精神)

潮来市
障がい福祉に関するアンケート
結果報告書
令和2年9月発行

〔発行〕 潮来市
〔編集〕 潮来市 市民福祉部 社会福祉課
Tel 0299 (63) 1111 (代) / Fax 0299 (80) 1410
〔調査・分析〕 ㈱まち研
